

世界の山旅 初境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

山上のホテルに泊まる

今年で36年目。アルプスツアーのロングセラー

最上のホテルに泊まるアルプス3大山群ゆったりコース

**アルプス3大山群・たっぷりの展望
ハイキング 9日間**

●大阪・名古屋・福岡

●8/20発.....¥448,000

**アルプス・スカイライン
ハイキング 9日間**

●大阪・名古屋・東京

●7/24発.....¥456,000
●8/4発.....¥464,000

**アルプス・スカイライン
ハイキング 12日間**

●大阪・名古屋・東京

●7/24発.....¥492,000
●7/29発.....¥450,000
●8/28発.....¥446,000

B.C.州とアルパイン州のロッカーをぐるりと一周

シンプルなお店で深い感動を味わう

コンパクトな日程でヘリ・ハイキングの醍醐味を満喫

**ロッキー5大国立公園
周遊ハイキング 9日間**

●大阪・名古屋・東京

●8/10発.....¥498,000
●8/31発.....¥466,000
●9/21発.....¥452,000

**アシニポイン・ロッジと
レイクルイス 8日間**

●大阪・名古屋・東京

●8/2発.....¥486,000
●8/25発.....¥448,000

**カリブー山群ヘリ・ハイキングと
ロッキー縦断 8日間**

●大阪・名古屋・東京

●7/18発.....¥516,000
●7/27発.....¥536,000
●8/14発.....¥544,000

アラスカを満喫！ ノンストップ直行チャーター便利用！

原野一面のお花畑と南アフリカ・ハイライト

極楽の秘境！ 手つかずの大自然が魅力

**マッキンリー展望ハイキングと
アラスカ周遊 7日間**

●東京

●7/16発.....¥438,000
●8/1発.....¥448,000
●8/26発.....¥398,000

**花の楽園・南アフリカ
ナマクワランド・ハイキング 12日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡

●8/24●8/31発.....¥548,000

**カムチャッカ半島ハイキングと
アバチャ山登山 8日間**

●大阪

●7/17●7/24発.....¥312,000
●8/7発.....¥336,000
●8/14●8/21発.....¥318,000

シルクロードに横たわるカザフ天山の核心部へ

ラッシュ・ファアリー・ピーク(5,098m)の頂へ

チベットのアルプスで幻の高山植物紀行

**天山核心部ヘリ・フライトと
フラワーハイキング 9日間**

●大阪・名古屋・東京・福岡

●7/21●8/4発.....¥398,000

**カラコルム5,000m峰
登山 11日間**

●東京

●7/22発.....¥318,000
●8/19発.....¥328,000

**東チベット探訪・ナムチャバルク展望と
キングドン・ウォードの軌跡を訪ねて 9日間**

●大阪・福岡

●8/10発.....¥398,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
札幌(旗りんゆう観光) 広島/☎082(542)1850(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でおリシカルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
キングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩き
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。

大峰山の行場見き 三浦 弘幸



百日紅（三月堂付近）

暮れゆく奈良の光の芸術
 古都の夜を華麗に演出する
 歴史的自然的景観豊かな奈良公園
 東大寺 春日大社
 浮見堂 猿沢の池
 七月一日から十月三十一日
 八月五日から十五日 奈良燈花会
 八月十四日・十五日 中元万燈籠
 八月十五日 東大寺万燈供養会
 八月十五日 大文字送り火
 大文字送り火を浮見堂前で見ると
 燈花会見て東大寺万燈供養会へ
 読経流れロウソクに照らされる
 高窓から浮き上がる大仏様
 幻想的な奈良を心ゆくまで味わう

奈良国立博物館・三ヶ月池（ライトアップ）

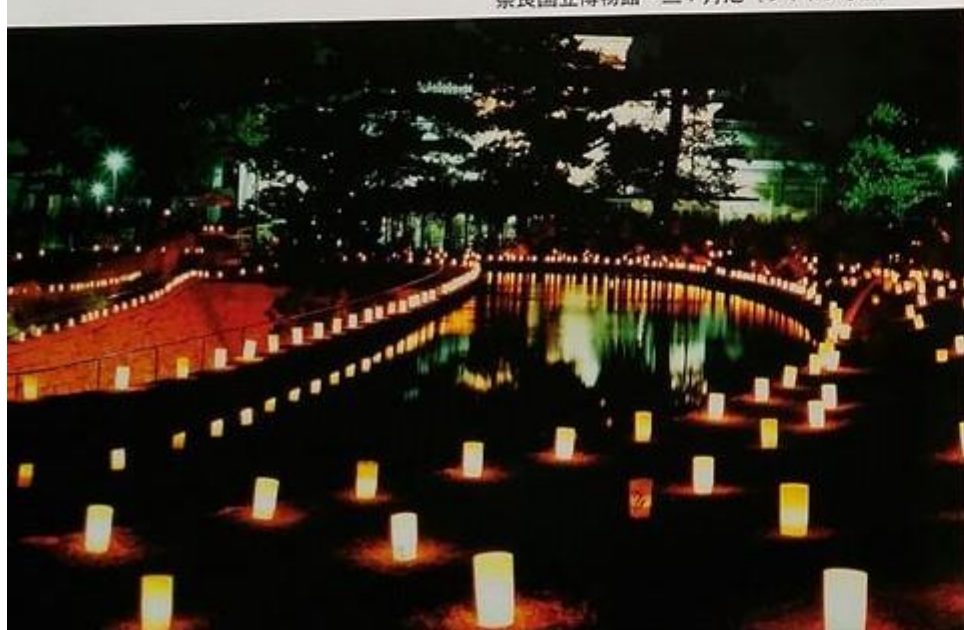
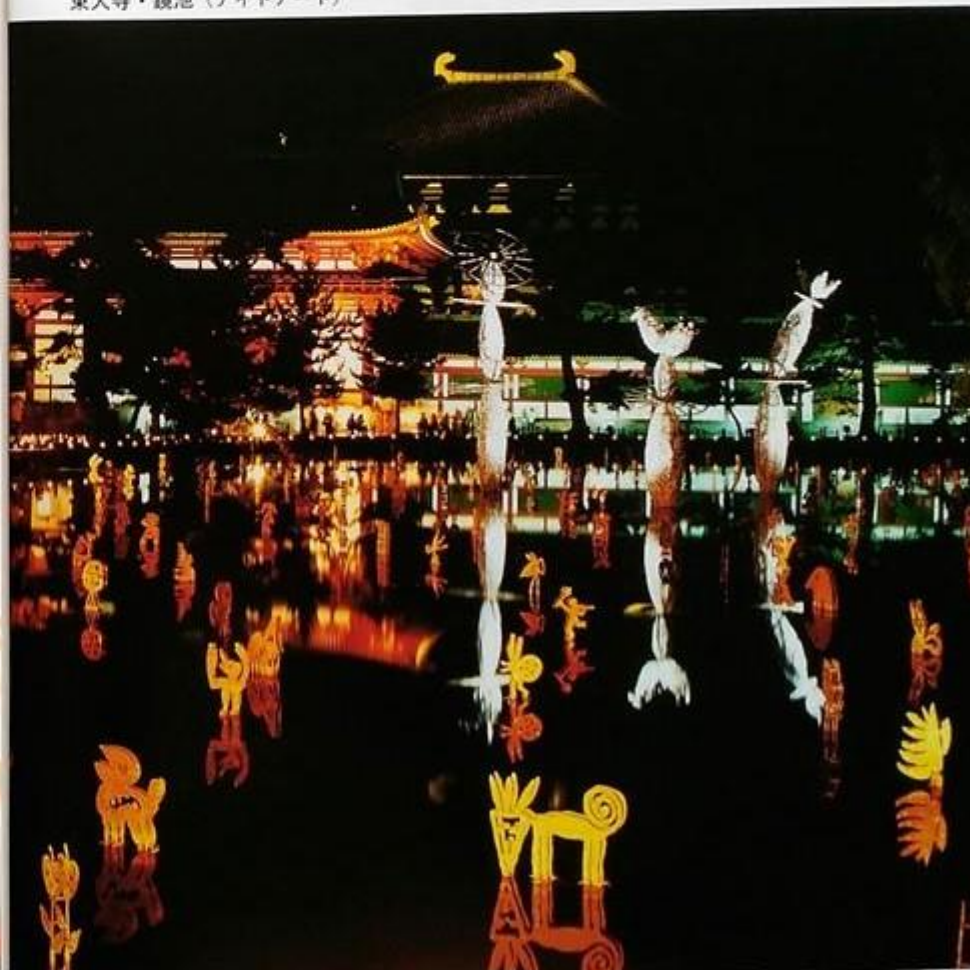


Photo essay



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

東大寺・鏡池（ナイトアート）



季節の



夜の登山道



星空

朝のお花畑



実景

盛夏

夜間登山（伊吹山）

撮影 武市通治



湖畔の灯

日の出





コバイケイソウと剱岳（剱御前より） 中川 光郎

光小屋より聖岳（南アルプス） 松田 敏男



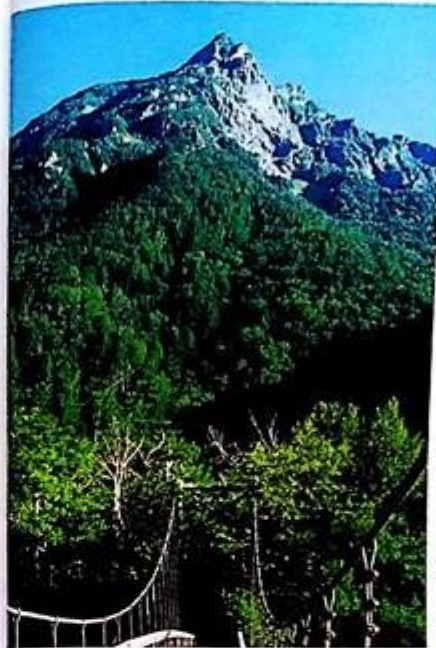
横沢岳から見た槍ヶ岳と西鎌尾根 武田 誠司

三ノ池（御嶽山） 一芝 義雄



夏の奥上高地明神(池)

奥田 英一郎



明神橋よりの長七の頭



爽やかに緑が揺れる



静寂の朝

新川伴が 8冊 関西の山
05年7・8月 盛夏 第83号

●目次

表紙：松田敏男「翁ヶ岳より翁岳を望む」(北アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳誌の編集多岐に亘る。(京都平安山岳会、南アルプス山岳会、東京キャリアー会、他) 京積山と親しむ会代表、日本山岳会会員

コース	ガイド	紀行	グラビア
① 九度山から慈尊院を訪ねて(谷野)	松永 恵一	日高連峰・ヘテガリ岳(北海道)	七夕
② 山(のレポート) 山の地名を歩く(谷野)	西尾 壽一	朝日岳・雲倉岳・白馬岳(北アルプス)	季節の実景(盛旦)「夜間登山(伊吹山)」
③ 山(のレポート) 北海道登山とエキノコックス	金谷 昭	翁ヶ岳から赤明岳(北アルプス)	三浦弘幸 武田誠司
④ 山(のレポート) 山には少しも安くない行こう	生駒 賢峰	刺岳・立山連峰縦走(北アルプス)	「芝罘」 中川光郎 松田敏男 奥田英一郎
⑤ 山(のレポート) 深田久弥先生と後方羊蹄山へ登る	岩野 伸浩	七種山・上谷山・伊那前岳	随想(山のエッセイ)
⑥ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	高島 明	三舞谷南方尾根登高(北良)	義経主従遊遊ルート
⑦ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩	ツェルマットでの7日間(ヨーロッパ)	低山歩きを楽しむ
⑧ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩	バジエラントレーデンを歩く(スウェーデン)	植物雑感四方山話
⑨ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩	マウンテン・ランド山岳マナー・セント・レンス山(イギリス)	
⑩ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩	運転 三角点を訪ねて	
⑪ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩	吾妻連峰の山、一切経山へ(吾妻連峰)	
⑫ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑬ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑭ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑮ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑯ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑰ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑱ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑲ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
⑳ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉑ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉒ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉓ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉔ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉕ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉖ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉗ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉘ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉙ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉚ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉛ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉜ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉝ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉞ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㉟ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊱ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊲ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊳ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊴ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊵ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊶ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊷ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊸ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊹ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊺ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊻ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊼ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊽ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊾ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		
㊿ 山(のレポート) 鈴鹿の伝説・伝承金峯塔尾壘場	岩野 伸浩		

巻頭言

1999年4月から先登を目指して始めた「近畿の山100名山に登る」例会も先日5月24日、大峰の「大普賢岳」で93山を教え、あと7山が残ることになりました。足かけ7年間で、今年中には全て登るつもりですが、ただ、大峰の「山上ヶ岳」はいまなお「女人禁制」でどうしようかと迷っています。大普賢岳に登った折も伯母谷親の手前分岐で大きな女人結界門を見ました。女性陣から「山上ヶ岳はどうするのですか」との質問を受け、「世界遺産に登録されたので、近いうちに女人禁制も解かれるでしょう」とは言ってみましたが、果たしてどうなるのでしょうか。内心では、今年中には全てを登りたいので、雪の降る前の年内に吉野から行く「山上ヶ岳」を計画したいと考えています。そして、洞川温泉で完登祝いも計画しています。それまでに女人禁制が解かれるとよいのですが、女性の方で勇気のある方の参加希望があればどうでしょうか。まさかお断りすることはできないでしょう。一日も早く女人結界門が無くなることを願っています。

新ハイキング関西(代表) 村田 賢俊



克

義経主従 逃避ルート

長宗 清司

春のサクラ並木で有名になつた北琵琶湖、海津大崎あたりの湖岸に、「義経の隠れ岩」といわれる高さ1・7m、幅2m四方の、人がかかんで隠れられるくらいの穴の開いた岩がある。

源義経は、兄の頼朝に協力して平家を壇ノ浦で滅ぼし、源氏の時代をつくつたが、戦上手で人気も兄を凌ぐようになったため頼朝に憎まれ、ついに追われる身となった。そして、北国海道から人目を避けて奥州平泉の藤原秀衡を頼って逃避することになる。

この際、義経主従がこの土地を通りかかったのは文治三年(1187)2月だった。義経たちがこの岩に隠れたかどうかは

わからないが、海津付近に上陸し、一時身を隠して北国へ落ちのびたことは間違いない。海津の町を離れ、北に向かう北国海道は昔、七里半越えといつた。この坂道は今の追坂峠である。

昔、天智天皇が大津京に遷都(667年)された頃、小荒路から敦賀への道は「あらし山道」と呼ばれていた。古代三國の一つである「愛発の関」(ほかに不暖、鈴鹿の関がある)が、海津から国境の越前国に入ったあたりには置かれていたから、ここから「あらし山道」と呼んだようだ。「野口」は小さな宿場として海津宿と山中宿(越前)を結んでいたらしい。険路にかかると旅人や馬借が宿泊や休憩をした。村はずれに「剣熊関之跡」と刻まれた小さな石碑が当時を物語るように建っている。野口を過ぎると道は知内川沿いに険路となり、谷間をぬって「路原」から国境の峠へと出る。峠付近

はかつてはさびしい国境の原だった。当時、この付近一帯を「あらし」と呼んだらしく、和歌・漢詩文・戦記物語などによく出てくる。官吏・歌人・文人・武士などが古代よりかなり往来していたと思われる。

有乳山 雲けの空になりぬれば
海津の里に みぞれ降りつつ
藤原仲実

この歌は、海津から有乳山をはるかに仰いで、雲の降りつづくなかにいる人の、寒々とした雰囲気のある寂しい一首である。この歌のほかにも数多くの歌に出てくる「あらし」は、いずれも雪の厳しい道の険しさを詠んでいる。統日本紀では、惠美押勝の乱で「愛発関」。平家物語・源平盛衰記・義経記などでは「愛発、荒乳、荒血」。太平記では「荒茅」。類聚国史では「荒道」などと「あらし」が出てくる。



克

随想

(山のエッセイ)

平家の大軍、義経主従、新田義貞軍など、木曾義仲にまつわる伝承も多く残っている。意気軒昂、あるいは傷心失意の武士たちはこの道を上下していたのだ。

私は先年、京都の山仲間とともに国道161号線の右の尾根筋を何度かに分けて、海津大崎寺裏の「東山」から「万路越」、そして「東ヶ谷山」「深坂峠」を縦走した。ついで、平成12年9月に野坂山地の左尾根を国境から乗鞍岳への尾根の分岐標点789mを北上し、「山中山」(愛発山?)間を往復した。さらに、JR北陸本線新定田駅から同じ国道を南下して「駄口」集落の手前から、まず△361・8mを目指し、主尾根の標点677mまで登り、「岩籠山」のインディアン平原を展望できる地点まで北上した。

「義経」は、回を重ねるにつれて人気が上昇しているようだ。この先、ストーリーの展開によって、頼朝の追っ手から義経主従が逃れようとする場面になるが、逃避行の道筋は、おそらくこの西尾根をひそかに探り歩いて「愛発の関」を潜り抜けたに違いないと確信する。

低山歩きを楽しむ

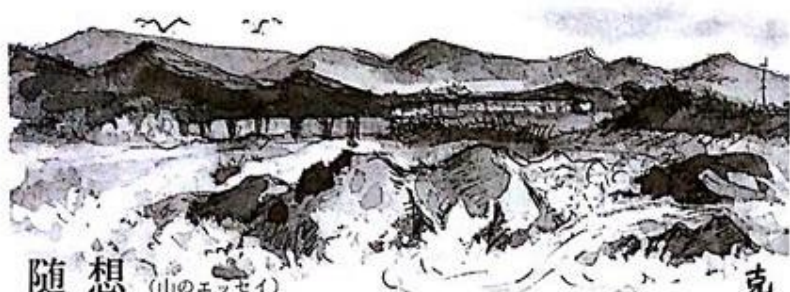
山本 久雄

時代は下って、親鸞聖人も近江から越前敦賀に抜ける西近江の険路を歩いたとき、石につまずいて爪を剥がして歩けなくなり、近くの炭焼き小屋で休んでいる。小屋の主人が小豆の塩粉を供養したのに対して「越路なるあら血の山に行芳れ足も血しほに染むるばかりぞ」と詠んで感謝したという。このことは山中の国道沿いに石碑として残っている。

若い頃は山に対して直球勝負、真っ向勝負で向かっていったのだが、いつしか変化球で勝負している自分を見つける。再び京都北山などの低山を歩くようになって気がついたのだが、ガイドブックに載っている有名な山、林道開発で見ても無残な姿になった



克



随想

(山のエッセイ)

克

山を除き、多くの山々が昔の姿そのまま、うるさいやぶをまとって静まり返っている。

標高が低いゆえに名も無く見向きもされない山々は、昨今の登山ブームとは無縁のようだ。ある意味では嬉しいかぎり、このような目立たない山々は、まるで自分自身を見ているようで、どこかおもしろく思える。

木々の葉がまだ開き始めの初々しい頃、若葉を抜けた緑色の日差しを浴びて歩いていると、足元で小さな花たちが新しい季節の到来を告げている。少し見晴らしのよい所では、あちこちにこんもりとした若緑のドームがあり、生命の躍動感がみなぎっている。暑いくらいの日差しを浴び、そよそよと体を撫でてゆく風を子守唄がわりに昼寝の至福のひとつと、たとえようなない幸せを感じる。

暑さにむせかえる尾根を外れ、沢伝いに涼を求めて歩くと、

この涼しさを家に持って帰れないことが残念だ。木々の葉はあの初々しさから濃い緑となり、断固として自分の存在を主張し、日光も風も行く手さえもさえきり、汗まみれになっていく私にベタベタと遠慮もなくまとわりつく。尾根に上がると見下ろす風景はゆらゆらとゆれて、今日も暑いと教えてくれる。もう少し山の中で時間を過ごそうか、もう一つ山を越えて行こうかと考える。

晩秋の頃、雑木林を歩いていて、いつもより明るいのでふと見上げると、澄みきった空気の下に、濃い青色の空と自ら落とした赤や黄の葉をキャンパスの下地に、裸木達が太陽の光を浴びている。ずっと上のコルまで次第に小さくなりながら明るい灰色に輝いていた。その美しさに足を止め、偶然この場に居合わせた自分の幸運を喜び、腰をおろしてゆっくりコーヒー

を飲む。当初の目的であった山の頂上などどうでもよくなってくる。ゆっくりと昼食をつくり、ゆっくりと食べ、その景色の趣が変わるまで動かない。

白と黒の世界で食べ物を探しているのだろうか、動物達の足跡があちこちに点在している。人間の足跡は無く、雪に埋まった登山道にクマの親子と覚しき大小の足跡がずっと続いている。おっかなびっくりたどってみると、大きな糞と小さな糞が仲良く並んでいた。きっと母親の真似をしたのだろう、大きな親グマの後ろを子グマがちよろちよろと歩いている姿を思い浮かべ、微笑ましく口元が緩んでくる。やがて足跡は登山道を離れて谷へとくたたくてゆき、これより私の足跡だけとなった。結局この日は山頂までたどり着かず引き返すことになったが、不思議なことに途中で引き返した時のあの悔しきは全くない。帰りの車

のハンドルがとても軽かった。春夏秋冬それぞれの楽しみを与えてくれるこれら低山に敬意を表し、いつか歩けなくなる日まで歩き続けたいと願う。

植物雑感四方山話

田中 明

山野草・樹木・高山植物・帰化植物・シダ植物、さらにはコケ類や地衣類・菌類などなど、植物たちの世界も多彩です。

まずは山野草の人気の秘密から入ってみましょう。山歩きされるあなたにも次のような覚えがあると思います。

汗を拭きながら急登を行くと、色鮮やかな可憐な草花が目に見えび込んでくる。「わぁ可愛い、何という名の花なんだろう」と、感動の思いで登りの辛さを一瞬忘れてしまう。

そう、山登りでは、全身を使っ

て汗する爽快感のなかでの草花との出会いが、山野草の人気の秘密ではないでしょうか。

早春の頃のスプリングエフェメラルのトップを切って咲くフクジュソウ・セツブンソウに始まり、カタクリやアズマイチゲなど、数え切れない妖精たちが美を競いあって登山者を出迎えてくれます。

もちろん春の七草などは山ばかりでなく、麓の野原でも姿を見せてくれますが、やや地味なお花をつけるものがほとんどのように感じるのは私だけでしょうか。

「せり、なすな、ごきょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ、これぞ春の七草」が定着しています。

そこで私は、これを花歩きの時に「ススは保護せぬ」と語呂合わせで覚えるよう、同行の方と話しています。

わかりやすく言うと、スズナ

(念のため) スズシロ(尖穂・ハコベ・ホトケノザ(キク科のコオニタビラコ)・ゴギョウ(ハハコグサ)・セリ・ナズナなどです。やがてササユリが咲き、暑くなるとナツエビネが深山の小道で見られる頃となり、「秋の七草」が咲き始めます。

こちらは、「お好きな服は」の語呂合わせが定着していて、オミナエシ・ススキ・キキョウ・ナデシコ・フジバカマ・クズ・ハギと、春に比べて古名がないためか、すらすらと覚えられているようです。

さて、樹木に対する山歩きの方々の声のほとんどは、「樹木はどうも……」のようです。

山野草のお花と異なり、高木のためその可憐さが手に取るようにには楽しめないのも人気の薄い理由かもしれません。

私は、お花だけが好みの対象ではないのではと、常々考えています。なぜなら、葉・冬芽・



克

枝・果実・樹皮など、草花にない多くの視点を併せもっているからです。樹木こそ植物観察の神髄ではないだろうかとも思うくらいです。

いろいろな楽しみ方がありますが、秋に赤い肉厚の果皮に黒い光沢のある種子を下げるゴンズイに出会い、そのおもしろい名から、魚にも同じ名前をもつものがあることを知り、そういえば他にもあるのではと、そんな樹木に興味を覚えたのです。

そして、暖地のシイ林やカシ林に混生して樹肌が独特の白い鹿の子模様になるクスノキ科の「カゴノキは咲ひ(い)た」と考えたのです。

ゴンズイのほか、魚の名をもつ樹木は次の通りです。

カマツカは、材が牛の鼻輪に用いられることからウシコロシともいわれます。初夏には小さな花が集まって咲き、秋は真っ赤な実を下げ、初夏も秋もよく

目につきます。

キハダは、地味な花をつけるのであまり目にする木ではないのですが、樹肌の裏が黄色く際立つのが特徴でしょう。

ハギは、いろいろな種類がありますが、古来より風雅な歌に数多く詠まれており、どなたにも馴染み深いと思います。

サワラは、私にとってまだ未知の樹木です。ヒノキは葉裏にある白い気孔帯がYの字に見えることで有名ですが、サワラはこれがXの字に見えるといわれています。

蛇足ながらこれがWの字に見えるともいわれるのは、同じヒノキ科のアスナロ。こちらは少々飛躍しすぎかもしれませんが。

ヒイラギは、よく知られています。地方の古い風習で節分にイワシの頭といっしょにヒイラギを玄関に飾り、疫鬼を追い払ったとあります。所によってヒイラギでなくトベラを飾るよう

すが、こちらはそのようなことから扉の木から転じてトベラとなったともいわれています。

最後にタラノキですが、春の山菜採りで新芽を摘んだ覚えのある方も多いでしょう。近年はその芽がのびるたびに摘まれて枯死することが多く、やたらと採取することは慎みたいものです。

また、この七種の樹木は、科名がいずれも異なるのがおもしろいところです。

なお、魚類のことは全く知らないのですが調べたところ、カマツカ以外は全て海にいるようです。

今回は、山野草と樹木についてふれてみましたが、他の植物に関するあれこれは、またの機会にと考えています。

はるかな憧れの山

日高連峰・ペテガリ岳

金谷 昭

北海道

冬期初登頂の苦難の歴史を持つペテガリ岳は、私にとっても長い間「遙かな憧れの山」であった。何度聞いたであろうか、「ペテガリ山荘への林道は土砂崩れ復旧工事中で来年から通れます」との地元営林署の返答。

そのため、日本三百名山の頂を次々と極めてきた岳友N氏には最後の山となった。彼のペテガリ岳登頂に同行を約束し、その完登を祝福すると共に、私の北海道山行のピリオドとすることにしていた。

8年前、盛夏の日本アルプスの喧嘩を避け、せめて深山百名山ぐらゐは登ろうと始めた北海道登山は、次々と出てくる名山に対応しているうち、いつの間にか

7年が過ぎてしまった。

昨夏も林道は通行できず、私は海外登山に方向を換えた。その間に業を煮やしたN氏は、登山路の少ない日高連峰の中で最も困難な、ボンヤオロマップ岳を経由する東尾根ルートからの登頂を果たした。水場の無い山中泊、テントと水を担ぎ上げる苛酷な登山は、とても私には太刀打ちできない。

最近では南隣の元浦川上流の神威山荘からの山越えで静内林の東の沢林道にある西尾根ルート登山口、ペテガリ山荘に入っ

ペテガリ岳山頂



熱のなせる業であろう。

ペテガリの山名は、アイヌ語でベツ・エ・カリ「冷水を巡り巡って運んで行く川」。水源に因むものといわれているが、一般にはペテガリの名が用いられている。

今年も期待していなかったが、日高南部森林管理署(旧営林署)に電話を入れたところ、道道静内札内線は車通行可能

で、林道東の沢線のベテガリ山荘までの9kmは「土曜日の午後4時から月曜日の午前9時まで工事を休止しゲートを開門。徒歩のみ通行可能」との返事であった。他の二コースに比べれば2〜3時間の林道歩きは楽なもの、ついにチャンス到来、心が躍った。

ベテガリ岳と同時期に狙っていた神威岳を登頂し、車中泊した新・冠町の駐車場公園から道道静内札内線を44km走った。後半の15kmはバンク街道と称し、曲がりくねったワイルドな砂利道にうんざりする頃、やっと林道ゲートに到達した。ゲートは開かれており、三台駐車していた。なお、道道静内札内線は三本目の日高橋断道路として日高山脈にトンネルを掘り、十勝側の札内川・カムイエクウチカウシ山の七の沢に貫通する計画で両側から工事が進められていたが、最近の財政事情で中止となった。税金の無駄遣いもはなはだしい。

徒歩通行時間は16時からであるが、ゲートを16時にスタートすると山荘到着は日暮れ近くになる。工事現場はどのあたりかわからないが現場前で16時の開放を待つこととし、13時過ぎ、ゲート前に車を

置いて出発した。林道はすぐ道道の大きな高架橋をくぐって行く。資材が置かれ途中で工事業者・電力会社・森林管理署の車に出会い、工事が行われていると思われた。ゲートから半時間歩くと、断崖絶壁の所に土砂避け覆道が二ヶ所設けられ、さらに行くところ断崖絶壁所に工事現場が出てきた。山側100m谷側50mの崩壊箇所で、ブルドーザーは置かれていたが人影は無く、工事は休止中である。普通車なら通行可能であるが、現場状況から大雨でも降れば再び土砂崩れを繰り返す地形である。ここを過ぎ半時間も歩くと調整池ダムが出てきた。危険箇所が無くなった所で車が一台追いついてきて私の脇で止まった。

苫小牧の登山グループの車で、彼らのリーダーは「先週末、神威山荘より山越えてベテガリ山荘に入ってベテガリ岳を登った。週末の林道の車走行可能を確認している」と言う。彼らの好意に甘えて便乗する。以後山荘まで危険箇所は無く、山荘に着いたのは15時前であった。

ベテガリ山荘は平成8年に改築された、30人収容の二階建ての立派な小屋である。布団も何組か用意され、トイレにはソー

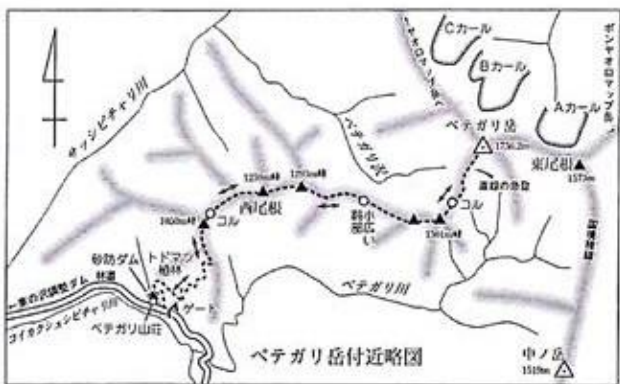
ラー発電による照明がついており、無人ボックスに投入する小屋使用料500円はお値打ちである。小屋には誰もいなかった。寝床を確保して屋外の炊事場で夕食の準備をしていると、苫小牧のグループもやってきて、ビヤパーティの開催となった。

残念ながら私は缶ビールを持ってこなかったもので、御相伴にあずかかった。一方、長持ちするのでいつも山に持参する琵琶湖産小魚の甘露煮を酒の肴に提供したところ、彼らにとってはめずらしく大好評であった。楽しい北海道の山談義が日暮れまで続いた。そのうち、車が三台やってきた。いずれも地元北海道の登山者で、週末には林道の車走行可能を知っている人達であった。一方、日が暮れた頃に徒歩で山荘にたどり着いたのは本州からの登山者であった。情報の不徹底にすっきりと割り切れない気持ちが残ったが、早々に就寝した。

高緯度の北海道は4時には明るくなり、宿泊者のほとんどは山荘を後にしたようである。天気はオホーツク海高気圧が張り出して山背が吹き、低地は曇っていたが、山上での晴天を期待して私も勇

躍出発した。

登山口は山荘のすぐ横にある。小沢に沿って行くとき大きな砂防ダムが出てきた。右を捲き、再び小沢を飛石伝いにしばらく行くとき西尾根への取り付きとなった。エゾマツの植林地の、幅広く刈り込まれ



たササ原のなかを大きなジグザグをゆるやかに登って行く。急登でなく、登り始めのペース調整には大いに助かった。長く続いた山腹のゆるやかな九十九折れも稜線に近づくと、急登となってくる。と木の間に展望もきくようになっている。山麓は濃い雲海に覆われているが、幸い山上は晴れている。昨日登山した神威岳の北にある中ノ岳が最初にその姿を現してきた。先に進むとベテガリ岳の頂上であるうか、鋭峰ははるかかなたに少し顔を出した。だいぶ時間がかかりそうである。

稜線にのると尾根はやせ、1050mの最初のコブとなる。アップダウンが多いとは聞いていたが、いよいよ第一回目のアップダウンが始まった。せつかく登った高度を捨てて次の1259m峰への登り返しは急登であった。途中南側に展望のよいササ原が出現し、コイカクシュビチヤリ川を隔てて中ノ岳の背後に、神威岳の勇姿が急登を助けてくれた。

1259m峰に登り切ると尾根は広くなり、チシマザサのなか、ダケカンバの木の問題しに、今度は北側のサッシビチヤ

リ川を隔てて秘峰1839m峰が見えた。そのピラミダ的な勇姿に感激の初対面である。

山麓からは直接目にできず長い間無名峰であったが、イッパ・パン・ニュー峰とも呼ばれる知る人ぞ知る名峰で、最初の測量の高度がそのまま山名となった。その後修正測量により1842mに修正された。日高主脈から西に離れた孤高の涼々しい姿は感動を起さずにはいられない。

ここから尾根は東に振り、1293m峰までは細かいアップダウンを繰り返して行く。道は整備され、所どころコバイケイソウが顔を出している。ここまで来ると頂上が大きくのしかかってくるが、頂上直下の1301m峰ははるか遠くにはか望めない。

1293m峰からも大きくダウンして、次の1301m峰へはアップダウンの繰り返しとなる。しかし、左右の展望が疲れを和らげてくれた。1301m峰との最低鞍部はチシマザサの小広い高原で、テントサイトになっている。少し北側に入るとコバイケイソウが群生している。ここからの登り返しが昨夜聞いた第二の

山歩き & ウォーキング 総合カタログ

2005年4月 ▶ 山歩き & ウォーキング
2006年1月

完成しました! 送料無料

お電話・FAX
お手紙にて **ご請求ください!**

★添付の資料請求ハガキでご請求の方には新年度カタログをお送りします。

山歩き & ウォーキング (年間・総合カタログ) ▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー! 写真も満載!

初心者のための山歩教室 パンフレット

山歩き初心者の方集合! お一人からでも気軽にご参加いただけるプランです。ゆったりとした行程で山歩きを楽しみましょう。



大阪支店に 高山病対策 & 高所登山はこれで解決!! 低酸素室設置

「低酸素室」は人工的に低酸素環境を作り、その中でトレーニングする事により、高度障害に対する耐性を獲得することを目的とする装置です。低酸素の設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高峰を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方はお気軽にお問い合わせください!



●利用料 (1回/1時間)
メンバーズ会員 ¥1,000
非会員 ¥3,000

① まず低酸素室に約30分間入ります。
- 安静トレーニング
② 次に低酸素室を自動でスライドし込み、心拍と血中酸素濃度をモニターしながら、自転車を通じて30分間の運動を行います。
- 運動トレーニング
これで1回終了です。徐々に低酸素を上げながら部屋に居るのを利用をおすすめします。

お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: antosa@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

ヤマ場。鞍部からの急登をがんばってやっ
と登り着いた。

1301峰のダケカンバの大きな木
陰で小休憩をとり、先に進むと、もう一
つピークが出てきた。ここが本当の13
01峰で、東西二峰となっている。こ
こからベテガリ岳を見上げると首が痛
くなるほどだ。目前に大きく立ちはだかり
ややもすれば戦意を喪失しそうにもな
る。

ダケカンバのなかを100m程くだり、
コルから標高差500m程を登る最大・
最急の難関が始まった。途中一ヶ所10
程トラバースする所以外は、傾斜のな
い日高らしい直登で、下部はチシマザ
とダケカンバの樹林帯の雨水路ともな
っている滑りやすい岩のゴロゴロした所を
行く。半分程登るとハイマツが出てきて
展望がきき始め、頂上が見えるようにな
ってきた。頂上と覚しき所まで登ると、な
らに上部に頂上らしき所が現れる。何回
か騙されているうちに山名柱らしきもの
が見え、ようやくベテガリ岳頂上(17
36・2)に躍り出た。

者のみに与えられる至福があった。山頂
から北に日高連峰が大きく広がり、18
39峰・ヤオロマップ岳・コイカクシエ
サツナイ岳を始め、遠くに一昨夏に苦闘
したカムイェクワチカウシ山が頭を出し
ている。東にはN氏がたどったボンヤ
ロマップ岳からの東尾根がのびている。
覗いて見るとハイマツのなかに微かな踏
み跡しかない。まるでジャングルジムの
ようなハイマツ歩きに難渋したという、
彼の奮闘ぶりがしのげられた。南には神威
岳を前にして南日高の山脈が襟裳峠へと
収斂している。

2等三角点を前にして休んでいると、
苦小牧のグループも登って来た。見ると
女性達もヘルメットに地下足袋、徒渉の
多い日高を登るのにふさわしい出立ちで
バッチリと決めているのはさすがである。
何んともここでも併ビールの御相伴にあず
かり、乾杯して共に登頂を祝福した。

憧れの山頂での周りの山の同定や思い
出に、瞬く間に時間が過ぎ、下山の苦勞
を考えると長居はできない。最後にもう
一度山々の姿を目に焼き付け、去り難い
思いを胸に山をくだった。

1301峰との鞍部までは早かった

が、そこから始まる幾つかの登り返しは
辛かった。木の間越しに見える弧高の1
839峰の勇姿が唯一の慰めとなった。
ベテガリ岳と1839峰とは見納めとな
る1259峰で、もう一度彼らの姿
を目に焼き付けた。1839峰は私に
向かって「来年は登りに来いよ」とにっ
こりと微笑んでいるようで、宿題となっ
た。北海道山行は今年で終わりそうにな
い。

長い長い登山を終え、山荘の屋根が見
えた時は身体から力が抜けてゆくのを感じ
た。遠来の客人を温く迎えてくれたベ
テガリ岳と北海道の岳人には感謝の念で
いっぱいである。憧れのベテガリ岳の登
山は終わった。

(平成15年7月4・5日歩く)

▲参考タイム▼

- ベテガリ山荘 4・04 - 1050 峰 6・05
- 1301 峰 7・35 | 頂上 手前鞍部 7・57
- ベテガリ岳 9・22 | 10・14 | 1301 峰 11・15 | 1293 峰 12・40
- ベテガリ山荘 14・57

△地形図▼
2万5千円神威岳・ピリガイ山

北又から北アルプス北部、花の縦走

朝日岳・雪倉岳・白馬岳

田中 明

北アルプス

出発予定日には、テレビが雨と予報している。小屋へ電話を入れて現地の状況を確認すると、「2日後なら良さそうですよ」とのこと、早速友に延期することを連絡して快く了解してもらった。

当日、北陸地方にも梅雨明け宣言がなされた。

今回の北ア山行はJR北陸線泊駅から北又小屋までタクシーで入り、イブリ尾根の急登を朝日岳へ目指すことにした。

いっしょに歩くのは、花好きのNさんSさんの2人だ。3人それぞれがデジカメを持っての、超ゆっくりの花観歩きである。

北又からの登りは急登の連続で、普通

は下りに使うコースとガイドブックにある。しかし、取り付いてみると、思ったほどの急登ではなく、何にもまして途中の数あるお花が疲れを忘れさせてくれた。色鮮やかなエゾアジサイが咲き、オクモミジハグマ・ツルアリドウシ・ミドリユキザサ・キヌガサソウ・ツガザクラ・アカモノなどが、次々と現れ、デジ隊もカメラタイムにいそがしい。

それでも大汗をかきながら五合目のブナ平に着きザックをおろし、ブナの太木に抱きついてホッとした。少し入った場所では冷たくておいしい水があり、ほてった身体を生き返らせてくれた。ここから朝日小屋までは、この時季水場は無いの

り返して朝日小屋に泊まり、明日はあなただと同じように白馬まで行くのですよ。気をつけて歩いてください」とやさしく声をかけてくれた。

それにしても何と元気なことだろう、とても真似できないと話しながら小屋を目指した。いろいろなお花を見ながら行き、前朝日岳の左側を捲くようにして朝日平に出ると、朝日小屋だった。

花のデジカメ隊はのんきなものだが、赤い三角屋根が見えるとひと安心である。それにあの人気者の管理人さんに会えるからとうれしくなり、急に足早になって

小屋に飛び込んだ。挨拶すると、いつもと変らぬ懐かしい笑顔で待っていてくれた。

心温まる管理人清水ゆかりさんの笑顔に会え、イブリ尾根の苦しさは知らぬ間に消えていた。部屋で荷を解き、友と小屋周りのお花畑の散策とした。

アオノツガザクラ・タカネイブキボウフウ・ハクサンイチゲ・ネバリノギラン・タカネマツムシソウなどや、オニシモツケ・タテヤマツボグサ・ヨツバシオガマ・カンチコウソリナ・ニッコウキスゲなどが、精いっぱい艶を競うさまを堪能した。

お花巡りから部屋に入ると、計ったように夕食タイムである。日本酒・焼酎・ワインのお好みの一品がサービスで、朝日小屋定番の肉ジャガと天ぷら。デザートもあり、どこ



の山小屋にも負

けないくらいおいしい。

北アルプスの最北端の小屋だけに人も多くない。このことも登山者にとって喜びであろう。

朝日平から北西側の富山湾方面は、天気の良い日には漁火が見えることもあるという。残念ながら今夜はもやっていて見えなかった。

明けて2日目、長丁場につき5時半の早立ちである。管理人さんに見送られ出発。朝日平から水谷の谷まで少しくだけり、水平道を右に見送る。「さあ、きょうは白馬までがんばろう。でもお花も楽しみですよ」と話せば、2人も元気に朝日岳の登りにかかる。

樹林帯の登りにはオオバタケシマランが咲き、さらに登る草地にはハクサンコザクラ・シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲなどを見る。1時間ほどで朝日岳頂上に着いた。頂上は360度の大展望が待っていた。

これから向かう雪倉岳・白馬岳が神々しく輝いて見える。もちろん銀・立山連峰も凛としてそびえている。ここ朝日岳はまさに雲上に広がる別天地だ。すばらしい天候に恵まれ、今回の花旅は二重の

でしっかりと補給しておく。

どうにか登り着いたイブリ山頂上は照りつける太陽がまぶしく、木陰の下で昼食をとる。しかし、花談義がなかなか腰を上げさせてくれない。1時間も大休止となってしまった。なお、イブリとは田を耕す時に使う農具の一つで富山地方の方言のようだ。

イブリ山からいったんくんだり、馬の背やちょっとしたクサリ場を難なく越えてから再び登り返し、ひとがなばりて夕日ヶ原までやってきた。ここから見る日本海の夕日がきれいなことからの名らしいが、ここで夕日を眺めると小屋へ着く頃には暗くなってしまいうから、あきらめるよりほかない。

あたりには、イワイチロウ・タテヤマリンドウ・シロバナクモマニガナ・ハクサンオミナエシ・ミヤマホツツジ・ウサギギクなどで書き切れない、いや覚え切れないほどに多い。カメラタイムがますます多くなってきた。

下山して来た2人連れは北アの山岳パトロール隊で、腕章が目についた。親切な2人は、「もう少しがんばれば朝日小屋ですよ。我々も少し降りてからまた登



喜びしな
た。水
道
への樹林
帯のなか
マリ
のきつい
タテヤ
下りでは
シロウマ
アサツキ
シロウマ

オウギなどが見られ、くだった分岐付近にはミスバショウ・キヌガサソウも心を和ませてくれた。

よく整備された木道は歩きやすい。小桜ヶ原から振り返る朝日岳もなかなかの姿である。木道沿いにはハクサンゴザクラ、花期も終わりに近いリュウキンカがあちこち見られた。何度かの水場で喉を潤して木道が終わると、赤男山下のガレ場のツバメ岩が最後の水の広場である。一本立て、雪倉岳への長い登りのために息を整えた。

まだまだ友も順調である。しかし、これからのあまりにも長い登りはどうだろう。私は勝手知った道だが、2人は不安が顔に出ているようだ。でも2人も山



シナノオトギリ



オオバミソ
ホ
何にもま
してお花
が多く、
足の疲れ
も忘れる
ほどであ
った。ハ
クサ
オンシャ
クナゲ・
オオヒョ
ウタンボ
ク・ツマ
トリ
ソウ・オ
オバミソ
ホスキな
どをしゃ
かり撮
る。だが
、その下
り道は
ゴロが結
構多く極
めて歩き
づらい難
路で、大
汗をかき
ながら何
となくだ
った。し
かし、
何にもま
してお花
が多く、
足の疲れ
も忘れる
ほどであ
った。ハ
クサ
オンシャ
クナゲ・
オオヒョ
ウタンボ
ク・ツマ
トリ
ソウ・オ
オバミソ
ホスキな
どをしゃ
かり撮

行く人と人ばかり。ライチョウがハイマツから出たり入ったりして、その見物である。ちゃっかり画像を得て、白馬岳の頂上に15時20分到着した。

さすがに人気の白馬岳だ。40~50人はいらるだろう。空はどこまでも青く、展望が遠く遠くまで見えている。槍・穂高から立山・剱はもちろん、今歩いて来た雪倉・朝日岳から朝日平に立つ朝日小屋まできれいに肉眼で遠望できた。ピークからくだり、ツメクサ類やミヤマアケボノソウなどを見ながら、今夜泊まる村宮頂上宿舎へ到着した。ここも私の目論見どおりハイシーズンだというのにそんなに混

歩き歴は長いようだから心配なからう。何はともあれお花が多い。ミヤマゼンコ・ハクサンボウフウ・タカネゲンナイ

フクロ・オニシモツケ・ミネウスユキノウ・イワシモツケ・イワショウウブなどの競演である。

たくさんのお花たちをデジカメ隊が追いかける。それは楽しい3人だ。亀さん歩きは当然である。まだまだ咲いている。タカネアオヤギソウ・ミヤマダイコンソウ・カライトソウ・タカネシオガマ・タカネツメクサ・ミヤマキンバイなど切りがない。

雪倉岳直下のガレの小さい場所は小休止する所だ。少し東にくだれば水の確保が可能な場所がある。

水海道分岐から普通道2時間半のところを1時間もオーバーして11時に雪倉岳頂上到着である。昼には少し早いが1時間の大体止だ。ここからの眺めも抜群である。白馬岳が相当近くなってきた。それに明日歩く小蓮華山方面の稜線もきれいに見える。まさに雲上の時空のひとときである。

避難小屋まで半時間で一気にくだるが、ここでもお花のオンパレードだ。ミヤマ

雑していなかった。

3日目は下りばかりの楽なコースである。白馬岳へ少し登り返した後は蓮華温泉へくだるだけ。ウルップソウ・イワベシケイ・シコタンソウ・コメススキなどをデジしながらどんどんくだり、小蓮華山から雷鳥坂あたりでリンネソウにも出会えた。

白馬大池付近ではチングルマ・イワイチョウ・アオノツガザクラ・シナノオトギリ・ミヤマアカバナなどが満開で迎えてくれ、3人で喜び合った。

大勢の登山者はほとんど梅池方面に下山するが、我々は蓮華温泉へ向けてくだ

ワイキョウ・タカネデシコ・タカネバラなど、だがお目当てのユキクラトウチソウには時季が早過ぎたのか会えなかった。

鉢ヶ岳の投き道にもお花がいっぱい。ありがたいことにここでも雪渓が残っていて、水が補給できた。だがこの水場は年によっては無いほうが多いので注意が必要だ。

広いザラザラした斜面を登り、鉦山道分岐を過ぎると登りがさらにきつくなった。岩屑のガレた道でますます歩きにくくなる。あえぎあえぎ、人と出会おうようになると三國境の分岐である。ここで一本立てるが、友の疲れはピークのようだ。口数も少なくなっている。後は三つのピークを越すと白馬岳が待っているのので、「もうひとがんばりだ」と励まして歩き出す。

だが、これからの岩場の繰り返しが結構きつい。イワギキョウ・チシマギキョウなどが咲くが、しっかり見を元気が残っているだろうか。だが心配するほど疲れではないようで、デジを覗いている。ああこれなら安心だ。「もうそこから行きまよ」と声をかけ、一気に登って

り、うっすらと紅をさすイチヤクソウもいくらか見られた。天狗の庭では朝日・雪倉岳が目当たりに見えるのだが、今回の旅の中ではめずらしく展望はきかなかった。オヤマソラン・ハクサンシャムシ・ネバリギラン・ハクサンジヤン・ミヤマシグレ・タマガワホトトギスなどがきれいだった。

赤い屋根の蓮華温泉ロッジが見えてくると下山したも同然だ。黄金の湯の露天風呂で花旅の汗をゆっくりと流し、JR糸魚川駅まで花夢心地でバスに揺られた。(平成16年7月22日~24日歩く)

△参考タイム▽

〔7月22日〕北又小屋6・30~五合目9・

10~イブリ山11・30(昼食) 12・30~朝日小屋15・00(泊)

〔7月23日〕朝日小屋5・30~朝日岳6・

30~水海道分岐7・30~雪倉岳11・00(昼食) 12・00~三國境14・30~白馬岳

15・20~村宮頂上宿舎16・20(泊)

〔7月24日〕村宮頂上宿舎5・30~三國境7・10~白馬大池10・00~蓮華温泉13・

00
△地図▽昭文社「白馬岳」

烈風の後立山を歩く

爺ヶ岳から布引岳

木村 太郎

北アルプス

この夏定年退職した私に、元職場の友人から夏山行きの誘いがきた。当初の計画では、新穂高から槍ヶ岳へ登り、双六岳を経て爺ヶ岳へ歩くはずだった。前日までの暗れマークが急に雨マークに変わり、集合地の桃山台駅で決行か中止かを話し合う。日程を短くし、長時間の縦走を避け、後立山の扇沢から鹿島槍ヶ岳への登山に切り換えた。

夜の高速道路を乗り継いで、扇沢までは約6時間の道のり。夜明けまで少し時間があり、柏原新道の登山口前の広場に車を止めて仮眠する。ロックシェッドを通過して行く車の音で目が覚める。周囲を見渡すと空が白み始めており、身仕

度にとりかかると。

扇沢の潮音に見送られるように、私が先頭に立ち登山道に取り付く。この日は若手の山下さんと、リーダーの前田さんとの3人である。元職場の山仲間が集まりも最盛期には小型バスを仕立てて夏山へ来たが、年々メンバーが抜けて寂しくなった。リーダーの前田さんは、学生時代に夏の槍平小屋でアルバイトの経験がある。槍ヶ岳登山の取り止めは残念だろう。

モミジ坂を登るうちに周りが完全に明るくなる。針ノ木岳が見え始めると、今年には雪渓が少い感じだと前田さんが言った。稜線には黒雲がかかり、分厚いガス

で土石流が発生し、道が消失した。その後の工事で道が付けられ通れるようになった地点である。

崩壊の傷跡も生々しいガレ場を注意して通る。お花畑に出合う傾斜地を登り切り、雨を逃がれ、見えてきた稜線上の種池山荘へ駆けこむ。フロントの娘さんに頼み、土間奥の小室で休憩する。コンビニのおにぎりで朝食をとっていた時、混入していた石粒を噛み前歯が折れる。つ

いていない山歩き、その前兆のようで嫌な気分になる。

種池山荘を出ると雨は上がっていた。棒小屋乗越のお花畑道への逆をとり、テント場を通過する。コマクサ群生地を通るが花は見られない。北アルプスの花の女王は、美しきゆえに短命なのだろう。石阿道の急坂を爺ヶ岳南峰へ登り着く。去年この日のメンバーを含めて登った爺ヶ岳や立山連峰は、ガスに包まれ、黒い山

爺ヶ岳中央峰



が流れ出している。鹿島槍ヶ岳に登頂するまで天気がもつことを願うが、ケルンを過ぎて一枚岩にかかる手前で雨が降り出した。

大慌てで合羽をまとい、急ぎ足で石畳風に石組みされた登山道を登る。水平道の地道になり、ガレ場に注意をうながす看板を見る。最後まで雪渓の残る通称ガラ場といわれる沢辺は、先月下旬の豪雨

腹しか見えない。今回の目的峰である鹿島槍もガスのなかである。

鹿島槍前衛の布引岳と覚しき山腹がうかがえるだけで、黒いカーテンが渦を巻いている。振り返れば針ノ木岳や蓮華岳方面も同じように黒い山である。ただ横面に連なる山群、岩小屋沢岳から鳴沢岳にかけての山容だけが鮮やかな緑を見せている。たぶんいま歩いていている爺ヶ岳周辺の狭い山域だけ雨が降っていないのだろう。

強めの風になり、合羽のフードをまくり上げる。石屑が飛んでゆきそうだ。爺ヶ岳を名のおり年老いた山だと見るのは間違いかもれない。「花の百名山」の田中澄江さんは、「爺ヶ岳は乙女岳と呼ぶのがふさわしい、花のゆたかな山だ」と述べている。

雨になる前に少しでも距離を稼ぐため、爺ヶ岳中峰を越えて冷池山荘へ急ぐ。トウヤクリンドウが乱れ咲く花の山、爺ヶ岳の斜面に黒部側より風が吹き上げてくる。大谷原におりる赤岩尾根の分岐に着く頃には、濡れていた着衣も乾いてきた。まだ蕾のタチヤマリンドウが群れる樹林帯を抜けると、冷池山荘に着く。宿





布引岳の山友

泊の手続きを済ませ、軽く昼食を終え、鹿島槍を目指す。

ペットボトル・チョコレート・カメラだけを入れたサブザックを肩に山小屋の外へ出る。ふたたび雨が降り出し、風は午前中よりも強くなっていく。山小屋で聞いた話では、南海洋上に台風が発生し、明日はもっと天候がよくない見通しとか、今日中に鹿島槍を登っておきたい。

尖るひとつを鹿島槍とぞ

(水の霸權「国富論」以後より)

雪嶺をかがやかせる山脈が命の水を生み出し、人の営みを続けさせる原動力になっている。山こそがこの世の覇権者であり、山は人々を出会わせ訣れさせる宇宙であるとか歌われる。山が生み出す恩恵なくして人が生きていく術はない。鹿島槍という覇権者の荒れる前では、撤退するしかなかった。

冷池山荘へ帰り、乾燥室に濡れた着衣を干し、部屋に入ると早速酒宴になる。職場の事情で、お盆過ぎにしか連休がとれないので、僕たちの夏山は天気に恵まれないことが多い。以前、台風接近のなかを下山。帰りの道路が通行止めになることさえあった。

山登りができなければ、温泉に入って帰ればいいと、懲りずに夏山を楽しんでいる。

ツキのない山行は、反面忘れたい思い出を残してくれる。苦難を乗り越えての山歩きであればあるほど、その時々々の情景があざやかによみがえる。あの時はどうだったと、話の種は尽きることがない。とりあえず明日天候が回復していた

信州側が切れ落ちた崩壊地を登り、高山植物や野鳥の保護を呼びかけるテント場を過ぎる。ほどなく草地の斜面一帯がお花畑の道にかかる。クルマユリ・ウサギギク・ハクサンフクロなど、色とりどりの高山の花が僕たちにはほ笑んでくれる。悪天候でも来てよかったと話し合う花に見とれて雨も気にならない。

布引平から布引岳へと続く稜線に出る。激しい風が黒部峡谷から吹き上げてくる。その風は雨の粒を石つぶてに変化させ、容赦なく合羽からはみ出た顔を打ちつける。布引尾根のある東側が壁になったハイマツ帯を歩くので、吹き飛ばされるおそれはない。くだってきた単独行の男性登山者が、布引岳のピークは近いと教えてくれた。

その人に気になる風の状態を聞くと、稜線上は台風並みの烈風が吹いていると言ふ。風があらうとも行くしかない、風に吹かれ雨に打たれて進んだ。途中で、引き返してきた女性のグループとすれちがう。やがてたどり着いた布引岳のピークらしい道標の立つ場所を見上げると、数匹の猿が風の当たらない東斜面へ逃げ去っていた。

早立ちし、鹿島槍にリベンジしようという話に落ち着いた。

翌朝も前日と同じような空模様で風も静まっていなかった。モルゲンロートに染まる鹿島槍がよく見える。冷池山荘前の高台に立たずとも、山小屋の周りの樹木がざわめき強風の吹いていることがわかった。会社には定年があるも山には定年がない。いつてもまた山に登れる、と自分に言い聞かせ、未練を振り切り、山を下りることにした。

今年のゴールドデンウィークに改装されたばかりの、きれいな冷池山荘を後にする。ましがいい雨になりそうなので、はなから合羽を着て歩く。

前日カットした爺ヶ岳中峰(2670m)に立ち寄り、頂きは強風が吹きつけて飛ばされそうである。三角点にタッチし、写真を撮り、鹿島槍の方向をみんな眺めた。

前日と同じような角度から、同じような風景が見える。鹿島槍前衛の布引岳は見えているが、肝心の鹿島槍は白いガスに巻かれている。少し粘っていたら鹿島槍の左サイドだけが顔を見せた。それを潮時にして、爺ヶ岳からサヨナラしよう

布引岳北肩に出て、山壁が無くなった稜線で立ち止まる。滑落しそうな危いやせ尾根が前方にのび、烈風のなかを進むのにとめらいが生じた。リーダーの前田さんは鹿島槍には以前、遠見尾根から五竜岳を越えて登っている。山下さんと僕には未踏峰とはいえ、危険を冒してまでは進めない。この日の登頂をあきらめ、引き返そうと3人で決断する。

撤退前にせめて、小さなケルンが積まれた布引岳(2683m)を踏んでこよう。鹿島槍に登ったつもりで、記念撮影をしようとしてピークに立つ。鹿島槍まで標高差にして200m。道標には鹿島槍へ1・5km、冷池山荘へ2・5kmと記され、あと一投足の地点まで来て、涙をのんでの撤退である。

歌謡「りとむ」を主宰する、三枝昂之氏に「水の覇權」という歌集があり、白馬岳から鹿島槍への山の歌も数首詠まれている。

縦走に発ちたるまるき両肩を
春の白馬の里にさがさず
終日の風のまなかの不帰岳と
識りて訣れて久しきものを
君が行き無も往ける山脈の

と題を返す。その時、前田さんは「槍ヶ岳が見えるよ」と山下さんに知らせていた。

前田さんが愛してやまない小槍を従えた槍ヶ岳は、雲海を突き抜けてそびえていた。

鹿島槍には登れなかったが、山岳景観は十分に楽しめた。もう思い残すことはなかった。ポツリポツリと身体に雨が当たり出したが、濡れても気にならない。大町温泉郷で、サッパリしてから帰ればいいのだから……。

(平成16年8月17日〜18日歩く)

△コースタイム▽

(第1日) 扇沢登山口(3時間10分) 冷池山荘(50分) 爺ヶ岳南峰(1時間) 冷池山荘(1時間) 布引岳(50分) 冷池山荘

(第2日) 冷池山荘(1時間30分) 爺ヶ岳中峰(50分) 種池山荘(2時間30分) 扇沢登山口

△地形図▽

2万5千1:大町・神城・黒部湖・十字峽

登りやすくなった

つるぎだけ たてやま れんぼう 剣岳・立山連峰縦走

鷺見守康

北アルプス

日本百名山を著した深田久弥は「北アルプスの南の重鎮を穂高とすれば、北の俊英は剣岳であろう。」と述べている。剣岳は「岩と雪の殿堂」と穂高と並び称せられ、我々中高年登山者の「憧れ」である。

剣岳に初めて登ったのは1993年の夏。その時の感激さめやらぬ2年後の1995年に再訪している。

以来、いつも頭の一角を占めている山岳であるが、新ハイの例登山行には取り上げない山の一つであるという事情もあって、知らず知らず遠ざかっていた。

ところが昨夏、いろいろないきさつから剣岳山行を思い立ち、初体験の人を中

心に7人のメンバーによる個人山行として実施した。

JR岐阜駅に集合し、Nさんの車で2時50分に出発。深夜の1時半過ぎには立山駅に到着し、無料の大きな駐車場に仮眠した。盆過ぎではあるが、土曜日のので登山者は多い。朝5時、あらかじめ予約しておいた駅構内のアルペン食堂で朝食をとった。

始発のケーブルカーに乗車。美女平でバスに乗り換えて室堂へ。7時過ぎに室堂に到着。雲は多いものの、青空が見える。

今度の山行の目的は一にも二にも剣登

あるから、自然と気持ちは一ノ越方向に向かう。「立山三山とは本来は……」などと解説しても誰も浄土山に行きたいとは言わないのだ。

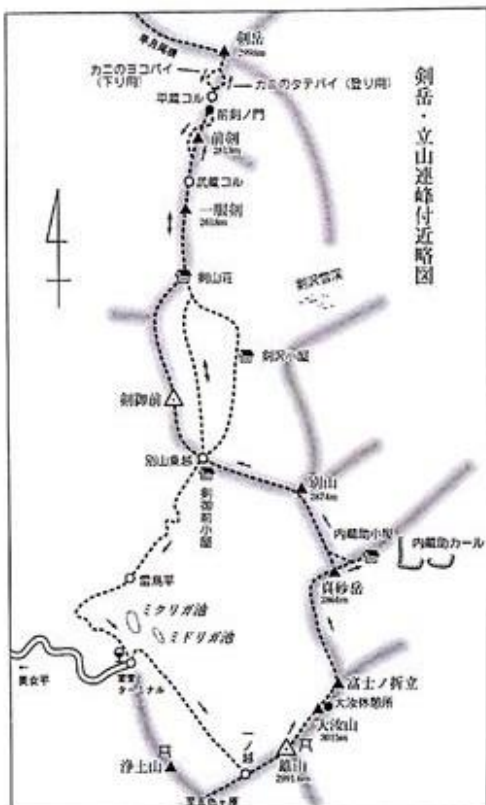
観光登山者の多い一ノ越から雄山へ登り、神社にも詣でる。雄山から大汝への縦走路に進むと、登山者がばったりと少なくなった。

大汝山休憩所で昼食休憩。ちょうどグ

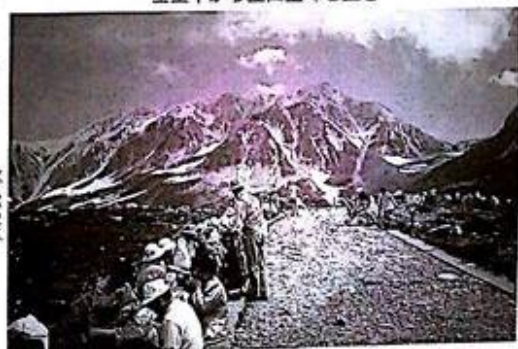
コンロで湯も沸かして落ち着いた気分の昼食時間であった。

富士ノ折立を通過すると、標高差にして2000ほど一気にくだる。内蔵助カールの曲線美とモレインを眺めながら、平坦でのびやかな稜線歩きの貞砂岳を通過した後、稜線から外れて内蔵助小屋へ立ち寄ってみた。

小屋はひっそりとして人影も無かった。言葉之交わした小屋当番の青年のさわや



室堂平から立山主峰を望む



山だから、室堂から雷鳥坂を越え、直接剣沢に入ってもいいようなものだが、それでは、わざわざ夜行で来た意味がない。剣沢まで立山三山を歩こうと考えていた。

立山三山は、雄山・大汝山・富士ノ折立の立山主峰と、東の別山、西の浄土山を指す。けれど、室堂平に立つと視界に飛び込んでくるのはいつも立山主峰で

かさが嬉しくて「一度泊まってみたいね」などと話し合いながら、縦走最後の登りにあえぎあえぎ別山へ。稜線を別山山頂へ往復し、剣御前小屋の建つ別山乗越にくだった。

別山乗越から今年に残雪の少ない剣沢をくだり、剣山荘に到着したのは15時を過ぎていた。

部屋の割り当てが決まると、簡単に荷物整理をして早速風呂に入る。昔は、風呂は一つで男女が交代で入浴したのだが、現在は男女別に用意されている。「ザブン」と没かるだけでも、やっぱり風呂は気持ちがいい。

風呂上がり部屋で夕食までぼんやりと過ごす。初めてこの剣山荘に宿をとり、剣岳に登ったときのことを思い出す。

その日は日曜の夜のせいと比較的空いており、八畳の部屋には先客が3人だった。最終的に6人となったが、いずれも単独の男性ばかりで、京都から夜行で今朝着いたという人が私よりは若いようだが、ほかは私と同年代以上だった。仙台、東京、埼玉と、全国各地から剣岳を目指してきた人たちが、岐阜からの私は何か地元の人間のような錯覚を抱いてし



ケルンのある小広場から剣岳を望む

まった。その錯覚は他の人たちにもあったように、剣岳の有名な難所である「カニのタテバイ、ヨコバイ」の情報について、仙台、京都の人から質問を受けた。岐阜の人間なら剣岳もすでに経験しているのと思ったのだろう。ほぼ全員が初めての剣岳を翌日に控え、部屋には静かな緊張感が漂っていた。夕方から激しい雨、そして夜半には強風が吹き荒れた。夕食後、客の多い談話室にメンバー7人が肩寄せ合って席をとり、つつまじやかに宴席を開いた。天気予報では、明日



平蔵の頭のスラブ状の岩場（剣岳）

だった。団体客が多いし、通過が難しいカニのヨコバイでは混雑するのが当たり前なので、「渋滞」はいわば想定内なのだ。どうも団体客のせいばかりではなさそうだ。先行のグループのメンバーが何か言いたそうに私の方を振り向く。雷鳥だった。岩場の至近距離に雷鳥の親子が姿を見ているのだ。緊張すべき岩場での思いがけない出会いにふっと心が和む。「こんな岩場にもいるなんて……」

の天候は思わしくない。「剣ではいつも天気に恵まれない」とぼやくつつ、早目の就寝となった。

翌日、夜明けには雲が厚くたれ込めていた。夜中には少し雨も降ったようだ。気落ちしたまま朝食をとる。あらかじめ、天気が悪ければ登るのはやめる、と伝えてあったので、皆気をもんでるようだったが、外は次第に明るくなってきた。雲の切れ間も見え、そこから青空も覗く。「よし行こう」と決断。サブザックの出立ちで6時に出発した。

小屋を出発すると露岩帯となる。以前は踏み跡が判然とせず、方向指示のマーキングの無い所では、ルート・ファインディングに気がつかたが、今回はわかりやすく、一服、剣には30分弱で到着。汗ばんだ体に風が心地いい。天候は高曇りのような状態で、見晴らしもよく、後立山連峰の五竜・鹿島槍が灰青色に浮かんでいる。眼下には前剣が猛々しくそびえ立っている。

武蔵谷の谷から前剣へ進む。前剣の急なガレ場は落石が多く、遭難事故の多発地点であるが、ルートがよく整備され、

と声が上がったが、西穂高岳の岩場でも雷鳥は多かった。

10月、真っ白な冬毛を纏った三羽の雷鳥は、ジェット戦闘機のごとく隊列を組んで何度も何度も飛翔してくれた。そのありさまは、私に強烈な印象を残した。

気を引き締めて、いよいよカニのヨコバイである。以前は、最初の足場が届かず、鎖を支えに体を空中に投げ出し、高層ビル屋上のフェンス外側を伝い歩くような高度感いっぱい岩場を抜けたのだが、ここにもしっかりと足場がつくられ、「アレー？」というほど呆気なく、私からさんざん脅かされていた(?)メンバーも難なく通過した。むしろ、その後の梯子のほうに気がつかなくなった。

ケルンのある小広場で大休止。剣岳の景観と後立山連峰の展望を心ゆくまで楽しんだ。

歳月の流れのなかで、剣岳は危険な箇所もかなり改善され、中高年登山者でも安全に楽しめる山岳へと変化していた。登りやすくなることに比例し、当然登山者は増加するので、集団による登山は、やはり適当ではないのかもしれない。

歩きやすくなっている。

前剣に7時20分到着。所要時間は小屋から1時間20分ほど、予定通りの快調なペースだ。前剣からすぐ、かなりの高度感の岩場をトラバースし、やがてケルンのある小広場に出た。この小広場の先から山頂まで険しい岩峰が連続し、剣岳登頂の核心部になる。

鉄(くろがね)と呼ぶにふさわしい黒々とした巨大な岩の塊は、人を萎縮させるような迫力を備え、東大谷側がスッパリと切れ落ちた稜線上は宙に浮いているような高度感だ。平蔵の谷を過ぎ、50mの垂直の岩壁のカニのタテバイが眼前にそびえた。以前は最初の足場が高過ぎて届かず、鎖で強引に体を引き上げたのだが、今は改良されたのか意外に簡単だった。

8時40分、山頂に至る。山頂は満員であった。ツアーなどの団体さんが多い。山頂からの景観は、三回目の今回がもっとも優れていた。山岳景観を楽しむながらティータイム。時間的な余裕は無いので、20分後には下山を開始した。

まもなく、下りの難所であるカニのヨコバイにさしかかると、「渋滞」の最中

剣山荘に戻ったのは11時40分だった。山荘の広場で少し腹ごしらえをし、別山乗越に向かい再出発。

別山乗越に到着するとなかなり青空が戻り、後立山連峰の鹿島槍ヶ岳・五竜岳・唐沢岳が美しく、剣岳の峻烈な峰々と鏡のような岩肌が目には痛いほど鮮烈だ。別山乗越に集う登山者は剣岳を見つめ立ちつくしていった。

(平成16年8月28日〜29日歩く)

▲参考タイム▼

- (28日 晴れ) 立山駅1・40 (5時まで 飯眠5時30分からアルペン食堂で朝食)
- 6・00 (ケーブル・バス) 室堂バスターミナル7・10 (30分) 越8・22 (30分) 雄山9・17 (50分) 大汝山10・15 (朝食)
- 11・10 (富士ノ折立口) 30 (真砂岳) 12・05 (15分) 内蔵助小屋12・25 (35分) 別山13・25 (40分) 別山神社13・50 (剣前小屋14・15 (25分) 剣山荘15・15 (泊)
- (29日 くもり時々晴れ) 剣山荘6・00 (一服) 剣6・25 (30分) 前剣7・20 (30分) 剣岳8・40 (9・00) 剣山荘11・40 (12・00) 室堂バスターミナル15・00

▲地図▼昭文社『「剣・立山」

新ハイ関西83号
標高△△83mの山

七種山 (683m) 播州

上谷山 (1083m) 奥美濃

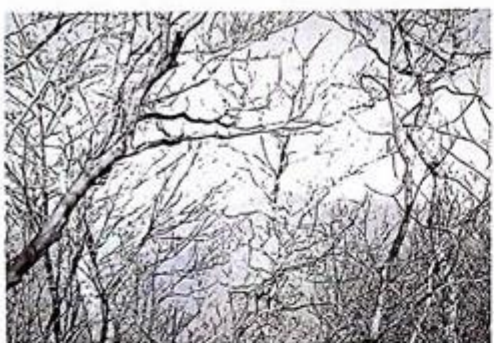
伊那前岳 (2883m) 中央アルプス

七種山

中国自動車道の福崎インターから北へ少し入った所に、登山口の金剛城寺山門がある。七種山は私の七百山目の記念の山で、会の人たちと6人で出かけた。

七種川沿いの平坦な道を20分程歩いたら前方が明るくなり、七種川の岩盤が見えてきた。水量不足が残念だったが、周囲の草の茂り具合から雨後の爽快な姿が想像される。七種神社が一段高い平地に建てられて、滝に對峙するようであった。

神社からは急登で、雨の日には滑りや



上谷山登山道より能郷白山

すような岩湿じりの斜面を登る。前日まで天気の良い日が続いていたにもかかわらず、青空の広がった山頂からは、雪彦山方面の山並、瀬戸内海の家島諸島などを見ることができた。

(平成17年1月22日歩く)

▲コースタイム▼

金剛城寺山門前(1時間50分) 七種山(1時間10分) 金剛城寺山門前

△地形図▽2万5千II寺前

上谷山

適度にやぶ漕ぎのある自然の深い山だった。岩井さんが計画し、やぶ漕ぎに適期

間から見えるこれから行く方向の高みの風情も、優しさに満ちていた。

そのうちササが出始めてササ漕ぎとなった。野性的な感覚が増してきて、一層楽しく山頂を目指す速度も早くなる。ササをざわざわかき分ける音のなかに、異質な人の声と思っ立ち止まると、大勢の人の声から聞こえてきた。

山頂は8人のパーティがいた。お互いが驚き合った。岐阜の山岳会の人達で、ちょうど下山される場所だった。山頂の小さな切り開きに静けさが戻り、奥美濃の山の真っ只中にある喜びに浸った。

下山は雑木林の間から、金草岳・冠山・若丸山・能郷白山などの山々を眺めながら行っていたが、左へ曲がる地点に地形的には来たと思ったのに、目印の三枚の赤布がない。岩井さんが付けた赤テープが見つかかったので間違いはないと思っしたが、左へ曲がってしばらく行った所、私が付けた赤布を見つけたので安心できなかった。

(平成16年11月28日歩く)

▲コースタイム▼

国道417号線シツ谷出合(4時間) 上谷山(2時間) シツ谷出合

この尾根には赤布が付いていたが、往路を下山するのが安全なので、私たちの下山ルートの分岐の印として三枚の赤布をルート方向に並べて付けた。岩井さんも念のため赤テープを目立つ木に巻きつけた。

雑木林の歩きやすい踏み跡を登る。秋晴れの至福のひとつときだ。繊細な枝々の

の晩秋に2人で出かけた。

将来ダム湖に水没するため国道が高い所に新しくつくられているので、私たちの持っている古い地形図ではシツ谷出合がどのあたりなのかわかりづらかった。こんな時こそ高度計があると助かるのだが、2人共持ち合わせていない。

また、古い案内書の記述に従ってシツ谷沿いに登ることしか頭になかったので、国道脇にあった赤布は見逃して、シツ谷出合に車を止めた。

不明瞭なシツ谷右岸を500m程進み、草の茂りが少なめの溝状の急斜面を登ることになった。赤布をいくつも付けながら登るので、ベースは落ちるが下山時は安心だ。1時間ばかり枝や草をつかんで急斜面を登ると、予想通り歩きやすい尾根に出た。

その尾根には赤布が付いていたが、往路を下山するのが安全なので、私たちの下山ルートの分岐の印として三枚の赤布をルート方向に並べて付けた。岩井さんも念のため赤テープを目立つ木に巻きつけた。

雑木林の歩きやすい踏み跡を登る。秋晴れの至福のひとつときだ。繊細な枝々の

伊那前岳

秋晴れの日に会の6人で木曾駒ヶ岳や宝剣岳を登ったあとの下山ルートとして、伊那前岳を踏んだ。登るといふより通過したというほうがびびったり当てるような山容だったが、眺望は最高だった。千畳敷カールへの分岐を過ぎれば登山者はぐっと少なくなり、行く手正面に南アルプスが一直線に並んでいる見事な尾根を進む。振り返れば、宝剣岳の岩峰に木曾駒ヶ岳の大きな山塊が、たいへん美しい。

この尾根の最後の展望地と思われる所で、少し登山道からはずれて昼食の大休憩をとった。濁沢大峰や槍尾岳、そして空木岳などの中央アルプスと、南アルプスの大展望を満喫した。

(平成10年10月11日歩く)

▲コースタイム▼

木曾駒ヶ岳頂上山荘テント場(40分) 伊那前岳(5時間) 宮田高原

△地図▽昭文社「木曾駒ヶ岳・空木岳」

激やぶの日照岳

にっしょうだけ

飛驒

山田明男

飛驒の白川郷と庄川郷の境に位置し、朝日が当たるのがもっとも早いので、この名が付いたといわれる日照岳。一般登山道は無いので、主に残雪期に登られている。

まずは、無積雪期に登りたいので、やぶの様子を見に昨年10月2日に入山した。標高1300mまでしか鉄塔巡視路の切り開きがなく、その先は激やぶだったので撤退した。やぶでだめなら残雪期にと、春分の日前の3月20日に再挑戦した。10月3日平瀬の温泉で出会った一宮の方がこの時期に登るのがいいと言われていたからである。

3月20日朝、東海北陸道が事故の通行



で450m程度だ。今日先行した単独の人の踏み跡は、標高1600mで終わっていた。

その先では少しラッセルするが、またすぐに自由に歩けるようになった。16

止めで渋滞があり、登り開始がとも遅く11時30分になった。尾神橋北のトンネル出口に駐車する。

前日の踏み跡が尾根にあった。登り始める時間が遅いので山頂までは行けないと思っただけ、雪が締まっていて直に登ると踏み跡はほとんど潜らず、ワカンもアイゼンも着けなくてよい状態だった。

トンネルの所から尾根をつめて登って行くが、直に登るのでほとんど高度を稼ぐ。1時間15分後の12時45分には標高1300m地点に到着でき、食事にした。昨年10月2日に到達した地点の10m上であった。

秋の風景とは全く違いますが、2〜3mの

40mのピークまで登れば日照岳の山頂がよく見えた。山頂への吊り尾根はやせ尾根で雪庇が発達し、右から左からと途中で方向が二度も変わる。初めて見る異様な風景で、雪庇も5〜6mはあり、さらに大きな所は7〜8mもあった。10mにもなる所もあるかも？ 雪庇の2〜3m横を慎重に歩く。稜線すぐ下のササの上には、雪が崩れ落ちた跡が多く見られた。

山頂の少し手前でガスが上昇してきて、視界がほとんど無くなりホワイトアウトになってしまった。保谷の源頭には大きな岩とさらに少し上に大きな木が二本あり、それがよい目印になった。

尾根が一つに合流して1000m程度西に向かい、最も高い場所の山頂地点を探すがよくわからない。下りになる手前で雪上に突き出た木の枝に山頂名の札があり、ここが山頂であった。

登頂できてよかった。14時45分着。日照岳1751m、三角点は3m、もの雪の下でわからない。

山頂名の札を写真に撮り、他の方も記念撮影をされて10分程で戻り始めた。下りの途中でガスが薄くなり、山頂方面も

日照岳山頂



雪を取り除けばやぶが現れるであろう。遠望はまずまずで、東は御嶽山・乗鞍岳・穂高連峰が眺められ、北は三方崩山とさらに奥に三方岩山・笈ヶ岳と覚しき山も見られる。北東方向で初霧山とは思われた山は、1等三角点の御前岳であろう。

食事は、ゆっくりもできないので30分で済ませて出発した。残りはあと標高差

眺められたが、山頂は完全には姿を現さなかった。下りは早く、滑れる所は尻敷きで滑ってくる。

今日登られた単独の方はつぼ足で、一つ北の尾根から来られていたのを確認した。1400mの尾根分岐であった。

1050m付近の尾根分岐では、尾神橋から前日米らされた方の足跡も確認したが、スノーシュー履きであった。

登りよりも下りのほうが足が埋まる回数が増えた。昼から雪がゆるんできた証拠であろう。1050mの分岐近くから小雪が舞ってきたが、視界は悪くならずに済んだ。とても早くくだれ、1時間半でトンネルの所まで戻った。

動物はイノシシ・カモシカ・ノウサギの足跡、ノウサギは糞を確認できた。

(平成16年3月20日歩く)

▲参考コースタイム▼

国道156号線トンネル出口(1時間15分) 標高1300m地点(1時間15分) 標高1640mピーク(15分) 日照岳(1時間30分) 国道156号線トンネル出口

△地形図V2万5千II御母衣

寒山・荷ヶ岳

長谷川 雅俊

鈴鹿

今日も国道306号線のゲートが閉まっている。鞍掛峠手前のタテ谷が土石流で流されて国道が埋ったためだが、コグルミ谷までは何とも無いので車を通して欲しいのだが……

ゲートを5時39分出発、途中でイノシシ二頭と出会い、高度3100mで鹿三頭と会う。やっぱり朝早く歩き出してよかった。動物との出会いも楽しみの一つである。

今回登る予定は、奥村光信氏の絵地図で水場として載っている谷、犬掃し谷より四本程下流の谷で名前前はわからない。6時28分谷に到着。のっけから5m位の垂直の岩壁、どこをどう取り付くか思案

している、以前降りた時には気づかなかった古いロープが垂れていた。かなり太いロープなので登山者用ではなく、植林の人のだと思いが、ガケ上によじ登ってビクッリ！何とロープは木に引っかけられているだけで縛ってなかった。

谷の左岸を少し登ると花期はすでに終わっていたが、ミカエリソウの大群落地にたどり着いた。高度4800m位、花が盛りの時は実に見応えのある風情がある。潤谷の多い御池岳周辺において一年中濡れることのない、この谷の源頭部をぜひ見たくて谷芯を直登して行くと、5350m位で源頭部にたどり着いた。水が斜面から吹き出していたが、すぐ20m程

寒山の南西から犬掃し橋、鞍掛峠を見る



上部は植林帯で何となく違和感があった。植林帯を避け、右ヘトラパス。尾根に出たので直登し、6000mでまた右ヘトラパスすると、ガレた谷に突き当たった。とてもトラパスできないのでガレ谷の右岸を直登すると、寒山(6500m)に到着した。8時55分だった。寒山は丸尾尾根の中間にあるピークで、そのまま220度の方角へ登り、673



が、906mの標高点を通り過ぎる。あまり人の訪れない尾根だが、970m付近に立派な炭焼き窯と住居跡の石組みがひっそりとあった。鈴鹿の山の良さはどんなに奥深い山に入っても、かならず昔の人々の生活の匂いを感じられ、安心感が得られる。11時2分に荷ヶ岳(冷川岳、1054m)に到着。高度計は1070mを指している。ほぼ正確なのは気圧が安定しているからだろう。冷川岳の山頂プレートが5分程南東へ行った所にある

が、これは間違いだと思う。地形図で見ても、泉境稜線と丸尾尾根との合流点のここでないといけない。

そのまま328度へ進み、右手斜面を今度は20度の方角へ降りる。このあたり一帯が犬掃し谷の源頭部で、940mまで降りると水が吹き出すようになる。かなりの急斜面で気を付けなければならぬがそんなに難しくはない。数mの滝や廊下状の所が何ヶ所かあるが、右岸を高めれば問題ない。左岸に比べて右岸側はほぼ植林されていて、人が入っていると

いう安心感がある。795mと605mにも炭焼き窯と住居跡があり、585mには、犬掃し谷で一番大きくて立派な窯跡と住居跡があった。しかもその炭焼き窯の上に3〜4m程の大きな岩がフタをするように乗っかっていた。こんな大岩が小生の上に落ちて来たらと思うと……

12時50分、この谷で一番大きな犬掃し大滝の落とし口に着く。高度計は5400mを指す。落差は15m程はあろうかと思うが、まさかタイプするわけにはいかないので高捲くことにする。右岸、左岸どちらでも大丈夫だが、今回は右岸の岩の

急斜面を590mまで登り、左ヘトラパス。途中で下降しようとしたが怖くてそれ以上は降りられず、また高捲いてしばらくしてから谷へ降りる。13時37分に4800mの谷芯に無事到着。谷を少し登り、犬掃し大滝の滝壺へ行って写真を撮る。普段は潤滝だが、こんなにも水量がある滝を見るのは初めてだ。やはり台風の影響がまだ残っているようだ。

最後の課題は国道の赤ベッキの橋へどちらから登るかだが、以前左岸側から登って怖い思いをしたので、今日は無難に右岸のロープを使って無事犬掃し橋に到着した。時間は14時14分。ホッとひと息。あとはチンタラと国道を歩いてゲートに15時3分着。

うーん、今日は充実した一日だった。(平成16年10月24日歩く)

▲参考タイム▼

ゲート5・39 | 奥村水場谷出合6・28 | 源頭部8・10 | 寒山8・55 | 荷ヶ岳(冷川岳)11・02 | 犬掃し谷源頭部11・16 | 犬掃し大滝落とし口12・50 | 犬掃し大滝の下13・45 | 犬掃し橋14・14 | ゲート15・03
△地形図▽2万5千ニ縮立

もう一つの三舞谷コース

三舞谷南方尾根登高

比良

小山 誠次

三舞谷コースは難路である。筆者は今まで三回三舞谷コースを歩いている。初回は本誌66号掲載の山行計画で秦康夫氏御案内のもと、二回目は単独行で、三回目は筆者の山行グループ「比良眺水会」の会員を案内して。しかし、その都度なぜ右股を左岸から右岸に渡り、さらにその上流で渡り返すようなルートになっているのか、といささか疑問に思っていた。そこで、右股を渡らずに登頂することができないものか、とかねてより考えていたので、今回試行登山を実施することにした。

平成16年9月25日、滋賀県の降水確率は北部・南部共に午前20%、午後10%だった。

た。7時45分出町柳駅発朽木村行き京都バスは、定刻より1分遅れで発車した。本日は曇り空のせいも、予想よりも乗客が少なく、楽々と座ることができた。8時50分葛川梅ノ木着。石楠花山荘のトイレで用を済まし、家人に礼を述べる。

準備を整えて、9時13分「曹洞宗梅花講普濟寺支部」の表札を掲げた寺の手前で、左の山道に入っていく。入口には「三舞谷道」の木板が杉の木に懸かっている。その入口付近では小さなシェル・ローダーが道をつくっている工事の最中だが、本日は休みのようだ。杉の伐採・搬出のためだろうか。

さて、三舞谷道登路は先の寺を右下に

山蛭がアチコチに蠢いている。しかも立ち止まると、筆者に向かって移動してくる。こんな所で腰を下ろして休んだら大変だ。といっても、身体が十分慣れきる前からの急登なので、小刻みに立ち止まりながら氣息を調え、さらに上方を指して頑張る。

そしていよいよジグザグ道が終了し、ガレ場を高捲く道を経て、これから三舞谷本流に沿うユリ道に差しかかる。この

あたりで水音が左下方からよく聞こえるようになった。ちょっと行くとすぐに右股と左股に分岐する手前の地点である(写真1)。時期によっては分岐点がよく見えることもあった。

ここからが本日の本番である。高度計は標高520mを指している。改めて地図で確認し、磁石で方位を定める。ここからしばらくは杉の植林地帯のなかを南方向に進路をとる。計算上、登頂予定路に沿っての斜度は27度である。斜面を直登したり、ジグザグに歩を進めたり、または木の幹をつかんで身体をよいしょと持ち上げたりの登高である。

本来の三舞谷道は左手下方に徐々に離れていく。もちろん道は視界に入らない。出発後24分経過し、標高差1000mを稼いだ所で、ちょうど乾いた平坦な大きな石があったので、腰を下ろした。木々の隙間から町居の家並が遠望できる。

両方のロングスパッツの外側に吸着した山蛭を手で払っただけでなく、チャックを下ろし、内側に侵入している山蛭も排除した。危うく靴の中に入ろうとする一匹を辛うじて退治した。樹上より機元、に落下してこないだけ幸いである。ただ、

(写真1) 標高520m地点



見下ろした後、杉の植林地帯のなかの急斜面をジグザグに登って行く。この付近は赤いテープではなく、白い化学繊維の紐でマーキングされているが、どうも新しいようだ。山道は10分も登ると、自然林のなかの石がゴロゴロした場所を通過するが、2分程で脱け出る。その間、湿気を充分帯びた枯れ葉の堆積した地面をよく見ると、尺取虫のような動き方をした

驚いたことに、筆者は滑り止め付きの軍手を愛用しているが、なんとその編目から侵入し、右手の薬指に吸着され、点状出血を発症した。敵ながらあっぱれと言いたいところである。そうこうしているうちに、このあたりからは敵の姿を見かけなくなった。

次の標高差1000mを稼ぐまでは16分要したが、ここは比較的歩きやすかった。進路を南方向から南東方向に変更すると共に、尾根がだんだんと狭くなっていくのがよくわかる。一般に獣道は本来の道と錯乱しやすいものとして否定的に扱われている。しかし、道のない急斜面を登高するときは、登りやすさという点では獣道は大いに助勢たりうる。動物でも滑りにくい道筋を重宝しているはずだからである。筆者も糞の点在する獣道らしき跡をたどった。

次の標高差1000mを稼ぐ(即ち、標高820mに達する)までには、やせ尾根上をずつと歩かねばならなかった(写真2)。登路の右側は実際は地図で見るとよりもっと急峻で、広い谷に落ち込むような印象だった。あたかもイオウハゲの裾野を見ているようである。尾根上に大





(写真3) ガスに霞んだイオウハゲを見下ろす

後は大山口でダケ道を合わせ、たわわに実った野ブドウを見上げ、道端にはミズヒキの鮮赤色に目を奪われながら、正面谷に沿う道をくだった。

金養峠では、青ガレ付近での落石、土砂崩れに注意喚起する案内が掲げられている。それを読んでみると、1人の登山者が登って来た。筆者はそれに勇気づけられ、予定通りの下山路ととした。注意しながらの下山開始14分後、今までに無かった谷筋の崩落跡を通過した。おそらく先の大雨で増水、濁流となって崩落したものであろう。

将米、金養峠道は赤色の実線ルートではなくなるかもしれない。青ガレに着くと、アキチョウジが魅々と控え目に咲いていた。

咽を潤している山腹の湧き水には、誰かが合成樹脂の管を設置してくれている。そういえば、今年初めてのヨキトウゲ谷道である。

大橋への分岐点を過ぎて6分後に金養峠に着いた。ここでも小休止。金養峠からは琵琶湖と空に浮かぶ積雲がよく眺望できる。空だけ見れば、夏真っ盛りである。

いつもなら山の端に木漏れ日がチラホラ見えるのに、ガスのために希望の明かりが見えない。ふと気がつくと、周囲は枯れた背の低いクマザサで、そのなかを歩いている。植生上から稜線に近いことがわかった。

12時19分、イオウハゲを稜線より見下ろす位置に達した。標高1020m付近である。その横に、今年初めて出会うキタヤマブシの薄紫色の花が咲いている。相変らずガスがかかり、視界は悪いが、ようやく目的を達した思いでいっぱい。咽を潤す六条麦茶の美味なることよ。

後は平坦地を少し行くと、御殿山コースの終点近くで二条に分岐している山道の一方にすぐ出合った。ここから御殿山まで11分を要したが、相変わらずガスが濃く、武奈ヶ岳もコヤマノ岳も何も見えない。雲のなかで小休止とした。

当初の予定では、ここまででかなり疲労困憊しているはずだから、御殿山の山頂で昼食を済ませ、直接坊村に下山することを考えていた。しかし、難コースを達成後は、すぐに山を下りたくないと、う気持ちのほうが強くなって来た。JR比良駅まで3時間半の行程を楽しむこととした。そこで、ワサビ峠から口ノ深谷源流の広場までくだっての昼食タイムとした。13時7分着である。

イン谷口からは、もう少しで黄色くなるセイタカアワダチソウを横目にJR比良駅に向かった。16時29分JR比良駅に到着し、33分発の新快速で京都に戻った。帰路に見た比良山系の頂上は雲のなかであつた。

本日のもう一つの三舞谷コースは、右股を渡るコース自体が難路なので、際立って難度が高いわけではない。尾根上を登高する点にさえ注意すれば、後は忍耐・持久力との勝負である。

本日は比良山ベッタリの満足すべき一日だった。(平成16年9月25日歩く)

- △コースタイム▽
- 葛川梅ノ木バス停(37分) 標高520m
 - 地点(1時間52分) 標高1020m
 - 地点(18分) 御殿山(17分) 口ノ深谷源流沿いの昼食広場(12分) 中峠(14分) 水炊場(24分) 金養峠(14分) 崩落跡(39分) 大山口(19分) イン谷口(30分) JR比良駅
- △地図▽
- 山と溪谷社『比良・北山東部』



(写真2) 三舞谷南方のやせ尾根

大きなカヤの木がドッシリと根を張り、登路を谷側にとらなければならぬときは慎重になった。

やせ尾根をたどっているとき、一見踏み跡かなとも思える幅の狭い平坦な地形に気づいた。長くは続いていないので何とも言えないが、柚人の行き交う道の可能性もあるだろう。

11時41分、標高910m付近に達した頃よ

ツェルマットでの7日間

生駒 聳 峰

ヨーロッパ

ツェルマットはウインバーのマッターホルン初登頂で有名だが、転落死した人達の墓が教会の裏にある。小さい墓地だが、その外にも遭難者の墓がいくつもあり、本物のピッケルが添えられている。登山基地の村を象徴している。またウインバーが宿泊したホテル・モンテローザの一室には、彼の若き日の写真が飾られているが、ホテル外壁の晩年の胸像とは別人と思えるくらい美青年であった。

山岳博物館では遭難時に切断したロープが展示されているが、全くの荷造り用で、興味深かった。山に関心をお持ちの方は、マッターホルン登頂記を読むことをおすすめする。

午前8時発の一番電車でゴルナーグラートに向かう。途中から大きなグレイハウンドの犬が二匹乗り込んでくる。巨体のわりには全くおとなしい。しかしちょっと臭い。後で撮影用のモデル犬とわかった。

ゴルナーグラートでは時々小雪が舞い、晴れていたマッターホルンにもいつしか雲がまとわりつき、モンテローザからブライトホルンにかけての山々も、頭はすっかり雲のなかで、全景を現さない。

次々と到着する登山電車からは、続々と日本人が吐き出されてくる。ここでも



スイス・アルプス略図

ツェルマットの商店街はグリーンデルワルトより賑やかで、高級品店も多くあり、スイスのお土産に事欠かない。日本食レストランはもちろん、普通のレストランでも日本語のメニューが置いてある。スイバーマーケットも二軒あり、食料品にも事欠かない。ここでも日本人観光客が大半を占めていた。

夕食はバルコニーで、夕陽に輝くマッターホルンを眺めながらワインを傾ける。スイスパカンス真只中である。

朝5時50分、マッターホルンが朝日に輝き出す。黄金の光は山頂の一角からみるみる中腹に向けて下がっていく。私は慌てて隣室の夫婦を呼びにゆく。部屋にほとんど中高年の女性ばかり、日本の山でも同じだが、女性のパワーはすごい。

ゴルナーグラートから歩いて下山する。湖面にマッターホルンが映る湖では、山が晴れるのを待つ人でいっぱい。しかし山頂にかかる雲は次々と発生し、いつまで待っても全身を現さなかった。台地はすばらしい広がり、クライン・マッターホルンやシュワルツゼーのホテル、マッターホルンの登山基地のヘルンリ小屋まで一望である。次のリッフェルベルク駅までくだり、草原で弁当を広げる。マッターホルンは、いつまで待っても全身を見せてくれなかった。

町に戻ると、妻は一変してショッピング魔に変身し、ブランド品をあさり回る。これも旅の楽しみの一つだが付き合いきれない。ええ加減にと止めると、次からいっしょに来ないと怒る。仕方がない、好きにしてください。昨日夕陽に輝いていた山も、今日はご機嫌が悪くなかなか雲が取れなかった。

翌日は世界で最高地点にあるロープウェイで、クライン・マッターホルンに登る。あいにく今日も空は雲がいっぱい。山頂はホワイトアウトで一寸先も見えない。

マッターホルン



よっては全く山が見えない所もあるので、このすばらしい一瞬をいっしょに楽しめたかった。

双眼鏡で覗くと、山頂の十字架が光って見える。6時10分には山はすっかり太陽の下にあった。グリーンデルワルトでは展望の良いくない部屋だったので、添乗員が良い部屋を用意してくれたようである。

展望台には雪が凍りつき全くの冬山状態であった。少しくだつてロープウェイを乗り継ぎ、シュワルツゼーに登る。ここはマッターホルンの登り口で、展望がすばしいはずだが、昨日と同じく雲が多くて残念だった。

ここからツェルマットにハイキングでくだる。驚いたことに、ロープウェイに自転車を乗せて来た若者が降りて行く。下まで林道が付けられていた。登山道に入ると、雪がちらつき始め、やがて吹雪となる。山とはいえ7月のことである。一時はハイキングを中止しようかとも思ったが、しばらくすると雪雲も去り、真っ白に雪を被ったマッターホルンが浮かび出た。さらにくだると、道はのどかになる。牛が草を食み、花々が咲き乱れている。橋を渡って古い佇まいを残すツェルマットの村に入る。素朴な喫茶店が開いていた。後はツェルマットにくだるだけである。今の時期は、朝5時から夜10時まで明るい。

翌日も天候は良くない。スイスの今頃は天候不良の時期なのか、山岳地帯だからか、グリーンデルワルトでも天候は全く良くなかったが、今年だけが異常なのだ



エーデルワイス

ろうか。

ロートホルンに登る。まずスネガまで地下トンネルのケーブルに乗り、ロープウェイを乗り継いで山頂に立つ。霧が舞いゴルナーグラートの山稜も定かでない。本来ここもマッターホルンの展望がすばらしい所だが、残念である。少しの霧の晴れ間に、奥ロートホルンが雪をまとった肌を覗かせていた。

山頂広場には、外人の詩が各所に立てられていて日本語で解説されていたが、あまり我が意を得るものではなかった。ロープウェイを一駅くだった所から湖の

周遊コースを歩く。このあたりは、スイスの国花エーデルワイスが咲いている所で、探しながら歩く。エーデルワイスはそんなにたくさんはなく、見られれば幸せである。一般の観光ルートでは見られず、今まで私も写真で見ただけである。「ここにあった!」と、ガイドが声を上げるくらいだが、何と高さ3〜4m、花の大きさは2mくらい。しかもただ一本の茎に一花である。群生はしていない。これが有名なスイスの花か、というくらいであった。日本のウスキソウに似ている。

高原にはいろいろの花が咲き、次々と花を求めて歩く。やがてあまり大きくもない湖に到着した。各自好みの所で昼食タイム。山はなかなか雲が取れないが、下界は晴れていて展望が広がる。のんびりハイクはくだるばかりで、流れ解散となる。各自で花を求めたり、古い村をカメラに収めたりして、ツェルマットに戻った。

次の日はサースフェーの観光である。ツェルマットから1時間程列車に乗り、シュタルデンからポストバスで40分程入る。サースフェーは日本からのツアーで

だ。
天候が回復してきた。今日は先日登ったスネガから、ロートホルンに行き、歩いてくだるコースをとる。晴れていれば一日中マッターホルンが見られる所である。

まずスネガでマッターホルンを背景に記念写真を撮る。まるで撮影場の背景のようにマッターホルンが納まる。連日の曇り空を取り戻すようにシャッターを押す。これでツェルマットに来た目的達成というところである。

先日と変わり、ロートホルンの山頂では、ゴルナーグラートからモンテローザ・ブライトホルン。そしてマッターホルンまでの山が青空の下に輝いていた。「待てば海路の日和あり」、パンゼーイ。

トレイルには全く人影も無く、私達だけ。道々エーデルワイスを探しながら、るんるんと進む。ある所にはあるもので、貴重な花が各所で見られた。もう誰も「あった!」と声を上げなくなった。

マッターホルンは雲一つ無く、昨日までの天気が嘘のようである。恰好の岩に妻を坐らせ、何枚もシャッターを押す。アマチュアカメラマン一丁あがり。

タフターレンの村におけると、解散となる。後は森林のなかをツェルマットに向かっただけのんびりとした。

翌日は朝からマッターホルンが輝いた。到着した日と、最後の日だけが朝日に輝く姿を見せてくれた。グリーンデルワルトでもそうだったが、ここでも連日いそがしかったので、最後の一日だけのはんびりしよう。しかし、妻はスイス最後の日として、ショッピングにいそがしい。私に例のごとく、バルコニーで、グラス片手に飽くこともなく山を眺めていた。スイスは三〜四回目になるが、今回は心ゆくまで観光できた。年齢的にも、もうスイスに来ることはないだろう。少し感傷的にマッターホルンに別れを告げた。

ツェルマットを氷河特急で出立する。観光で有名な氷河特急も、列車から氷河が見えるわけでもなく、列車食堂もお粗末で、山あり谷ありのコースを走るけれど、期待はずれだった。たかさんの山や氷河を見た後だったからかもしれない。

トウリンでバスに乗り継ぎ、チューリッヒの空港に到着する。後は帰国するばかり。楽しかったスイスパカンスはここに終了した。(平成16年7月歩)

はあまり知られていないが、ツェルマットの北側に見えるミシャペル連峰の裏側に当たる。ここも立派な観光地で、テレキャビンが縦横に走り、トンネルの登山電車で、山頂近くのスキー場まで登れる。夏スキーを大勢の人が楽しんでいる。ここは左右に氷河が迫り、背後に白銀の峰がそそり立つ。すばらしいというより、凄い景色である。一度トに戻り、テレキャビンを乗り継いで、氷河の懐近くに登る。本当に方々に乗物が通じている。雪におおわれた稜線に一つにトレイルがあり、数人の人影が見える。なだらかなコースで、私でも登れそうであった。

大雪渓を前にして弁当を広げる。ドドーと音が響いてくる。氷壁のどこかが崩れたらしい。しかし、音が聞こえてからでは雪崩は終わった後で、目を凝らして眺めている時にはなかなか見つけられなかった。今日は天候も良く、氷河が輝きサングラス無しではいられない。

一駅下にマーモットの公園があり、餌も売っている。ここではマーモットが人の手から餌を買う。それをカメラに収めようと、人々が待ち構えている。今日も十分に山と氷河と、マーモットを楽しん

新製品紹介
◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのザックです。

☆26L☆
・カラー ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー
・フリン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
・重量 820g
・素材 ナイロン・リップ
・価格 ¥16,500

イモック山遊行くらぶ
6月19日(日) 大船山 行者道(1,546m)
7月17日(日) 大台ヶ原(1,695m)
詳細はお問合せ下さい。

イモック 山遊行くらぶ
IMOCK
KORE
7053-0039 神戸市長田区白濁町3丁目1番30号
カナソノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
■営業時間/10:00~20:00 ■日曜日不定休

ノルウェー国境の山々を眺めつつ北欧トレッキング

バジエランタレーデンを歩く

利倉正洋

スウェーデン

●はじめに

北欧にいっつかのトレッキングコースがあるのをご存知でしょうか。以前、NHKがBSで「王様の散歩道」(クングスレーデン)を放映したのを憶えている方もあるかもしれませんね。

私は定年を迎えてフリーになった年から、ひょんなことでスウェーデンのトレッキングコースを歩き始めました。一、二年目は前述のクングスレーデン(レーデンは道の意)を歩き、昨年の夏にはバジエランタレーデンにチャレンジしてみました。私のような年齢でも楽しみながら(1人で)歩けたということを紹介しま

スウェーデンのずっと北の方に北極圏のラインがありますが、このあたり、特に西寄りの一帯は樹木も生えていない高原地帯になっています。その中に標高2000m位の氷河をもつ山が散らばっています。トレッキングコースはこれらの山々の間をぬってゆるやかに続いています。大体が氷河期の氷河が流れた跡なのであまり急な登り降りもなく、1日に13~25kmを歩きます。ひたすら歩くのです。1日行程ごとに山小屋が建っています。団樂室のガスを使って自分で食事をつくり、寝室の二段ベッドでゆったりと眠ることができます。会話は片言英語で通じます。トレッキング中はほとんど人に会

(1日目) アッカ山 (2016年)



わないので、話したくても話せないという状態になります。気温は夏の北アルプス程度で思ったほど寒くありません。緯度が高いので夜遅くまで明るく、その点歩いていても気分が楽です。

●バジエランタレーデンのこと

バジエランタとはサミ(ラップ)語でハイランドという意味だそうです。北極

圏のラインより北の北緯67度から68度付近になります。コースの七割位がバジエランタ・ナショナルパーク(日本の地図でパドヤレンタと書いたものもある)の中にあります。日本ではまだよく知られていないトレッキングコースで、クングスレーデンに比べると湖や川が多く、総体にゆったりとした感じがします。前半はお隣のサーレク・ナショナルパークのすこい氷河を眺めつつ歩き、コース途中から大きな湖の向こうに雪をいただいたノルウェー国境の山々を遠望できます。後半は、白樺の生えた広い谷間をのんびりと行くといっ

たイメージです。トナカイが見られる機会はクングスより多いかもしれません。クングスとの大きな違いは山小屋に食料品を置いていないことで、したがって食料を自分で担がねばなりません。全行程では約10日間かかりますから、1日600gとして6kgの重さになります。とはいえ、山小屋に大体サミ人がナンプレッドや燻製した魚を売りにきます。これを利用すれば、ある程度荷物の調整が可能です。実際に私が担いだ荷物は中版カメラも含めて、スタート地点で20kgほどでした。

バジエランタレーデン付近略図



●旅程概要

スウェーデンの首都ストックホルムに飛行機で到着します。早い時刻に着けば、その日の夜行列車に乗れますし、そうでなければ、ストックホルムに一泊します。

夕方17時頃夜行列車が出発、翌日の昼前にキルナより手前にあるイエリヴァレ駅に到着。イエリヴァレには空港があるので、日程に余裕がなければストックホルムから飛行機という手もあります。イエリヴァレ駅前からバスで終点のリッセルム村に着きます。ここからトレッキン

グ開始となり、南端のクヴィックヨック村までえっさえっさと歩きます。このクヴィックヨック村の古い教会は「ニルスの不思議な旅」に出でます。クヴィックヨック村からはバスでイェリヴァレ駅へ戻るか、サミ人の町として有名なヨックモックに寄って町を散策するか、ということになります。

●トレッキング記録

1日目(7/12) リッセム村→キスリス小屋(14^時)

山荘から船着場まで20数^分のザックを背負って降りる。この重さで果たして10日間も歩けるのか一抹の不安。乗船客は8名。約40分対岸着。細い白樺がまばらに生えている斜面を登る。台地状の平坦になり、左手に有名なアッカ山(2016^m)の大きな氷河が光っている。12時きれいな小川に出合い昼食。昨夜ここでテントを張ったというデンマーク人といっしょに出発。ポツポツと細い白樺のある広い草原の登り降りが続く。サーレクへ入るといふデンマーク人と別れて間もなく15時半小屋に到着。この旅最初の山小屋である。数名しか泊まってい

プロバングスコンロを置いた調理台でカレーをつくる。マッシュポテトとドライオニオンが役に立つ。

2日目(7/13) キスリス小屋→ラデヤッカ小屋(23^時)

夜半からの雨が強くなってきた。レンイスーツ・ザックカバリーをしっかりと着け出た。林間をくだると広い湿地草原に出た。コースから離れて向こうの方に湖とサミ人の小屋が雨を通して遠望される。やがてゆるい長い登りが続く。昨夜同部屋だったドイツ人女性と追いつ抜かれていた。彼女は二本ストックを使用、頑張っている感じ。くだつて大きな吊橋に出る。水が白波を立ててとうとうと流れている。独特のグリーン色である。百均の自転車カバリーを出し、すっぱりかぶって昼食をとる。中はけっこう明るくて落ち着く。ゆるい登り降りを繰り返す。さすがに長い。トナカイの群れを斜面に時々見かける。小屋が見えてぐっとくだつて到着。17時。雨が止んだ。今日はほとんど蚊に悩まされなかった。泊まり客がそこそこいた。

3日目(7/14) 休養日
サミのおばさんがキャンパスを巻いてつくった三角小屋でナンを焼いている。幼い娘がお母さんに纏わりつく。彼女達も秋にはヨックモックに戻るそうだ。

4日目(7/15) ラデヤッカ小屋→アラスルオクタ小屋(13^時)

8時出発。1人である。夜半強かった雨も小止みになる。ひと登りすると比較的楽な広い尾根筋を行く。左手後方に霊の切れ目からサーレク山々と氷河が見えるが、全容は現さない。周囲にもけっこう残雪が残っている。11時半大休止。昨夜焼いたホットケーキを食べる。朝から誰にも会わない。13時過ぎ立派な吊橋に着く。ここでやっとトレッカーが来る。お互い懐かしそうに挨拶をする。西方(右手)にノルウェーとの国境の山々が見え出す。蚊が多い。8度。斜面をぐるりと捲いてくだると小屋着。草地に宿泊小屋が四棟あるが誰もいない。400^mくらい離れたサミ集落へ行き、宿泊するむね伝える。夜、サミのおばさんが宿泊費を集めに来た。日本人は初めてだと言

5日目(7/16) アラスルオクタ小屋→スタロールオクタ小屋(12^時)

昨夜1時頃目を覚ました。日本の夕方の明るさ、机の上の文字が十分読める。朝、すばらしい天気になっていた。あわててカメラを持って集落がある湖の方へ行く。北欧独特の光線である(実際良い写真が撮れた)。8時45分出発。10度。一度ぐっと登って山腹を廻ると右下に大



(5日目) アラスルオクタ村の朝



(5日目) スタロールオクタ村へのトレール(木道)
(湖の向こうはノルウェーとの国境の山々)

きな湖を見下ろすトレールとなる。天気が良いのですばらしい景色だ。湖は青く、湖のほるか向こうには雪をいただいた園境付近の山が遠望される。左手より斜面を流れてくるせせらぎのため、花も多い。途中、斜面に寝転んで景色を堪能する。15時、今回の旅のハイライト、スタロールオクタ村に着く。小屋に入るとキスリス小屋でいっしょだったドイツ人女性

出てきて「足を痛めたのでヘリコプターで戻る」と言う。ちょっと頑張りすぎたのだろう。この村には夏だけヘリコプターの定期便がある。夕食をつくっていると1日目に会ったデンマーク人がひょっこり入ってきた。訳をきくと、天候が悪かったのでサーレクは中止し、バジェランタを歩くことにしたという。偶然、私と同じ歳である。トムソンと呼ぶ。

6日目(7/17) 休養日

サミ人の集落や、丘の上にあるサミの教会など見て歩く。夕方(夜)ヴィリハウレ湖に落ちる夕日の写真を撮る。夕風の後陸風に変わりぐっと涼しくなる。この山小屋は大きく周囲の景色もすばらしい。サウナが裏の水辺のほとりにある。

7日目(7/18) スタロールオクタ小屋→ツウオクタ小屋(19^時)

8時40分出発。良い天気。右腰上あたりが少し痛む。筋肉通のようだから問題ないだろう。ゆるい登りで湖から離れ内陸へ入っていく。11時20分頃高みに着き、振り返ると湖が遠くになった。徐々に雲



(11日目) サマラッパ～ニュニエス間 (眼下にニュニエス小屋を望む)

れて大きな湧き水の池を見に行く。1人で歩いていたら全く気がつかないだろう。15時30分山小屋着。天気が良い。洗濯。白樺の木にロープを張って干す。のどか。S.T.F.運営の小屋なので食料が買えた。コンビーフ一缶をたいたげる。

11日目(7/22) サマラッパ小屋
↓ニュニエス小屋(19時)
6時30分起床。すばらしい天気。外に出て写真を撮る。川面に霧が流れて幻想的。8時30分出発。白樺の林や広い草原。大体右側の広い川に沿って歩く。左手は岩壁がずっと続いている。ゴロ岩の道が多く、神経をつかう。ストックは有効である。昼すぎトレカライセ小屋を通過。管理人の若い女性から手紙(恋文?)の投函を頼まれる。こんな若い女性1人で小屋番をしているなんて、日本ではちょっと考えられない。道からはずれて森のなかを歩くと岸辺にサミ人の土小屋があった。彼等が魚を捕りながら旅をする際に使う小屋であろう。前の広場で大休止。昼寝をする。やがて悪い岩だらけの道を長く歩き、突然眼下にニュニエス小屋が見える丘に出た。斜光のなかにすばらしい広がり景色がある。ちょっと感動。19時すぎ小屋着。今回最後の山小屋である。親切に気さくなおばさんが管理人をやっている。小屋の前に堂々とした岩壁がそそり立っており、大鷲が巣をつくっているらしい。

12日目(7/23) ニュニエス小屋
↓クヴィクヨック村
おばさんにお礼を言って出発。西方は晴れ。どんどん森のなかを歩く。すごく広い湿地原も数ヶ所あった。やがて針葉樹林となってくる。蚊とブヨ。岩のゴロゴロする道も多い。所どころに休憩による流れが森のなかにあり、1時間に20分の休憩ペースで行く。ほどなくボートの船着場に飛び出た。トムソンと握手、お礼を言う。14時になりエンジンの音が聞こえ、やがてボートが姿を現した。ザックを放り入れて乗り込む。もう歩く必要がない。クヴィクヨック村までこのボートが運んでくれるのだ。

紙面が限られているので十分に書き切れませんでした。私のホームページで補っていたら幸いです。ヤフー検索で、キーワードに「北欧トレッキング」と入力していただければ出てきます。
(平成16年7月12日～7月23日歩く)



(7日目) ツウオータ小屋

が出てきて寒々しくなってきた。風を避けて岩の窪みで昼食。今日はじめてのトレッカー青年4名が向こうから来る。そうこうしているとポツリときた。細かい起伏が果てしなく続く。岩場と草原のミックス尾根。山上湖のそばを数回通る。小屋の手前で冷たい渡渉を二回やらされる。16時小屋着。周囲に小さい池が段差をもって点在する。これが氷河の置き土産、ハ

イタインと呼ばれるものだろう。夕方、親子3人連れとトムソンが到着。親子連れは私と同じ棟に入る。女の子は8歳である。夜半、隣の棟にいた怪我人をヘリコプターが吊り上げにきた。すごい爆音、UFOみたい。この小屋はコース中一番標高が高く、約9000ft。
8日目(7/19) ツウオータ小屋
↓チャラルオッパ小屋(11時)
行程が短いので11時半出発。小屋を出たとたん雨。荒涼とした尾根状を歩く。ポンチョを着たトムソンが追いついてきた。いっしょに歩く。このあたりも小さい池が点在。霧岩の間の道。天気が良いればサーレクのすごい峰々が見えるのである。残念。15時半小屋着。トムソンもテントをやめて同じ棟で泊まることになった。夕方、サミの青年が集金に来た。しばらく話していく。腰の痛みは和らいだ。
9日目(7/20) 休養日
悪天候のため、小屋に沈殿。終日トムソンと話をする。単語を繋ぎ合せてなんとか意味だけは通じる。隣の棟に入っ

いた親子連れは嵐雨のなか、出発していた。小屋から10分くらい先の渡渉場所まで彼等が難儀している様子が双眼鏡でよく見えた。結局1時間後に無事渡り終えた。大したものである。夕方、小降りになったのでサミ青年の管理棟を散歩がてら訪ねてみた。ナンをフライパンで焼いていた。二枚買う。ひとしきりこの国におけるサミ人のこれからのことを聞いたりした。帰りに雨が止んで小鳥が囀っていた。
10日目(7/21) チャラルオッパ小屋
↓サマラッパ小屋(13時)
8時15分出発。トムソンといっしょである。曇り、7度。腰の高さ位のブッシュのなかのトレール。この一帯はレッドフォックスの生息地らしい。そういえばワッペンにも狐が描かれていた。渡渉を繰り返す。これが昨日だったら大変だっただろう。12時になったので気持ちのよい草の斜面でお昼。浅いせせらぎが音を立てている。北欧のトレッキングコースはいったる所に気持ちのよい流れがあり、ほとんど水筒は必要がない。やがて白樺の疎林。徐々に高度を下げていく。途中、道をそ

オレゴン州とワシントン州の山旅

デファイアンス山・フッド山麓 ロモナ滝・セントヘレンズ山

内田嘉弘

アメリカ

ポートランドへ

2004年7月9日、16時15分タイ航空TG774便にて関西空港を飛び立つ。ロサンゼルス10時40分着(時差-16時間)。13時UA273便でポートランドへ飛び立つ、途中Mt. Rainier(9975呎)が山頂から雪を放射状に広げているのが眼下に見える。15時50分ポートランド着。ジュディさんの出迎えを受け、バンクーバーで宿泊するエクステッド・ステイ・アメリカにてチェック・インする。ジュディさんは、私達が住んでいる城陽市の姉妹都市ワシントン州バンクーバー市の元職員で、交換職員として城陽市役所にて半年間仕事をされたことのある自然を愛す

る親日家である。

アストリアへ

7月10日、ジム・モックフォード氏の案内でコロンビア川河口にある港町アストリアへと向かう。氏はオレゴン大学アジア学科と日本語学科を卒業、1985年までオレゴン州日米協会専務理事をされ、1983年には米国下院議員グループと来日し、当時の中曽根総理大臣、三木元首相、マンスフィールド駐日大使ほか政財界のリーダー達と交流された。アストリアはラナルド・マクドナルドの生誕地で、ジム・モックフォード氏は「米国マクドナルド友の会」の会長であ

1980.5.18 噴火以前のセントヘレンズ山



る。マクドナルドの石碑は、港が見下ろせる丘にあった。

ラナルド・マクドナルドは、ハドソン湾会社幹部を父、チヌーク族長の娘を母として、ここアストリアに生まれた。日本人とアメリカ先住民の祖先が同じだと信じた彼は、当時鎖国状態にあった日本への入国を決意。1848年、米捕鯨船ブリマス号の船員として北海道東北岸沖

に到着し、ボートで憧れの日本に向かったが、利尻島に漂着して捕らわれ、長崎に送られた。長崎の牢屋敷に幽閉されている間に、日本人通詞に英語を教えた。そのためラナルド・マクドナルドは「日本における最初の英語教師」と言われている。この時、牢屋敷で英語を教えた生徒は14人で、特に熱心に英会話を勉強した通詞・森山栄之助はその後日米和親条約の時の主任通詞として活躍している。ラナルド・マクドナルドの回想記「インディアンを見た幕末の日本」(富田虎男訳)でも、彼が強く日本に憧れていたこ

とがうかがえる。

「日本国民!」彼らこそ既存の諸国民のうちでもっとも古い国民であり、また愛国的閉結のもっとも強固な国民である。すぐれて戦士的な民族である彼らは、世界のあらゆる強国をも——フビライ汗から今日まで——みごとに撃退し、敵を国土に寄せつけなかったのである。……現在の人類中もっとも古い民族。はるかな豊饒の海によって岸辺を洗われ養われたる「東方の島国」帝国。……その国民はどんな国民か。その国民の習慣はどんな習慣か。黄金きらめき、もっとも貴重な財産を蔵するその比類なき富とはなにか。その国民の社会的、地域的、国民的生活はどんな生活か。……」

豊饒の海とは、日本海の鯨のことで米國はそこへ捕鯨船を出していた。マクドナルドは捕鯨船の船長に頼み込んで小舟で漂流と見せかけて利尻島へたどり着いたのだ。

ラナルド・マクドナルドの半生を描いた小説に『海の祭礼』(吉田昭著)がある。

アストリアの一番高い丘に上がると小型の船を四本の柱で支えたチヌーク族の

大酋長の墓があった。それはマクドナルドの祖父の墓と言われている。その丘にアストリアコラム展望台がある。164段の螺旋状の階段を登ると南に広がる大地にこぼりと盛り上がった二つのピークを持つSUMMIT ELEVATION (32282フィート)が見える。ナンダ・デヴィのミニチュア化した山だ。メートルに換算するとたった998呎の山ではあるが、登高意欲に駆られる山姿だった。

デファイアンス山 (Mt. Defiance
1512呎)

7月11日、グッグ・ウィルソン氏の出迎えを受け、彼のジープに乗り込み8時に出発。コロンビア川左岸のハイウェイ(国道84号線)を約1時間程湧り、出口55の広場に車を置く。ここがデファイアンス山の登山口でトレイル414のスタート地点で、そのトレイルがデファイアンス山へのルートなのだ。今回案内してくれるグッグ・ウィルソン氏の奥さんは日本人で、彼は日本百名山を登ることを目標にしておられ、既に50山程登っておられる親日派だ。半ズボンスタイルのグッグさんのリードで出発する。約5000呎





フッド山



アダムス山

音吉がワシントン州北西部 Neah Bay に日本人として、はじめてアメリカの土を踏む。……と刻まれてあった。
1832年10月11日(旧暦)、宝順丸(150ト位、長さ15ト位)は、尾張藩の米や陶磁器等を江戸に運ぶため、鳥羽を出航したが、遠州灘で嵐に遭い舵が壊れた。そのままでは転覆の恐れがあるため帆柱を切断し、黒潮に流された。乗組員は雨水や積荷の米で生き延びたが、壊血病などで14人の乗組員のうち11人が亡くなった。1年2ヶ月後の1834年1月フラタリ1号に漂着したのは、音吉・久吉・

三吉の石碑

7月12日、バンクラー市庁へ表敬訪問、市長と会う。

その後、コロンビア川右岸にある三吉の碑へ。

「三吉の碑・友好報告 1832年(天保三年)10月尾張の国知多郡小野浦の宝順丸が出航後遠州灘で難破。その1年2ヶ月後、乗組員の三人、岩吉、久吉、音吉がワシントン州北西部 Neah Bay に日本人として、はじめてアメリカの土を踏む。……と刻まれてあった。

も 然にあれこそ うつせみも 棲を 争ふらしき 中大兄皇子

岩吉の3人であった。3人は現地の原住民の奴隷にされた。3人が漂着したという情報は、当時、この地域の中心であるフォート・バンクラー(現ワシントン州バンクラー市)で毛皮取引をしていたハドソン湾会社の責任者ジョン・マクラフリンに届いた。彼は船を派遣して3人を買い戻し、英語教育を受けさせた。それは当時鎖国の日本との交易に役立つ目的でもあった。1835年6月、3人はハワイ経由でロンドンに送られた。マクラフリンは日本人を日本に送り返すことによって日本との通商を求めようとの意図があったのだが英国はその気がなく、3人はマカオ経由で日本に送り返されることになった。マカオではドイツ人宣教師に預けられ、3人は彼から英語を習い、彼に日本語を教え、その間、「ヨハネ福音書」と「ヨハネの三つの所信」を日本語に翻訳する作業に携わった。1837年2月に九州の漂流者4人がマカオに漂着し、日本人は7人になった。そして、1837年7月4日、7人はモリソン号で日本へ帰還することになるのである。長崎は、日本との貿易を独占しているオランダ人に妨害される恐れがあるとして、

戻ると登り口で、ジグザグの登りから左ヘトラパス気味の登りになった。送電線の最初の鉄塔を過ぎ、支尾根の突端に抜けると二番目の鉄塔で、眼下にコロンビア川が左右にのびている。ここでひと息入れ、支尾根上を行く。エゾマツ・トドマツ・シラビン類であろうか、背の高い太い針葉樹のなかを登る。ゆるい登り、やや急な登りを繰り返しながら登って行く。足元にはクルマユリが咲き、ヒメハギ科の仲間らしき花も見られる。やがてトレイルは左ヘトラパス気味に登り、大きな石がゴロゴロした地点で北側の展望が開け、アダムス山(Mt. Adams 3751ト)が姿を現した。山腹まで雪をべったり付けていて、ボリュームのある山だ。しばし見とれる。しばらくの登りで稜線に抜けるとセントヘレンズ山(2549ト)とその右に大きな雪の山があった。レイニア山(4393ト)だ。地形図で3360フィート(1021ト)の地点からトレイル・ナンバーは417となる。ゆるい登りが続き、足元には白い花、モンテア・ベルフォリアアタヤルピナス・ゴゼンタチバナが見られるようになった。1180トまで登り少し下りになってデュ

フィアンス山が望めた。緑におおわれた女性的な優しい山姿だ。くだると森林に囲まれた周囲1.5以上はあるウォーレン池があり、透明な水辺に針葉樹が映って、静かな湖面をより美しく見せていた。ちょうど12時だったからダググさんはここで昼食にするという。
食後の登りは池から大きな石がゴロゴロした所を登り、森林帯のなかに斜めに付けられたトレイルを行く。ひよろひよろと茎だけをのびし、その頭に小さな白い花をいっぱい付けて坊主頭のように見えるクセロフィルム・テナックス(ユリ科)が多くみられるようになった。やがてトレイル417はトレイル413にぶつかり、それを登ると林道に出た。トレッカーが下ってくるのに出会う。女性1人の単独行者、上半身裸の男性の単独行者、四輪駆動のバイクがぐだてくる。どんな登って通信施設の建物がある山頂に着いた(13時50分)。
正面に中腹から残雪が光るフッド山(3426ト)の三角錐が絶野を広げて樹海の上に突っ立っていた。富士山を荒々しくした感じの山だ。建物の裏に廻るとセントヘレンズ山が望めた。山頂での記

念撮影を済ませ、登ってきた林道からトレイル413をくだる。アダムス山が進行方向に時々見えていた。くだると山際に大きな滝が二つあった。今回登ったフィアンス山はフッド山・アダムス山・セントヘレンズ山を眺める最高の場所だと、ダググ・ウィルソンは言っていた。
アメリカ先住民の言い伝えでは、セントヘレンズ山(女性の山)をめぐる、男性の山であるフッド山とアダムス山が争ったという。ちょうど日本の大和・三山をめぐる伝説と同じような話であり、同じモングロイド種族として不思議な因縁を感じた。

トレイルの案内板にはペンキ類は一切使われず、トレイル・ナンバーを彫ってあるだけのもので、出発点と合流点と分かれ道だけの必要最小限の設置である。自然のなかに溶け込んでいるから、これが本来の姿なのだ。日本の案内板は派手で賑やかすぎた見苦しい。

*大和・三山とは畷傍山・耳成山・香久山のこと。『万葉集』に次のようにある。
香久山は 畷傍を愛しと 耳成と 相争ひし神代より かくにあらし 古昔



フッド山



アダムス山

三吉の石碑
7月12日、バンクーバー市庁へ表敬訪問、市長と会う。
その後、コロンビア川右岸にある三吉の碑へ。
「三吉の碑・友好親善 1832年(天保三年)10月尾張の国知多郡小野浦の宝順丸が出航後遠州灘で難破。その1年2ヶ月後、乗組員の三人、岩吉、久吉、音吉がワシントン州北西部 Neah Bay に日本人として、はじめてアメリカの土を踏み……」と刻まれてあった。
1832年10月11日(旧暦)、宝順丸(150ト位、長さ15ト位)は、尾張藩の米や陶磁器等を江戸に運ぶため、鳥羽を出航したが、遠州灘で嵐に遭い舵が壊れた。そのままでは転覆の恐れがあるため帆柱を切断し、黒潮に流された。乗組員は雨水や積荷の米で生き延びたが、壊血病などで14人の乗組員のうち11人が亡くなった。1年2ヶ月後の1834年1月フラタリー岬に漂着したのは、音吉・久吉・

も 然にあれこそ うつせみも 榎を
争ふらしき 中大兄皇子

岩吉の3人であった。3人は現地の原住民の奴隷にされた。3人が漂着したという情報は、当時、この地域の中心であるフォート・バンクーバー(現ワシントン州バンクーバー市)で毛皮取引をしていたハドソン湾会社の責任者ジョン・マクラフリンに届いた。彼は船を派遣して3人を買い戻し、英語教育を受けさせた。それは当時鎖国の日本との交易に役立てる目的でもあった。1835年6月、3人はハワイ経由でロンドンに送られた。マクラフリンは日本人を日本に送り返すことにより日本との通商を求めようとの意図があったのだが英国はその気がなく、3人はマカオ経由で日本に送り返されることになった。マカオではドイツ人宣教師に預けられ、3人は彼から英語を習い、彼に日本語を教え、その間、「ヨハネ福音書」と「ヨハネの三つの所管」を日本語に翻訳する作業に携わった。1837年2月に九州の漂流者4人がマカオに漂着し、日本人は7人になった。そして、1837年7月4日、7人はモリソン号で日本へ帰還することになるのである。長崎は、日本との貿易を独占しているオランダ人に妨害される恐れがあるとして、

戻ると登り口で、ジグザグの登りから左へトラバース気味の登りになった。送電線の最初の鉄塔を過ぎ、支尾根の突端に抜けると二番目の鉄塔で、眼下にコロンビア川が左右にのびている。ここでひと息入れ、支尾根上を行く。エゾマツ・トドマツ・シラビソ類であろうか、背の高い太い針葉樹のなかを登る。ゆるい登り、やや急な登りを繰り返しながら登って行く。足元にはクルマユリが咲き、ヒメハギ科の仲間らしき花も見られる。やがてトレイルは左へトラバース気味に登り、大きな石がゴロゴロした地点で北側の展望が開け、アダムス山(Mt. Adams 3751ト)が姿を現した。山腹まで雪をべったり付けていて、ボリュームのある山だ。しばし見とれる。しばらくの登りで稜線に抜けるとセント・ヘレンズ山(2549ト)とその右に大きな雪の山があった。レイニア山(4393ト)だ。地形図で3360フィート(1021ト)の地点からトレイル・ナンバーは417となる。ゆるい登りが続き、足元には白い花、モンテア・ペルフォリアタやルピナス・ゴゼンタチバナが見られるようになった。1180トまで登り少し下りになってデエ

フィアンス山が望めた。緑におおわれた女性的な優しい山姿だ。くだると森林に囲まれた周囲1.5以上はあるウォーレン池があり、透明な水辺に針葉樹が映って、静かな湖面をより美しく見せていた。ちょうど12時だったからダッグさんはここで昼食にするという。
食後の登りは池から大きな石がゴロゴロした所を登り、森林帯のなかに斜めに付けられたトレイルを行く。ひよろひよろと茎だけをのばし、その頭に小さな白い花をいっぱい付けて坊主頭のように見えるクセロフィルム・テナックス(ユリ科)が多くみられるようになった。やがてトレイル417はトレイル413にぶつかり、それを登ると林道に出た。トレッカーが下ってくるのに出会う。女性1人の単独行者、上半身裸の男性の単独行者、四輪駆動のバイクがくだってくる。どんどん登って通信施設の建物がある山頂に着いた(13時50分)。
正面に中腹から残雪が光るフッド山(3426ト)の三角錐が裾野を広げて樹海の上に突立っていた。富士山を荒々しくした感じの山だ。建物の裏に廻るとセント・ヘレンズ山が望めた。山頂での記

念撮影を済ませ、登ってきた林道からトレイル413をくだる。アダムス山が進行方向に時々見えていた。くだると山際に大きな流が二つあった。今回登ったディフィアンス山はフッド山・アダムス山・セント・ヘレンズ山を眺める最高の場所だと、ダッグ・ウィルソンは言っていた。
アメリカ先住民の言い伝えでは、セント・ヘレンズ山(女性の山)をめぐり、男性の山であるフッド山とアダムス山が争ったという。ちょうど日本の大和山をめぐると同じような話であり、同じモンゴロイド種族として不思議な因縁を感じた。
トレイルの案内板にはペンキ類は一切使われず、トレイル・ナンバーを彫ってあるだけのことで、出発点と合流点と分かれ道だけの必要最小限の設置である。自然のなかに溶け込んでいるから、これが本来の姿なのだ。日本の案内板は派手で賑やかすぎて見苦しい。
*大和山とは畷傍山・耳成山・香久山のこと。『万葉集』に次のようにある。
香久山は 畷傍を愛しと 耳成と相争ひし神代より かくにあらし 古昔



ロモナ滝

山だから帰国したら油彩で描き直そう。駐車場に戻ってフッド山南面の標高1800呎の地点にあるティンパライン・ロッジへと向かった。国道26号線からティンパライン・ロードに入り、上がって行くと広い駐車場に着いた。もう16時を過ぎていたからスノーボードを担いでくだった若者達で賑やかであった。フッド山はスノーボードの発祥の地であると聞いている。ここに来る日本人のスノーボードラーもあるようだ。見上げる斜面にはリフトが三基見えていたが、もう滑っている人影は無かった。フッド山へのノーマルルートは右側に見えているゆるい稜線のようで、上部がやや急峻で落石が多いから夏季は最適ではないという。ティンパライン・ロッジは大きい建物で世界恐慌の折、失業者対策の事業としてオレゴン州が取り組んだという。喫茶室・大会議室もあってロジというより大きなホテルである。窓越しにフッド山が望める場所もあり、フッド山を眺めるテラスもあり、地下にはバーもある。中で迷ってしまいそうな広い建物だった。

7月14日、ポートランド市街を歩く。キャンプ、登攀、サイクリング、スキー、

江戸湾の浦賀に着いたモリソン号は無警告で砲撃を受けた。当時、オランダの定期船以外には「打ち払い令」(1825年発令、1842年撤廃)が下された。幕府との交渉をあきらめ薩摩藩に頼ろうとしたが、同様に砲撃を受け、祖国を目の前にしながら帰国は叶わなかった。

この「宝順丸」遭難事件を題材にした小説が、三浦綾子の『海嶺』で、1998年には西郷輝彦、竹下景子主演で映画化された。

トレイル797を歩き、フッド山麓のロモナ滝へ

7月13日、フッド山の山麓にあるロモナ滝を巡るトレイル797を歩いた。

国道26号線からサンディ川沿いの林道18号線に入ると終点が広場になっている駐車場に着いた。ここからジュディさんのリードでトレイル797に入る。樹林のなかを行くとサンディ川右岸に渡る木の橋からフッド山の荒々しい西面が現れた。岩と雪のシンフォニーを奏でていて圧巻だった。トレイルの道から「中に入るな」のマーク(靴の足跡に×印)があったりする。年老いたトレッカーのグルー

パドル、旅行用品を置いている総合アウトドア店 [REU] 寄り、 [Mr. Hood] [Mr. St. Helens] [Mt. Rainier] の地図を購入する。

夕食は今回お世話になった方々を招いたの食事会。

セントヘレンズ山展望台へ

7月15日、セントヘレンズ山へドライブ。ジュディさんの車でシアトルへ向かう国道5号線に乗り北へ、49出口で降り、州道504号線を東へ入る。小さな街を通り過ぎて森林帯を行くようになる。森林センターで入山料を納め、森林学習センターではセントヘレンズ山の噴火のドキュメント風映画を大スクリーンで見、セントヘレンズ山噴火の折の火山岩やパネルなど展示物を見学してから展望台へと向かった。ほとんど高度が上がって稜線が見え出す頃、右側にセントヘレンズ山が姿を現した。

1980年5月18日、ワシントン州セントヘレンズ山は大噴火を起した。地下500呎以上の深さにあったマグマが長い時間をかけて上昇し、その出口を見つけたのである。そして、マグニチュード5の

地震とともに北斜面が徐々にふくれていき突起が崩壊した。2・3立方呎に及ぶ山体が崩れ、大水蒸気爆発が発生し、爆風が起り、600平方呎に及ぶ山麓の木々をなぎ倒し、生き物は消え去った。

その時の火山灰や噴煙の柱は上空2000に達し、火山灰は風に乗り東へ15000以上にわたって降りそそぎ、3日間でアメリカ大陸を横断し、各地に被害をもたらした。セントヘレンズ山の近くの街では、防塵マスクをつけないと呼吸もできない状態になり、ワシントン州やモンタナ州では、外出をひかえるように大気汚染非常警報が出された。昼でも暗くなり、車はライトを点けて運転しなければならぬほどになった。また、大量の火山灰や山崩れ、雪解け水も手伝って泥流となり、木々をなぎ倒しながら洪水になって下流へ押し寄せたという。近隣の住民ら57人が死亡するなどの被害をもたらした。この時の火山灰は偏西風に乗って日本にも届くという20世紀最大級の噴火で、2950呎もあったセントヘレンズ山は400呎も低くなり、今では2549呎の標高になってしまった。茶碗が割れて内側が見える感じで、その中がドーム状

に少し盛り上がっている。そして握野を大きく広げていた。

7月16日、9時30分発UA796便、ロサンゼルス11時50分着。13時40分発タイ航空775便、17日、17時50分関西空港着

*参加メンバー
山岡誠、日下部盛一、飯降悦正、内田嘉弘
(平成16年7月9〜16日)

2004年10月2日の朝刊にセントヘレンズ山噴火のニュースが載っていた。そして、テレビも噴火の映像を流していた。

セントヘレンズ山18年ぶりに噴火 今回
は小規模—
「ロサンゼルス」萩一晶 米北西部ワシントン州のセントヘレンズ山が1日正午ごろ、18年ぶりに噴火した。AP通信によると、噴火は小規模で約20分後には終息したが、地震きとともに噴煙が約5000呎上空まで上がるのが観測された。……
今回の噴火は小規模なものにとどまる見込みだが、専門家の中には「見極めがつかまで、まだ観察が必要だ」との慎重な見方もある。

連載

三角点を訪ねて (35)

吾妻連峰の山、一切経山へ

磯部 純

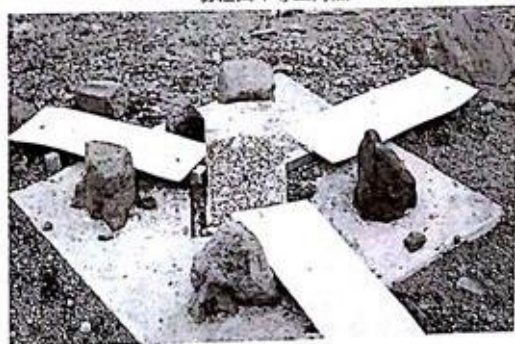
吾妻連峰

宮城県気仙沼市に母を訪ねての帰りは、6月の三陸沖大地震でガタガタになった栗駒町の家を片付けようと、妻と2人で帰省した。せっかく東北まで車で行ってどこへも寄らずに帰るのはもったいないので、帰路、吾妻山と磐梯山へ登る計画を立てた。そのうえ、米沢市の学生時代のボン友夫妻と一晩飲み明かし、さらに、会津若松市にいる学友にも会いたいという厚かましきであった。

前夜、栗駒山麓にある「いいこの村・栗駒」に宿泊し、出発したのは朝8時。前日は、思いのほか片付けに手間どってしまい、栗駒山へは登ることができず、山麓にある花で有名な世界谷地温泉を散

策しただけだった。ひたすら福島へ向けて車を走らせる。今年は梅雨明けが遅く、下界は晴れていても、少し高い山の山頂は雲のなかに頭を突っ込んでいた。福島西インターで降り、吾妻山の方を見ると、中腹から上は雲のなか。「雨が降るよ、ましか」と心を決め、福島高湯温泉から磐梯朝日スカイラインに入っていく。標高1300mを超えると深い霧のなかへ突っ込み、ライトを点けても10m先が見えないほど。時折、前方からの車のライトに驚かされる。右に左にカーブを切ってドンドン登って行き、やがて、周りが硫黄の臭いがしてくると、浄土平駐車場は近い。

一切経山1等三角点



吾妻連峰は西吾妻・中吾妻・東吾妻の三つに分かれる。西吾妻には百名山の一つに数えられる西吾妻山があり、主登山口は米沢の白布高湯。ほかに、中大嶺・西大嶺のピークがあり、オオシラビソと湿地帯により構成されている。中吾妻は中津川と大倉川に挟まれた山域で登山者もあまり入らず、興味ある山も無い。一方、東吾妻には1等三角点のある一切

経山がある。近年まで火山活動が活発で、高木のない荒涼とした火山礫地となっていて、西吾妻・中吾妻とは異なった殺伐とした光景が展開している。

この東吾妻の一切経山へは、学生時代に白布高湯や峠・滑川から東大嶺、昭元山、鳥帽子山、兵子、家形山を越えて何回も登っているが、福島側から登ることとはなかった。最近ではスカイラインが出来て吾妻小富士下の浄土平まで車で駆け、短時間で簡単に登れるようになったので、多くの観光客が訪れる。浄土平は吾妻小富士と蓬萊山・東吾妻山の間にある平地である。西には一切経山の噴火

の跡や火口跡があり火山礫地。場所によっては硫黄の臭いがプンプンしてくる。そこから西へ一段登ると酸ヶ平・姥ヶ原、少し離れて谷地平と呼ばれる湿地帯が広がる。季節によっては高山植物が満喫できる。今回はこの浄土平駐車場を出発点に、一切経山へ登り、山頂下に広がる酸ヶ平か姥ヶ原での温泉で花を楽しみ、これまで踏んでいない東吾妻山の三角点を訪ねようというものであった。



浄土平駐車場到着11時15分。多くの車の間に駐車する。用意を整え、11時30分出発。こんな観光登山でなければ遅すぎるとの出発である。先程まで少しの先も見えない霧だったが、歩き出すと霧が流れ、これから登る礫岩の斜面が姿を見せ始めた。登山路分岐までは平坦湿地で、道脇には名の知らないタンポポに似た黄色い花が続いていた。500mほど歩くと一切経山と酸

ヶ平の分岐。すでに霧はだいぶ晴れ、これから向かう急斜面の右手に荒々しい噴火口が口を開けているのが見えた。ゴツゴツした岩の急斜面を登って行く。と、次第に霧が晴れてきた。下界の様子は見えないが、後ろに浄土平の大駐車場が広がり、その横に吾妻小富士の噴火口跡が口を開いている。岩斜面には所どころ20〜30cm程の低木が繁り、白い綿毛のような花を付けたシモツケソウが咲き乱れていた。

フワフワ言いながら火口西の急斜面を登り切ると傾斜もゆるくなり、酸ヶ平へくだる分岐の鞍部に至る。前方には汚れた雪渓が残っていて、その右手奥に、丸坊主の一切経山の頂が見えている。ここでカップルを追い抜き、右手のゆるい尾根を登る。尾根は広く、登山路の両側にロープが張ってある。いたる所にある植物群の背は低く、30cmにも満たない。よく見ると、その低い茂みに可愛らしいベニドウグンの花を見る。シモツケソウの花はいたる所に見られ、時折咲いているのはミヤマウイキョウか。登山路のロープはこれらの高山植物群生地に入らぬようにしているのだが、それと共に、深い

霧に覆われた時、方向を誤らないようにの意味もある。それだけ、霧が出たら方向感覚が狂ってしまうような、何も無い平坦な地形の尾根だった。低いピークを越えようと、すぐ近くに一切経山頂が見えていた。

12時40分、一切経山に登り着く。わずか1時間10分の登りだった。この一切経山という変わった山名は、安部貞任が仏門に入り、経本千巻を埋めたという言い伝えに由来する。山頂はただ広い荒涼とした隙岩原で、草や木は全く無い。登ってすぐの所に2層程の高さのケルンが立っていて、何の意味なのか、「空気大感謝塔」と書かれた柱が立っている。

三角点はそこから20層程北の平坦地に立っている。点名「吾妻山」で標高1948・8m。1等三角点である。標高の高い浄土平から簡単に登って来たので、そんなに高いとは信じられない。1・5層角のコンクリート板に、標石と保護石がしっかりと固定され、標石は磁石の南を向いていた。

3年前に、10層先も見えない霧のなかを強風に吹き飛ばされそうになりながら登った時、三角点標石しかなかった。今

では三角点のすぐ近くにしっかりと山名標識・道標が立っている。いつの間にか心配していた霧も晴れ、展望が広がっていた。

三角点から50層も北へ歩くと、眼の下にコバルトブルーの五色沼を見下ろすことができ、その向こうに、家形山・兵子・鳥帽子山・昭元山と連なり、遠くに雪を抱いた西大嶺・西吾妻・中大嶺が連なっていた。天気が良ければ、北に飯豊連峰や朝日連峰を望むことができるのだが、この日はガスのため見る事ができない。西吾妻の連なりを見られただけでも、幸運だったと思わなくてはならない。

「空気大感謝塔」のケルンの東に坐り込み、風を避けて遅い昼食にする。京都と違って、7月というのに吹く風に寒さを感じる。時間は13時前。この時になって、登りで追い抜いた2人連れがやっと登ってきた。あまりに遅いので聞くと、途中で食事をしていたとか。2人は山形県鶴岡市の方で、この山は初めて登ったと言っていた。昔このあたりの山を歩き廻ったことを話し、五色沼の見える所まで案内すると、「こんな高い所に、こんなきれいな沼があるとは知らなかった」

山腹にかかると様相は一変し、樹林帯に入る。道は1層幅位の赤岩のゴロゴロした谷川とも見間違えそうな道。次第に傾斜を増してくると、周りはオオシラビソの林に変わる。展望は全く無い。道の両側には、ゴゼンタチバナとモミジガサの花が続いていた。

同じような景色の道を登り、登るのが嫌になってきた頃、突然オオシラビソの林が切れる。その上方には樹木が無く、高さ30層程の低いハイマツが広がっている。まっすぐに上方へとびている道のかなた、150層程向こうの高みには、東吾妻山の標識が見えていた。

14時45分、東吾妻山へ到着。標高は1



東吾妻山3等三角点

974・7層あり、点名は「東吾妻」。3等三角点で、初めて出会った標石である。標石は地表から1層程の高さに飛び出ている、その回りにケルン状に石が積まれている。この標石もまた、しっかりと磁石の南を向いていた。

山頂でひと息ついていると、それまで晴れていたのにガスがどこからか湧いてきて、周りを覆い始める。ガスで標識や三角点が見えなくなる前に慌てて写真を撮り、追われるように山頂を後にした。

登ってきた道を姥ヶ原の四辻まで戻ると、そこからは鎌沼周遊路を通らずに、東の浄土平駐車場へ向かう道をくだる。遊歩道になっていて、例の木道が付けれられている。東吾妻山の方を振り返ると、山頂はガスに覆われ白一色。幸いなことに、ガスはまだここまでは下ってきておらず、この場所からの視界は良好。北に鎌沼、その東に蓬萊山があって、その左奥に一切経山が頭を霧に隠して横たわっていた。木道の両側にはワタスゲが風に揺れていた。

木道が切れて地道になると、高い木が姿を現す。林に入るとナナカマドが目立ち、蓬萊山麓をくだって浄土平が近くな

と喜んでた。我々はもう一山登るのでゆっくりできず、後ろ髪を引かれる思いで、13時10分に一切経山を後にした。鞍部まで戻り、酸ヶ平への道をくだる。道は浅い谷へ向かい、くだるにつれ緑が多くなる。ハイマツが姿を見せ、この時期にアズマシヤクナゲが花を開いていた。谷の脇の斜面にはイワカガミも満開。その他、いくつか白い花を見たが、残念ながら花の名は知らない。

酸ヶ平分岐13時40分。ここは尾瀬ヶ原と同じように、1層幅の木道が敷かれている。前日歩いた世界谷地ではサワランしか見ることがなかったが、西へ向かい鎌沼を廻り込んで行くと、いろんな花に出会えた。まず、アズマシヤクナゲ、木道の脇にはミヤマリンドウが紫の花を、コバイケイソウも花を付け、チングルマの群落も目につく。鎌沼周遊路から一段上がり、東吾妻山へ向かうと、あたり一面、変なヒゲの花の群落が……。それはチングルマの果実だった。一つの山でチングルマの花と果実を見られたとは、ちょっとの標高差で違う自然に驚く。

姥ヶ原四辻から南へ向かって、東吾妻山へ向かう。時間は14時5分。湿原から

ると、ヤマクワの木も見ると、ヤマクワの木も見ると、

駐車場に戻ると、所狭しと並んでいた車の姿はなく、私の車が1台だけ、広い駐車場にポツンと取り残されていた。

16時15分、浄土平からスカイラインをくだると再び、深い霧のなかに突っ込む。山頂が晴れていたとは信じられないような深い霧だった。そこをくだり切ると下界は曇り空。見上げると吾妻山は雲のなかに頂を隠していた。そこから一路米沢市へと車を走らせる。

翌朝、朝6時に出発して磐梯山へ登る予定にしていたが、久しぶりに会った友人と思い出話に花が咲き、朝起きられなかった。磐梯山へ登るのは諦め、磐梯ゴールドラインを車で通ることでお茶を濁す。すぐ磐梯山の側まで行ってながら、登らないで横を素通りなんて、悔やまれてならない。(平成15年7月15日歩く)

Aコースタイム

浄土平駐車場(1時間10分) 一切経山(30分) 酸ヶ平分岐(30分) 姥ヶ原四辻(40分) 東吾妻山(30分) 姥ヶ原四辻(50分) 浄土平駐車場
△地形図V2万5千 吾妻山・土湯温泉

九度山から慈尊院を訪ねて

松永恵一

参道より慈尊院を望む



当初の慈尊院の地は、現在紀ノ川が流

有古佐和子は「紀ノ川」の冒頭に慈尊院を登場させた。「高野山には、女は入れえへんがのう、この慈尊院までは上れるんやしてよし。そやよって、ここは女人高野と云うんやして。花は知ってたわの。」祖母の豊乃は花嫁姿の花の手を取って参った。

「廟の前の柱にぶら下がっている数々の乳房形に気がつく」と、しばらく瞑目することを忘れていた。それは羽二重で丸く綿をくるみ、中央を乳房のように絞りあげたもので、大師の母公と弥勒菩薩を祀る霊廟に捧げて安産・授乳・育児を願う乳房の民間信仰であった。

お大師さまは高野山を開いた時に、この地に寺務所を設置した。高野山の庶務を司る政所と、山麓の表玄関として都

から参詣する貴賓の宿泊所を兼ねていた。高野山は女人の立ち入ることを厳しく禁じていた。承和元年(834)讃岐より尋ねてきた御母公玉依御前も入山を許されず、慈尊院に迎えられた。お大師さまは月に九度会いにくだってこられ、九度山の地名が付いた。

御母公は翌年亡くなられた。83歳であった。お大師さまは、弥勒菩薩になられた霊夢を見られた。弥勒堂(重文)を廟とし、弥勒仏座像(国宝・秘仏)と御母公像を安置された。弥勒菩薩は慈尊ともいい、慈尊院と呼ばれるようになった。

真田庵

知将として知られる信州上田城主真田昌幸は関ヶ原の戦いで西軍につき、次男幸村とともに中山道を関ヶ原へと急ぐ徳川秀忠軍を釘付けにし、到着を遅れさせた。しかし関ヶ原の戦いは東軍の勝利に終わる。秀忠は昌幸・幸村父子の所領没収、死罪を主張したが、徳川方についていた長男信幸の必死の助命嘆願により紀州九度山(最初が高野山)へ蟄居を命じられた。真田幸村は豊臣秀頼の誘いを受け大坂冬の陣・夏の陣に参戦し、獅子奮迅の活躍をするが、夏の陣で戦死した。真田庵と呼ばれる菩提寺(菩提院)は寛保元年(1741)大安上人によって真田父子の隠棲の地に創建された。真田昌幸、幸村、大助父子三代の墓がある。真田宝物資料館は甲冑類や書状、真田組などを展示している。真田昌幸が刀の柄を巻くのに使用したことからその名がつけられた真田組は、現在、桐箱等の組として重用されている。

俳人と謝蕪村は真田庵を訪れた。かくれ住んで花に真田が詠かな炬燵して語れ真田が冬の陣の句碑が建つ。

九度山での生活

真田昌幸には16人の家来が随行し、幸村は妻子を伴った。紀伊藩から年五十石の合力、国元からの仕送りでの生活はかなり苦しかったようである。昌幸らが真田組を編んで生活の足しにしていくと伝わる。国元へ臨時の強力として40両を要請し半額の20両が届いた時、「こちらは借金が多く困っている。残りの20両を一日も早く届けて欲しい。出来ないなら5枚でも10枚でもよいから」と催促している。お歳暮に蛙を送ってもらったことに対する幸村の礼状が残る。「九度山での生活は相変わらずだが、当冬は万不自由でひとしおうそざぶくこんな状態なので今後ともよろしく一度会って色々話したい。極月晦日 信繁(花押)」

幸村が焼酎を所望した書状が残る。「この壺に焼酎をおつめ下さるようお願いします。今、お手持ちがなければ、この次でもよろしいですから、お頼み申します。むずかしいと思いますが、壺の口をよくしめて、その上壺の口を紙で目張りをして下さるようお願いいたします。御都合次第で取りに伺います。(略) 左京殿 真好白信繁(花押)」

九度山の柿

九度山町は日本一を誇る富有柿の産地。「やっぱり柿はこないし何処ぞ歯応えがあるのが本当でございますのし。」里帰りした花は、息もつかず柿を平らげた。紀ノ川兩岸に築きあげられた大産地で栽培される品種は、刀根早生・平核無などの液柿が八割強を占め、残りが富有などの甘柿。明治43年(1910)に植えられた一本に始まった富有柿の生産は、九度山のブランドを確立し、日本一の味・品質を誇る。丸く大きく厚みがある鮮やかな橙紅色。緻密でサクサクとした食感。とろけるように甘い。

風味豊かな柿は、「柿が赤くなると医者者が青くなる」「二日酔いに柿」と言われるように栄養たっぷり。美容によくガン予防にも効果的。サラダや酢の物に変身したり、驚いたことに完熟した柿を酵母菌で発酵させた果実酒(柿酒・シオン)ワインも登場している。「柿酒(シオン)」は、中国語で「柿」を意味する。夏のハウス柿、秋の訪れを告げる刀根早生、秋本番の平核無、冬の到来を告げる富有と、出荷されていく。



と呼ばれる慈尊院は、「紀ノ川」の女達が心を通い合わせた場、古くから女性の信仰を集めている。平安時代から参詣の人々を見守ってきた「下乗石」が、紀ノ川の渡し場から総門の外側に移されている。慈尊院は高野山・丹生都比売神社・町石道と共に世界遺産に登録されている。多宝塔は大日如来を本尊とし、弥勒堂は女人高野として信仰を集めている。高野山大師御廟の拝所を小さくしたような御母公廟には、羽二重で作った乳房形が供えられている。「高野より母をたずね

て月に九度」と書かれている大師像、その横に寺から高野山まで約24km、参拝者の案内をした高野山案内大ゴンの碑がある。今は二代目のカイが倒れている。「慈尊院の石垣は、路上から屹立している。石垣は全体に苔やしだ類がにおおと覆い、人工でありながら、そのものが偉容ある自然物のような観を呈している。石段をのぼって山門の梁の下に至り、ふりかえって紀ノ川の水明かりがする川渡の方向をみると、川渡から石段まで届いているまっすぐな道路わきには古風な民家の屋根がならび、目の前に老松の幹がおろちのように斜めに視野を横切って、江戸期の風景画を見ることが出来る。」と司馬遼太郎は記した。

慈尊院の総門を入ると、丹生官省符神社の高い石段が仰がれる。お大師さまは慈尊院の鎮守として丹生都比売・高野御子大神等を祀られた。また慈尊院から壇上御藍の根本大塔までの道しるべとして、一町(109m)おきに平塔を建てられた。百八十町石を右に見て、百十九段の石段をのぼる。極彩色の神殿が森の緑に映えて美しい。春は桜、秋は紅葉、

青く輝く紀ノ川・和泉山脈が一望のうちに眺められる。真田幸村愛用の腰刀などが奉納されている。平安朝以来もっとも繁く人々が踏みならした道、町石道は石段をのぼった鳥居の横から入る。神社で登山の無事、道中の安全を祈願する。

九度山橋を渡りJR和歌山線高野口駅に出る。駅前の「葛城館」は高野参詣で賑わった旅館。前面をガラス建具で覆った三階建のモダンな建物で、金剛峯寺御用達の看板が残されている。

▲コースタイム▼

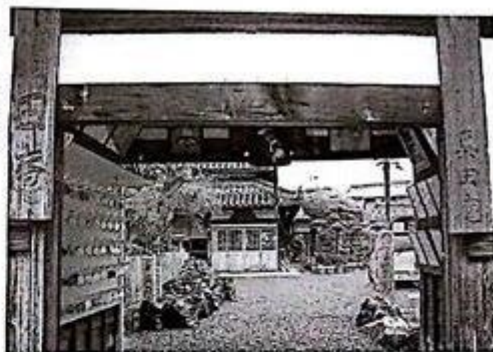
南海九度山駅(15分) 真田庵(5分) 丹生橋(15分) 慈尊院(30分) 南海高野口駅

△地形図V2万5千II橋本

▲費用▼ 難波駅〜九度山駅 770円
高野口駅〜橋本駅 180円
橋本駅〜難波駅 670円

(問い合わせ先)

九度山町産業振興課	0736 (54)	2019
真田庵	0736 (54)	2218
慈尊院	0736 (54)	2214
丹生官省符神社	0736 (54)	2754



真田庵

コース概観

紀ノ川は奈良・三重県境の大台ヶ原に源を発し、和歌山県の北部を西に流れ紀淡海峡にそそぐ母なる川である。この紀ノ川を交通路とした流域には古くから文化が栄えた。高野山の表参道玄関口にあたる九度山町は、高野山参詣者たちでにぎわった。果樹に彩られたお大師さまゆかりの慈尊院や真田幸村父子の隠棲の里をのんびりと訪ねてみた。

南海高野線九度山駅下車。「九度山とは町の名で、山ではない。紀伊国高野山が、北にむかって山々や谷々を重ね、ようやく紀ノ川に至ろうとする岸辺にある。」と司馬遼太郎は「街道をゆく」に記した。坂をくだり「真田のみち」と名付けられた商店街に入る。電柱に描かれた真田幸村、大助、猿飛佐助・霧隠才蔵等、真田十勇士の出迎えを受ける。柿の街路灯が可愛い。お大師さまが御母公と対面した所と伝わる対面石、真田のぬけ穴と呼ばれる横穴式石室や、町の人々から親しまれている子供の成長を願って作られた大きな陶像「米金の金時像」などを見ながら、路地を左に進むと真田庵。門扉に六文銭の付けられた門をくぐると、城郭を思わせるような八つ棟造りの重厚な三層城閣風の本堂がある。本尊は地藏菩薩。しばらく真田父子のロマンに浸る。

「長い土塀は、真田庵の塀である。正しくは善名称院と言い、高野山の末寺で尼寺になっている。寺は江戸初期にできたらしいが、敷地がかつての真田屋敷の跡ということで土地では真田庵とよばれて親しまれている。

門を入ると、よく手入れされた境内に

草木がみずみずしく栄えている。全体の構えも建物も、寺というよりは戦国の地侍屋敷といった感じで、まことに豪毅質朴な感じがする。」と司馬遼太郎は記す。

九度山の町花、牡丹の花が咲き乱れる5月5日、真田祭の武者行列が町内を練り歩き、絢爛豪華な戦国絵巻が繰り広げられる。丹生川と紀ノ川との合流点の川原には、数百匹の鯉のぼりが川幅せましと泳いでいる。

紀ノ川に九度山橋が架けられている。九度山橋は高野山の入口。司馬遼太郎は橋のたもとにたたずんだ。

「北から南へこの橋をわたるべくさしかかった前面の風景というのは、右が、はるか奥の高野山につながる尾根が、尾根のまま降下してきて麓で慈尊院の森をなし、左が、ひくい丘陵上に九度山集落のいらかの群れをあかるく盛りあげていて、丘と川を好む中世ヨーロッパの小さな都市国家を思わせる。紀ノ川十景というものがあるとすれば当然入っていい景観であろう。」

紀ノ川の流れに沿って慈尊院へと向かう。九度山町のマンホールの蓋には柿がデザインされていて楽しい。「女人高野」

〈山のレポート〉
山の地名を歩く②
からくだけ
「韓国岳」

西尾 寿一

韓国岳は、九州霧島連峰の最高峰で頂上に巨大なカルデラがある。南の新燃岳は噴火が激しく立派な活火山である。周辺には多数の衛星峰があり、なかでも有名なのが高千穂峰で、神話時代天孫ニギギ命が天降ったといわれ、霧島の人気を中心的存在で、美しいコニーデは誰の目にも鮮やかに映える。

しかし、霧島の盟主は明らかに韓国岳であり、四方に二〇余の支峰を派生している様子は、地形図を見れば一目瞭然である。

その韓国岳の名は明らかに朝鮮系のものなのだが、なぜ北九州でなく南九州にあるのか。またなぜ高千穂峰が天孫降臨の地なのか疑問だった。なぜなら九州南部は熊襲・卑人の土地で天孫系および渡米系の勢力の及ばなかった所である。大和政権が誕生してもなお北の蝦夷、南

の熊襲は服従しない縄文人たちだった。その反対勢力の土地の山が、なぜ天孫降臨なのか誰が考えても腑に落ちない話である。

これはおそらく北九州の他の山の間違いであるとみて、検証された別の山があることは確かである。現実には地名は定着している。

同じ霧島に夷守岳があり、同名の村があったことから（ヒナモリは辺境を防衛する軍の基地に相当する）、大和政権時代にあってなお霧島付近が辺境であったことを示している。したがって天孫降臨はいまなお不可解となる。

天孫ニギギ命が南九州に降臨しておれば、最初に南九州が開けていたはずだし、神武東征もなかった。彼等が北九州にあってこそ、東征を可能としたのだから辻褄が合わないことおびたしい。その裏には何か隠された歴史的事実が存在する可能性が高くなってくる。

まず韓国岳の由来説を上げておくと、

- ① 朝鮮語(旧国名)の転
 - ② 唐(中国)系の名
 - ③ 涸れた不毛の土地
- などである。③は日本山岳ルーツ大辞典

(以下ルーツ辞典)の解釈で地名の専門家に好まれる。②は可能性を否定しないが、まず外してよいと思われる。問題は①である。が、この説も多岐に分かれる。始めは単純に朝鮮のカラクニを持ってくる派があれば、少し変化させて、「カナカラ(大南加羅)のカナがカラに変わり、カラがカラークリークニと転化する」(日本地名の語源・石渡信一郎著)というのだが、この説の延長として高千穂峰をも「ナカラ→タカラ→タカリ→タカチと変わる」と述べるなど、徹底的に朝鮮語源説が展開されるが、少々個性が強すぎて閉口気味である。

これに対して、同じ朝鮮系でも天孫ニギギ命の降臨説はおもしろい。先に述べたように神武天皇の祖が九州南端の異民族の地に天降るはずがないのだが、全く関係なしとは言えないのである。

先のルーツ大辞典は「韓国は後の当て字」と断定するのだが、これは速断にすぎた。

やはり渡米系の民族たちは、北九州で力をたくわえるうちに南九州の霧島一帯を支配している熊襲に注目していたのである。

韓国岳の名の発生由来はすでに解かれているのだが、あえて言うならば、その山と最も関係の深かった民とは熊襲・卑人に違いない。しかし名称として残されていないのなら、その次に韓国宇豆茶神社を建立した豊国からの移住民となる。彼等は土着民と混血を重ねて独自の文化圏を形成し、薩摩人という独特の個性を形成していったからには可成りである。霧島連山にも多数の個性的な名称がある。形状で理解できるものもあれば、深い歴史上の追跡を必要とするものもあるのである。

霧島には小生も幾度かの旅行をしたが、登山では韓国岳から高千穂峰へ縦走があり、のちに夷守岳・甌岳も登った。甌岳は野趣に富んでおもしろいし、付近の露天風呂はすばらしかった。

いずれの山も困難ではないが、支峰となると力量が問われる場面もある。いずれの山も忙しい登山は不可で、ゆったりとした長期の山旅に組み込むならば楽しさは倍増するのである。

霧島を越えた南側の鹿児島県国分市に「韓国宇豆茶神社」という無人の社がある。実はこの神社の由来がすごい。現地案内板(市教委)によると「宇佐記」では「欽明三十二年(五七二)上小原山に祭られたものと当宇豆茶の山頂に遷座され、さらに国司の進言により一五〇四年(永正元年)現在の地に奉遷した。」とあり、さらに「延喜式神明帳」には「延長五年(九二七)や、大隅国設定の翌年、和銅七年(七一四)に豊前国から二百戸の民を華人教導のため大隅国に移住させている。」とあり、その移住者によって当社が建立されたと述べている。

以上の件を歴史の深層に至達するような裏付けをもって語られている本がある。それは「地名の古代史」九州篇の谷川健一氏と金建寿氏の対談集の後書きの中で、金氏が補足として取り上げられている箇所である。金氏はこの件を重大な歴史的事実と考え、中村明彦氏の「卑人の研究」を引用しながら、次のように語るのである。要約は以下の通りである。

「卑人の研究」では熊襲は五世紀以前で以後は卑人となるのは両者は同一であり大和政権にとって服従した後の呼称が

卑人であった。そして「続日本紀」にみえる「卑人昏荒して野心未だ憲法を習はず。困りて豊前国の民二百戸を移して相勸導せしむる也」とあるので一部で混血が進んだ。この移住政策は南九州だけでなく本島北部の蝦夷も同様であったから移住者の神も同道したので。つまり信濃からの移住者は調訪神であり、豊前から韓国宇豆茶社であった。ではなぜ韓国なのか、それは豊国が二分され豊前・豊後となり、その地は、新羅・加耶(加羅)系渡米人集団(天日槍集団)である秦氏の集住地だった。正倉院の大室二年「豊前国戸籍台帳」によると、総人口の九三%が秦氏系で占められていた。したがって豊国は事実上韓国であった。

また大隅も以前は日向国の中で西都原の古墳群も渡米系で「日向国造・豊国別」の墓であるとされる。その「豊国別」とは豊国からの分派を意味している。豊国の秦氏は「辛(韓国息長大姫大國命)」を祭神とする「香春神社」を祭り、南下した一族は宇佐にヤハタ(秦の宮)を祭り「宇佐八幡宮」となる。

文献では六〜八世紀に熊襲の中心部に派遣された教導集団が霧島を視野に入れ

〈山のレポート〉 北海道登山と エキノコックス

金谷 昭

夏の北海道の登山は、喧噪と混雑を極める本州の日本アルプスに比べて、静かななかに北海道ならではの雄大な風景と高山植物が楽しめるが、ただ厄介なことに、生水が飲めないエキノコックスの問題がある。

エキノコックスとは北海道に棲息するキタキツネや野ネズミの寄生虫の一種で、その卵が糞便と共に排泄され、それで汚染した生水や山菜を人が口にすると、肝臓に寄生し、肝臓障害を引き起こすものである。

エキノコックスには成虫と幼虫とがあり、成虫は主としてキタキツネ・犬・猫に寄生し、幼虫は主としてネズミに、なかには豚や人に寄生する。病害は主として幼虫の寄生するネズミを食べたキタキツネの腸で幼虫が成虫となり排卵し、その卵で汚染した河川の生水を飲用した人

の肝臓に寄生する。卵は幼虫となって肝臓に巣窟をつくり、肝臓障害を起こすものである。なお幼虫からの感染、すなわち豚から人、ネズミから人、人から人への直接感染は無いとされている。

エキノコックスは古来、北海道には存在せず、北半球北緯38度以北の寒冷地に分布していた。大正13年、礼文島で野ネズミの駆除と毛皮を得ることを目的として千島列島のシムシル島から十二番(二十四頭)のキタキツネを移入したが、その中にエキノコックスの寄生していたキツネにより感染が発生したと考えられている。

最初の患者は昭和11年に小樽で発見された同島出身の28歳の主婦とされ、それ以来、礼文島では当時の人口約3000人中130名を超える患者が発生し問題化した。その後、キツネは密猟により絶滅し、上水道の完備、野犬の駆除、犬及び猫の飼育を厳禁したこと等により、エキノコックスは駆逐され、同島では患者の発生は見なくなった。しかし、今度は流水を介して侵入したキタキツネにより道東地方に昭和40年エキノコックス患者が発生した。それ以来、北海道全島に蔓延し、調査によれば道内のキタキツネの

約60%が感染。人のみならず、犬・猫・馬・豚・狸、そして動物園のゴリラや猿までも感染が広まった。北海道のみならずキタキツネは青函トンネルを潜って本州に渡ったとされる。またベットの犬・猫の移住により、本州、時に東北地方北部にも拡大し、現在本州にも約70例と数は少ないが感染者が発生している。

特に感染を加速したのはパブル経済である。観光レジャー・酪農・水産業等、多岐にわたる自然破壊と産業廃棄物の不法投棄により、野生動物、特にキタキツネの人間世界への接近を促進してしまっただ。筆者も人を怖れず慣れ慣れしく観光客や登山客に餌をわたるキタキツネを大雪山を始め、北海道各地でよく目にしている。

エキノコックスは主に肝臓に寄生して起こる病気で、感染してから自覚症状が出るまでの潜伏期間が数年から10数年と長く、気がつかないうちに悪化する。上腹部の不快感と膨脹感、黄疸、強度の疲労感等、肝不全の発症後は数年で死に至る恐ろしい病状であり、早期発見と早期治療が大切となってくる。

早期発見には血清検査が行われているが、その検査機関は残念ながら本州には

〈山のレポート〉 山には少しでも 安く行こう

生駒 登峰

山に登るには、登山口までの交通手段が必要である。バイク・自家用車を始め、バス・電車・船など。時には飛行機も利用される。そこで少しでも安く利用できる方法を考えてみる。この中で、利用度の高いのはやはりJRだろう。

JRには各種の割引切符が発売されているが、一番利用価値の高いのは青春18きっぷだ。すでに発売されて10数年が経つので、ご存知の方も多いと思うが、元々学生の休暇に合わせて発売されたので、青春の名がある。もっとも年齢に関係なく誰でも利用できる。利用期間は、
正月休み(12月10日～1月20日)
春休み(3月1日～4月10日)
夏休み(7月20日～9月10日)

となっている。発売は使用日の10日前から終了日の10日前まで。ともかく1日24時間中、特急・急行券の要らない普通・

無く、北海道の市町村の保健所、道立衛生研究所でしか受けられない。その検査は北海道民は無料であるが、道民以外は道立衛生研究所の検査料と血清郵送料が必要となる。なお道民には5年毎の検診をすすめているが、その際陽性となった場合は、道内の大学や道立の本格的な医療機関でのCT、腹部超音波検査等の肝臓の病巣検査を受けねばならない。

治療には薬物療法もあるが、薬剤は寄生虫の発育を抑える程度で、根治するには手術による病巣全摘出しかない。病状が進むと癌のように他臓器へ転移するため、これとて完全とは言い難い。また自然治癒は全く認められないので予防が肝要である。

エキノコックスの卵が口に入らないようにすることが何よりも大切であるが、このためには第一に生水、特に登山の場合には沢水や山菜をそのままにしないこと。また外から帰って来た時の手洗い励行や井戸水の汚染防止が肝要である。

卵は熱に弱い。70度で5分間、1000度で1分間加熱すれば完全に死滅する。なお低温では零下20度以下でないと死滅しない。公共上水道で行われている塩素

滅菌では死滅しない。また卵の直径が0.03μと大変小さく、今の公共上水道の濾過装置では完全に防除することは不可能とされている(筆者が某市水質検査所にて聞く)。したがって北海道内の水道水の非加熱飲用は問題とされている。感染率はそう高くないが、既に札幌その他道内都市部に多くの感染者が出ている。

その他、登山者として残飯や生ゴミを放置しないこと。可愛いからといってキタキツネを餌付けしたり、手で毛に触れることは絶対に止めるべきである。また本州からのフェリー船内にペット飼育ケージが完備されており、渡航者のペットの同伴旅行ができるが、北海道内では飼い犬や猫の放し飼いは絶対にすべきでない。既に関東で北海道旅行者の同伴犬が感染している例がある。北海道より本州にペット持ち込みの際には糞便の虫卵検査とベットの用駆虫剤(有効)投与をすべきであり、英国ではペット持ち込み時にこのことが完全に義務付けられている。

感染後の潜伏期間が長く、北海道での登山中の行為や病状に対する意識をほとんど忘れた頃に発病するといわれているだけに、普段からの注意が大切である。

快速電車に乗り降りが自由で、何回でも途中下車できる。

五枚セットが11500円で、一枚が2300円になる。以前は一枚ずつ切り離して自由に使用できたが、現在は切り離してできないので、同一のコースでないと共同利用はできない。通常共同で利用する場合は、集合駅まで各人が切符を購入し、ここから先の共同移動の部分に充当することになる。

五枚セットだが、何回か使用した残りが金券ショップで売られている。五枚一枚だけ欲しい場合には探すとい。金券ショップでは、それぞれに値段が付けられている。

各シーズンごとに、少なくとも休日が5回以上見込まれるので、私の所属している社会人クラブ(山登同人・峰)では、五枚が利用できる山行プランを企画し、各人が一組ずつ購入している。岡山・四国・北陸からさらに遠くは静岡あたりまで、通常の料金の4〜5倍分は利用している。料金表で片道11500円以上なら利用価値がある。

大先輩のTさんはもっとすごい。行き一枚、帰りに一枚を使用する登山をさ

れている。時にはさらに猛烈で、東京から九州の山行きに、行きに二枚、帰りに二枚を使用するほどで、同行者のなかには長時間の乗車に耐えられず、途中駅から新幹線で逃げて帰ったとの話も聞いた。

私も東京方面の山登りに何回か利用したが、新幹線だと1万2千円程のところを2300円で行く。往復2万円の差額が出るが、片道で3回の乗り換えと、8時間程が必要で「時は金なり」が実感できる。時刻表と首っ引きで、一日でどこまでの山に登れるか、と考えるのもおもしろい。

バスでも多人数で行く場合は、回数券を使用すると10%引きになる。

そのほかJRでは、ジバングなる会員組織がある。年齢制限があり会費も必要だが、30%の割り引きは魅力がある。

北海道に行くときに舞鶴から新日本海フェリーを利用するが、6月中に乗船すると、人と車共に20〜30%の割引がある。九州の場合は、関西汽船の株主優待券を使用すれば、人・車共に50%引きである。

航空機の場合も株主割引があるが、

最近は何日限定の安売りが切符が発売されている。特殊な切符では、誕生日割引がある。どこまで行っても1万2千円で、2〜3人は同じ料金で同行可能というのまである。これらの株主優待券は、金券ショップでも自由に買える。

日本百名山では、旅行社が安いツアーを企画している。往復夜行の強行軍だが、個人では考えられない値段のものがある。休日が多く取れない人には便利だろう。

金券ショップを覗いてみると、いろいろな切符が売られている。

スロット関西やオレンジカード等のほかに、一枚の切符でも定価より安く売られていて、わずかな金額だが得をした気分になれる。大阪駅前ビルの地下街には、たくさんのお店が並んでいて、それぞれの値段を比べてみるのもおもしろい。

切符ばかりでなく、交通機関の利用の仕方でも安くなる。以前湖北や比良の山行で、JRで大阪に帰る時、山科駅で京阪に乗り換えると、街ビル一本分が安くなるので、全員が乗り換えた。今の料金は調べていないので、調べてみてください。

〈山のレポート〉

深田久弥先生と 後方羊蹄山へ登る

高島 伸浩

深田久弥著「日本百名山」の後方羊蹄山の項を基に、私も参加して一緒に登ってみよう。

1959年の8月、高校二年の長男森太郎君は東大受験勉強のため参加しなかったが、小学6年の次男漢一君と深田夫妻、そして私の4人は北海道の名だたる山の登山旅行をしていた。

三等周遊切符を利用して、8月22日は斜里岳、24日は雄阿寒岳、29日は羅臼岳から札幌に着いたのは夜の10時だった。駅前をウロウロしていると旅館の客引きが寄ってきて自分の旅館へと誘う。さあさあ車へ押し込まれる。宿にありついた安堵感があったが、あまりにもむさくらしいのに辟易してしまった。

翌31日は札幌見物に一日をさいた。駅

前から大通りへと歩き、札幌タワーから札幌市街を見渡した。植物園でのんびりし、北大の構内をブラブラした。クラークの銅像の周りでは羊が遊び、北海道らしい風景である。

夕刻、狸小路という繁華街へ出た。先生は古本屋で松浦武四郎著の「後方羊蹄(しりべし)日誌」を見つけた。二十数枚の古びた和紙が1800円だという。あまりにも高いので値切ったが負けてくれなかった。大衆食堂でジンギスカン鍋を食べたが、先生は先程の本が気になって古本屋へ引き返し、仕方なく言い値で買った。主人は恐縮してその夜の旅館を世話してくれた。今度は安くて気易い旅館であった。

翌日は9月1日で学校が始まるので次男と奥さんは帰京した。もっとも先生も函館までいっしょしたのである。それは先日汽車の中へ眼鏡を忘れ函館駅に保管してあったからである。

先生と私は俱知安まで引き返したが、もうすでに夕方の6時半過ぎであった。駅前のとある旅館に入ったが夕食もお粗末、愛想も素っ気もない。仕方なく2人はお酒とビールで今まで登ってきた北海

道の山について語り合った。

後方羊蹄山(しりべしやま)を単に羊蹄山(ようていざん)と呼ぶのは大いに不満だと先生は言う。耳を傾けよう。

後方羊蹄山は吾明五年(659)すでに記されていて、前年の658年は阿部比羅夫が蝦夷を討った年である。後方羊蹄山の後方は「しりべし(すなわちウシロ)の意、羊蹄とはぎしぎしという草の漢名で、日本ではぎしぎしのことを単にしと呼んだ。そこで羊蹄と書いて「し」と読ませたのである。ぎしぎしを漢名で羊蹄と書いたのは、葉の形が羊の蹄に似ているからだろう。だから羊蹄山は単に「し山」となる。

またアイヌ語ではマッカリヌプリという。Makkaは後方の意、A-priは置くの意でその二つが重なってマッカリとなった。ヌプリは言うまでもなく山の意である。つまりマッカリヌプリとは「後方に置かれた山」の意である。

ついでにニセコアンヌプリのニセコアンは左手にの意で「後方羊蹄山の左手にある山」という意味である。札幌で買った「後方羊蹄山日誌」による

と後方半路山に最初に登ったのは著者の松浦武四郎であり、安政四年(1857)嚴寒の2月4日であった。

山の名前についての話が長くなったが、後方半路山に登ったのは翌9月2日であった。頂上へのコースは京極・喜茂別・真狩・俱知安の四コースがあるが、我々は汽車の関係から俱知安コースを登る。俱知安よりひと駅南の比羅夫駅へ。その大きい山容に車窓から目を離さなかった。この山はほぼ完全な円錐形で、御本家「富士山」に一番形がよく似ているであろう。ここは海拔1801メートルなので、山頂の高さ1898メートルとの差1718メートルは、普通の低山の三倍位になるうが。

比羅夫駅から登山口まで小1時間だが、近くの半月湖に寄ってみる。早朝ゆえ湖畔につながれたポートが余計静寂を漂わせている。半月湖から大きな樹林に囲まれた山麓をゆるやかに登る。

三合目からジグザグになりグケカンバが混じる。五合目はちよつとした平地で振り返ると真正面にニセコアンヌプリやイワオスプリが見え、その下には原野のなかに俱知安の街が箱庭のように見える。

残念ながら眺望はそれまでだった。徐々に霧のなかへ入っていく。六合目を過ぎるとジグザグの振幅が小さくなり、道幅も狭く急になってきた。ハイマツの中で山鳥がヨチヨチ歩き、逃げようともしない。乳白色のなかではそんなことも気晴らしになる。足もとのイワキキョウ・イワブクロ・ウラジロタデなどの花に慰められる。

九合目で前方が明るく開けた。と上から声がして数人の若者が下りてくる。1人が背負われている。捻挫だという。代わる代わるに背負うらしい。

最も大きい父釜は1時間位で一周することが出来る。北側の一角に1等三角点の頂上がある。このお鉢廻りは東側が大きな岩の起伏が激しく容易ではない。先程の若者が捻挫したのはこのあたりかもしれない。

半月湖に降り着いたのは夕方だった。半月湖の茶店でビールを飲んで、後半の視界がきかなくなったことを話題に慰労会とした。バスを待つ間に間は迫ってきてチカチカと星のきらめきが突に美しくした。近くの農家のラジオから「東京の今日

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

の暑さは今年の最高だった」と言っている。その農家ではすでにストーブが焚かれていた。先生と私は思わず目を見合わせた。日本列島が南北に長いことを実感したのであった。

〈山のレポート〉 鈴鹿の伝説・伝承 かねみねとおれいじょう 金峯塔尾霊場 岩野 明

滋賀県神崎郡永源寺町佐目村の若宮八幡社に残る古文書「金峯塔尾參詣道名所跡付・上之巻・下向道之巻」から。
水舟の池と蛇ヶ瀑布については本誌33号、蜂巣山併せ鬼坂・野首・人衆坂之事については本誌55号で紹介したが、今回、怪石奇塔お金明神について紹介する。

金峯塔尾の宝処は用明天皇の御宇に露れ定るなり。宝塔の高さ一丈八尺盤石の高さ七尺五寸台座岩の高さ四丈五尺。山高く溪深くして人跡至ざるの靈地にて誠に人力の及ぶところにあらず。怪石奇塔なり。

そもそもこの閻浮檀金の罎口は薬師如来の磐なり磐の形ち罎口のごとく跡ること。それゆえいかなればこの罎善魚にして、極悪重罪のもの海におもむく時、彼罎たちまち難風を越して罪業深き者に

信心の志を發せしめて、彼罎ごとく罪業を取つて喫となり。そのゆえをもつて彼罎の形ち罎口の如く跡つて、薬師これを鳴して一切の衆生を救うい給うと云々。ここに天竺の月氏の国阿育大王の太子拘那羅王繼母の讒によりて左眼を失す。この時にあつて、薬師如来阿育大王の宮中に出現あつて、太子瞶眼を治したちまちに癒め。阿育大王厚く菩提心を發して不可思議神通大力の鬼神に命じて、一日に八万四千の塔を造り、南閻浮提八万四千の国土に投げられ、先薬師如来へ報恩のために第一東方に投げらるる。即ちこの山に留るこれを多宝塔と謂う。よりて閻浮檀金の磐を塔上に安置せらる。即ち薬師如来の垂跡なり。それより金峯塔尾と云う。

五十年作り直し罪業を塔を拝して懺悔するなり
一筋の願う心の清ければ
作りし罪もきえて行らん
難病も清き心で願うなら
薬師如来の治してたまわる

山の本紹介

山口淳有著
三重大学出版会

『海上の森の物語』

新書判 172頁
定価本体940円

●「愛・地球博」の周辺は、自然豊かな海上の森である。この地で生れ育った著者は、海上の森をこよなく愛している。

●1998年9月から、瀬戸市の「とうめい新聞」に「海上かいわい」と題し、58回にわたって、海上の森の自然・歴史・文化・地誌全般について掲載された。今回それを「海上の森の物語」として再編集した。

●「愛・地球博」の観賞を済ませ、海上の森を散策・登山してみよう。

▼本書を希望される方は

- 1 お近くの書店で求めるか
- 2 左記へ直接注文してください。

〒514-0008
津市上浜町1515 (三重大学内)
三重大学出版会
☎ 059 (232) 1356

特選コースガイド①

若狭

(里山シリーズ28 熊川)

視界360度の草原

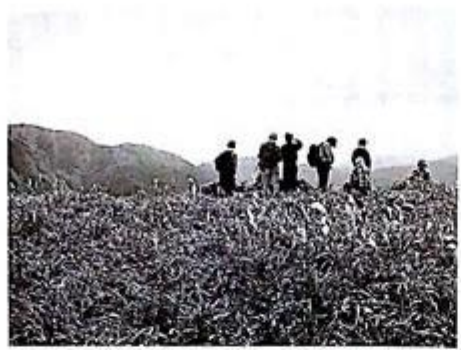
轆轤山

一般コース(★)

長宗 清司

今津から小浜までの国道303号線を、昔は九里半街道といった。沿線はまだ自然が残る四季折々の風情が楽しめる。海老坂の溪谷を抜けると保坂に出る。以前は、ここから若狭へは水坂峠を越え、山腹をぬって杉山集落にくだった。今は、保坂からさらに道路が北にのび、角川集落の南外れにある長い角川トンネルを抜けて杉山に出る。

この水坂峠の尾根は分水嶺である。本州の大部分の分水嶺が府県境になっているのに、この分水嶺は、左右が共に今津市域に属していて、単一の市町村内に分水嶺が含まれるめずらしい例である。轆轤山へは、さらに国道303号線を



轆轤山の草原にて(向こうは武神嶺南嶺)



轆轤山付近略図

西進し、もう一つ寒風トンネルを抜けて、北からの流れ、天増川沿いの集落から登る。遊園と福井の県境尾根にある三十三間山の延長線上のこの山へは、最近「今津山大会」の努力によって、ササヤが縦走できなかった尾根歩きが容易に通過可能となった。

以前は「大石谷山」と呼んだらしいが、最近では、昔天増川沿いにあった六つの集落の一つの名をとって、「轆轤山」が正式名称となった。

JRバス停天増川口で下車。とうとうと流れる天増川沿いを上流へ向かう。最初の橋を渡って左折して人家の裏側にある白山神社の境内に入る。

拝殿の背後から踏み跡程度の山道に入る。雪解け時期や雨後は道が途絶えているが、上部に向かって自由に登る。30分余で伐採地に出る。ここは通称「大根山」といって、太平洋戦争時下、大根畑に開墾したという平地で、二、三段と広くて見通しよい台地だが、60年の歳月ですっかり雑木林に変身している。

ここからは、地図上の尾根を伝う。標高差100mを二段階に下降したり、直角に曲折したり、直登を余儀なくされる。

右は天増川の谷越しに武神嶺(武奈ヶ嶺)の南西稜、寒風ルートが望めるようになる。前方の視界も開け、三重嶺への連峰稜線が美しい流れを見せて目に飛び込んできく。

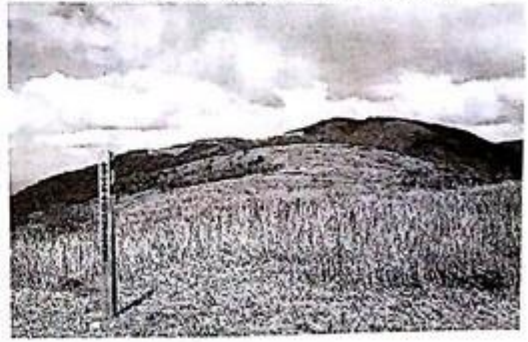
一度、丸い丘陵地で、左の谷が尾根際まで深く入り込み戸惑うが、見通しがきくので高みを忠実に追えば、やがて轆轤山の頂に着く。

360度見渡せる大展望台地。北西に三方五湖を望み、北から東へ三十三間山や三重嶺を含む近江坂、琵琶湖北部の山並が幾重にも望める。南は二の谷山や福井県上中町の千石山・駒ヶ岳、そして福井県嶺南地域の山々が、はるか遠く青葉山まで遠望できる大パノラマ。

三角点の標石は腰高の灌木に埋もれてわかりづらい。

帰路は、ササ原の尾根を北上し、三十三間山を真正面に見ながら登る。以前からある登山道との分岐点で振り返ると、

轆轤山から同じ尾根の北、三十三間山を望む



やせ尾根もあり、地図上では予測できない起伏など変化に富んでいる。この尾根は想像よりはるかに楽しいコースである。特に印象的なのは、伐採後同様に植林された同種の落葉木が成長して林となり、視野いっぱい林立している光景は見事である。

三十三間山からの本尾根はかまぼこ形で、左右の情景が木々の梢越しに見られ、

轆轤山山頂を示す標木がポツンと草原に一本立っているのが遠くから確認できた。

この分岐点から下界へしっかりした登山道を下り、倉見集落の外れにある登山口の駐車場に着く。あとは地図をたよりにJR小浜線十村駅に向かう。

(平成15年10月19日歩く)
(平成16年3月27日歩く)

▲コースタイム▼

- JR近江今津駅(バス35分)天増川口バス停(30分)天増川集落白山神社(40分)大根山(40分)384m(40分)401m(30分)636m(30分)轆轤山(30分)分岐点(40分)301m(30分)倉見登山口(40分)JR十村駅
- △地形図V2万5千≡熊川(問い合わせ先)
- 今津市観光協会 0740(22)2108
- 福井県大中町役場
- 0770(62)1111
- JR西日本バス 0740(22)2136
- 近江タクシー(今津)
- 0740(22)0106

特選コースガイド②

北海道

日高山脈の展望台

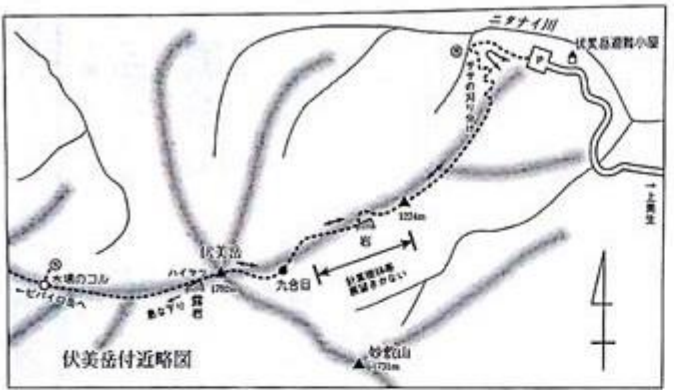
伏美岳

一般コース(★)

金谷 昭

日高山脈は知床半島と並び、我が国でも原始的な自然が残された地域の一つである。整備された登山道が少なく一般登山者には近寄り難い山が多いなかで、伏美岳は日高山脈登山に付きものの徒渉箇所も無く、比較的に登りやすい。また、日高山脈核心部の展望と高山植物が楽しめる、日高山の数少ない入門編というべき山である。

山名は麓の地名をとって名付けられている。伏美岳の登山道はビバイロ岳(1916.5m)を経て日高山脈の主稜線に達し、さらに戸嵩別岳、そして最高峰幌尻岳に至る。このルートは、日高での数少ない縦走路の一部ともなっている。



み、エゾマツの針葉樹林が出てくる。木の間越しに、前方の伏美岳山頂が、振り返るとトムラウシ山(十勝)、北方向には剣岳・芽室岳等の山が見えてくる。この

ここも北海道登山のアプローチの常で、公共交通機関は無く、タクシーかマイカーに頼らざるをえない。帯広市から芽室町に入り、上美生を過ぎ西に向かうと、道路の交差点に伏美岳への案内板が細かく設けられて大いに助かる。たどる林道は終点までゲートは開放され、登山口となっている広い駐車場が終わっている。なお、登山口手前300mの所に芽室山岳会が管理する無人の避難小屋がある。トイレと炊事場が外にあり、約30人収容の三角屋根の鉄骨造二階建。少し古くはなっているが、こざいいて堅牢な小屋である。伏美岳を経てビバイロ岳を狙うなら、前夜ここに泊まると時間的にかなり余裕ができる。

登山口には、芽室山の会による「山頂まで3925m」と細かい距離を示す案内板と登山届けのボックスが置かれ、その脇から登山道が始まる。以後同会の山頂までの距離と何合目かを示す道標が所要所に置かれ、迷う所のない一本道である。

しばらく小沢に沿って行き、最後の水場から左の山腹に取り付く。ジグザグを



伏美岳頂上 (左から幌尻岳・戸嵩別岳・ビバイロ岳)

切りながら、幅広くササの刈り込まれたなをゆるやかに登って行く。三合目あたりからは急登となるが、チシマザサのなかにタケカンバの林が山頂近くまで続く。展望はあまり期待できず退屈であるが、所どころにひっそりと咲いているハクサンシャクナゲの白い可憐な花が、変化のない植生に彩りを添えている。

標高1224m付近ではいったんゆる

あたりもハクサンシャクナゲが多く見られる所で、再び急登となる。

九合目を過ぎると樹林帯を抜けて灌木帯となり、今まで左に高くそびえていた妙敷山が目の高さになる。チシマザサのなかに、ヒゲカソウ・エゾツツジ・マルバシモツケソウ・ビバイロキンバイ等の高山植物のお花畑が出現する。お花畑を前にして展望を楽しみながら登って行くと、ハイマツが出てきて間もなく露岩の伏美岳(1792m)の山頂に飛び出す。

三角点はないが、360度の大展望。何といても、日高山脈の最高峰幌尻岳を中心にして右に尖鋒の戸嵩別岳を、左にカールを抱いたエサオマントツタベツ岳を従えた、日高山脈の核心部を始めとする大観がすばらしい。また、晴れていれば遠く阿寒や大雪の山々を望む大展望には息をのむ。誰も来てよかったと思わずにはいられない。

夏季の日高山脈は北海道に張り出すオホーツク海高気圧の影響を受けやすく、山麓では曇っていても頂上は雲海の上で晴天が多い。雲海に浮かぶこれらの山々の景観には、とくにすばらしいものがある。展望を堪能したら、往路を忠実にた

どって下山する。

なお、ビバイロ岳へは東西に長い伏美岳を西に行く。ハイマツと岩の急な尾根を大きくくだり、展望のないタケカンバの尾根を西へ西へとたどり、水場のコルを過ぎ、二つのコブを越えればよい。今までの伏美岳の登山道と違って灌木やササが覆って歩きにくく、往復にはさらに約5時間を要す。

一日で往復するにはハードな健脚向きであるが、労苦が多いぶん、伏美岳より展望が優れているのは当然である。

(平成15年7月8日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(50分) 三合目(40分) 五合目(1時間20分) 九合目お花畑(10分) 伏美岳(1時間) 五合目(50分) 登山口

△地形図▽

2万5千: 妙敷山 5万: 札内岳

(注) 道標あり 水場は登山口すぐの所のみ

(問い合わせ先)

芽室町役場 ☎0155(62)2611
帯広森林管理署(林道管理) ☎0155(23)7131

一統・近江側から登る鈴鹿の山々
三角点マニアだけの山

黒谷山・花平

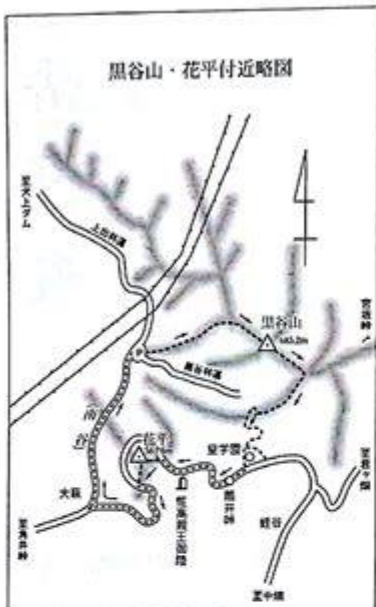
中級コース(★★★)

磯部 純

鈴鹿でも天狗堂と押立山に挟まれる山域は、特にすばらしい場所があるわけでもなく、三角点病にとりつかれた人以外一般の登山者はあまり歩かない。そんな所に黒谷山と花平の三角点の山がある。黒谷山へのルートは新ハイ33号、48頁の「近江側から登る鈴鹿の山々54」に筒井峠にある皇学園からの往復ルートが紹介されている。私は、平成16年9月の岩野さんの例会で歩いているが、時間が余ったために、大萩の黒谷林道分岐に車を置いて、黒谷山に登り、皇学園へくだって、花平を踏んで黒谷林道へ戻る回遊ルートを紹介する。



黒谷山の山名標識



黒谷山・花平付近略図

三角点は広場らしからぬ広場の北に立っている。点名黒谷、標高685・2尺。顔は東向きで、10度東から南に振っている。展望を求め、北へ高い木がある所までくだると視界が開ける。天狗堂からサンヤリの連なりが目前に横たわっている。右の榎林に入ると、木の間にから鏡子岳・静ヶ岳・竜ヶ岳も見ることができた。下山路は岩野さんが紹介している皇学園へ向かうルートをとる。山頂から尾根を東南へくだる。尾根は道幅に刈り取られているが、5メートル程の切り株や小木が残っている。実際に歩いて、尾根の両側には榎が成長し、山々を眺めながらの歩きとはいえず、時折、林の切れる間から、天狗堂やその後ろから顔を出している藤原岳を覗き見するだけ30分も歩くと分岐ピークへと着く。

このピークはわか

愛東町道の駅から百済寺へ向かい、角井峠を越えて、大萩から分岐を左に曲がり、犬上川に沿って走り黒谷林道入口へ車を置く。地形図をよく見れば、この林道の北に送電線が走っており、その巡視路を登って尾根へのれば、あまり苦労することなく黒谷山へ登ることができそうなので、興味ある方は一度歩いてみてほしい。今回はこの林道から尾根に取り付き、黒谷山へ登る。

黒谷林道から見える西斜面は急で、一面榎の林に覆われている。林道を東へ入り、最初に左からくる谷の東の尾根へ取り付き、尾根は最初から駆け落ちそうな急斜面。教員は手入れが行き届き、下枝ややぶが少ないことか。榎林の急斜面を標高550尺まで登るとゆるくなる。そこには松が10本程立っているが、あたりは相変わらず榎林が続く。

展望の無い榎林のなかを50分も登ると、やっと尾根分岐へ着く。小さなピークを踏み、二つ目のピークまで登ると、北斜面はコナラ・ミズナラの雑木の林。木の間に天狗堂・サンヤリの姿が見え隠れする。尾根の木々には紫のテープがいたる所に下がっていた。おそろしく巡視路を

黒谷山稜線より天狗堂を見る



利用して尾根にのって登って来たのだろうが、間違いない尾根に何でこんなに付けるのかと思う。尾根分岐で南へ曲がると、再び両側榎の尾根にのり、急斜面を登り切ると黒谷山山頂。ここへ登るまで雑木林に出会えたのはほんの一時で、最初から最後まで榎林の登高だった。山頂も植林された榎が大きく育ち、展望は全く無い。

りにくく、素通りしてしまいそうだ。太い二股の松が立っているのが目印で、造林公社の097と打ちつけられた小さな標石も立っている。側の木にはテープが巻かれ、「皇学園」の方向を示している。この尾根を東へ向かえば宮坂峠へ行けるが、ここから西南にのびる尾根にのる。それまでの暗い感じの榎林から解放され、明るい雑木林の尾根をくだる。右の斜面に枯れ木状の木々が立ち並び、実に趣ある光景が展開している。

ゆるい尾根を歩くと約690尺のピーク。北側は再び榎林に戻り、その林に沿ってくだってしまうと、西北西へのびる尾根にのってしまうから注意が必要だ。このピークでよく方向を見定め、西南西へのびる尾根へのらなくてはいならない。尾根にのると道状の切り開きが出来ている。その先、尾根が登りに変わる手前に袖道があるのでそれをたどると、すぐ下には林道が来ていて、小屋の残骸が散乱していた。ここからは林道をくだると、やがて皇学園の真上の小屋の横に出る。舗装路に出て、皇学園の中を通り峠道へ出る。学園の建物は新しいが、全く人の気配が無い。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

京阪電車
▽スポニチファミリーハイク「星田妙見宮から牽牛石」 7月3日(即小雨決行)集合 私市駅9時30分〜10時(コース) 私市駅〜私市橋〜星田妙見宮〜機物神社〜牽牛石・観音山公園(バス) 香里園駅(約13分) 参加自由・無料(バス代別途) 京阪電車ハイキング担当06(6947) 3702

京都バス
▽三角点トレック「品谷山・鹿村八丁」 7月2日(出)・9日(出)雨天中止(集合) 京都出町柳駅コンコース8時〜8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 佐々里峠〜ピーク866〜品谷山〜品谷峠〜鹿村八丁〜四郎五郎峠〜ダンノ峠〜香里園町(バス) 出町柳駅(約10分) 参加定員各200名(申込制1ヶ月前から) 無料(バス代別途) (申込先) 京都バス運輸部営業課 075(871) 7521〜2

江若交通
▽「こらじやくMtハイキング」新緑の芦生フナ原生林散策 7月14日(雨天中止) (集合) JR安曇川駅9時05分(コース) 安曇川駅

(バス) 生杉〜三國峠〜杉尾峠〜生杉(バス) 安曇川駅(約13分) 参加費4000円(バス代含む) (申込先) 江若交通本社077(573) 2701

叡山電車
▽歴史ウォーク「牛若丸と鞍馬」 7月5日(雨天中止) (集合) 貴船口駅9時30分〜10時(コース) 貴船口駅〜鬼一法眼の碑〜貴船神社〜奥の院〜義経堂〜義経公尊比石〜霊宝殿〜金堂〜鞍馬門前町〜らま温泉〜鞍馬駅(約5分) 参加自由・無料 叡山電車営業課 075(702) 8111

▽フラワウォーク「ヒマワリ鑑賞」(寛葉ヶ岳・静原) 8月3日(雨) 6日(出)雨天中止(集合) 岩倉駅9時30分〜10時(コース) 岩倉駅〜寛葉ヶ岳〜寛葉ヶ岳〜村松分岐〜静原(ヒマワリ)〜善王坂〜鞍馬駅(約10分) 参加自由・無料 叡山電車営業課 075(702) 8111

神戸電鉄
▽木塚ハイク「稲妻坂・天狗道」 7月7日(雨天中止) (集合)

合 鈴鹿台駅9時30分(コース) 鈴鹿台駅〜牛ノ背〜再度公園〜稲妻坂〜天狗道〜穂積神社〜サウスロード〜記念碑台〜八甲ヶ浦山山頂(約14分) 参加自由・無料(神鉄グループ総合案内所078(592) 4611)

▽神鉄ハイキング「地獄谷とノースロードハイク」 7月17日(雨天中止) (集合) 大池駅9時30分(コース) 大池駅〜地獄谷〜ノースロード〜記念碑台〜八甲ヶ浦山山頂(約10分) 参加自由・無料(神鉄観光事業部078(521) 0321)

▽木塚ハイク「桜ヶ谷・桜葉道」 8月4日(雨天中止) (集合) 谷上駅9時(コース) 谷上駅〜桜ヶ谷〜桜葉道〜樹屋台〜穂高湖〜グレイブロードポイント〜記念碑台〜八甲ヶ浦山山頂(約11分) 参加自由・無料(神鉄グループ総合案内所078(592) 4611)

▽これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。



花平の山名標識

車道を西へ歩くと惟喬親王の御陵がある。ここは筒井一党と呼ばれた姪谷の土地師が住んでいた場所で、筒井千軒跡とも呼ばれている。ここに木地師の祖といわれる惟喬親王の座像などが奉納されており、親王に関係する多くの遺跡も残されている。時間があるなら、ここを見てから花平へ向かうとよい。

御陵から車道を2000歩もくぐり、石堤の低くなった所から左の尾根にのる。尾根を西へ10分も登ると、花平山頂。檜林のすぐ側の広場に三角点立っている。点名は「大萩」、標高561.6m。車道がすぐ側を通っている。こんなに高いとは思えない山である。それだけに、余程の三角点マニアしか訪れないだろう。ここから大萩へは、先程の取付地点まで戻って車道をくだるのでは大廻りになるので、三角点から南へのびる尾根をくだる。

斜面は急だが、やぶも少なくあまり苦にならない。右手へ振ると、車道側にフェンスがあり降りられないので、左手へ向かうようにくだるほうがよい。谷の手前でフェンスが切れるので、そこから車道

に降りる。その後、長い車道を歩き、黒谷林道入口まで戻る。

黒谷山は数年前の植林が伐採された時と違って、ほとんど展望の無い山といえてよく、歩いたルートの大半は檜林。風景を楽しむ山ではなく、三角点マニアの登る山かも知れない。

(平成14年3月4日歩く)
(平成16年9月12日歩く)

▲コースタイム▼
黒谷林道入口(5分) 尾根取付(45分) 尾根分岐(20分) 黒谷山(30分) 尾根分岐(40分) 皇学園(25分) 花平(20分) 車道(35分) 黒谷林道入口
△地形図▼
2万5千1百済寺・竜ヶ岳

新刊

岳書縦走

雁部貞夫著 菊判上製 五七七五円

(新アララギ)の選者、編集者であり岳人でもある著者による、内外の著名な山の本(登山記・紀行・自然・民族・文化)100篇の書評・解説を集大成した山の書誌文化誌。

好評発売中

新刊

おれにんげんたち

―デルスー・ウザラーはどこに―

岡本武司著 四六判上製 一八九〇円

黒澤 明も感動したウザラーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民デルスーとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

せせらび

題字・小林玻璃三

室蘭へ出張した時、予備日をとって恵庭岳に登った。早朝小樽に着いた船を降り、支笏湖へ向かう。途中、異様な形をした恵庭岳の山頂が見えてきて心がはやる。

湖畔に立つ恵庭岳は国道脇に登山口があり駐車場もある。登山口に登山届け用の小屋がある。熊目撃情報が張り出され、警察署名入りの車十数台注意報も貼ってあり、こと細かに注意事項が書いてある。登山届けのノートを見ると登山者が1時間前後で戻っている、どうしたのだ？ 熊におびえたのか、それとも車上荒らしが気になって引き返したのか。

登山道を行くとすさまじい倒

木帯がある。台風18号によるものだ。溝状の登山道の上に両側からトドマツが倒れこみ、倒木の上に乗って見ると200m程続いている。時間がかりそうなので右手の尾根によじ登るが、手の平はヤニで真っ黒だ。やせ尾根にも倒木があるが、みな下向きに倒れているので歩きやすい。途中三ヶ所に倒木帯があり、そのつど逃げる。

山頂部に出ると低木帯になって展望がよく、火口の爆裂した跡が見え、今でも煙を吹いている。湖の対面に見える樽前山は、山頂に異様な形の溶岩ドームを持つ標山である。

湖畔に宿をとる。一帯の広大な原生林はなき倒されへし折ら

れ、その光景に圧倒された。今年には洞爺丸台風からちょうど50年目で、その森林復旧事業も半世紀をかけて完了した矢先にまたやられてしまったのだ。石狩川源流部では洞爺丸台風で、年間伐採量の35年分を破壊されたそうである。週末には道央のホロホロ山・徳舜賢山・オロフレ山に登った。どの山も低木帯で山頂からは四方八方があっけらかんとよく見える。海・平原・山・湖・街と広範囲に見え、噴火湾の先の駒ヶ岳・恵山まで見える。とりわけよく見えるのが羊蹄山で、臨に尻別岳を従え実に堂々と偉そうにしている。「オレに挨拶にこねーのか」と言っている。

登った三つの山は遠くからもよく見え、麓からこの山を眺組みをしてジーンと見ていると「早くいらっしやいよ」と言っているのだ、「どこからでもいいわよ早く」と言っているのを目撃に登った。

(大里町 山形 明)

アルプスの山々を見たいものと、奥飛騨に出かけた。新穂高ロープウェイは一年中運行され、雪の北アルプスが望まれる。もっとも冬は天候不良の日が多く、なかなか展望の機会に恵まれることは少ない。先年訪れた時には全く霧のなかで、山どころか周囲の建物も判然としなかった。

そこで再度雪山を見ようと、あるツアーに参加した。幸いに、今年は一冬に三、四回という快晴に恵まれ、ロープウェイの頂上展望台では、何一つ遮るものがない展望であった。

主峰の槍ヶ岳は岩壁が急峻で雪が無く、黒く天を指差し、全面に南岳が大きな山容を見せ、続いて西穂高岳が長く白い稜線を引いている。奥穂高岳は、その形で見えない。さらに目を南に移すと、まだ少し白煙を上げる槍ヶ岳が大きくわだかまり、その肩から乗鞍岳の裾野が覗いていた。福田川沿いには雪を被った温泉が散らばり、錫杖岳・笠ヶ岳の連峰が長くのびていた。遠く白山連峰も輝いていたが、白山が見えることは滅多にない

とのことであった。その後、露天風呂から再び槍が眺められ、今冬の新穂高行きは幸運続きだった。

(二等三角点研究会 山形 茂之)

3月上旬、北嶺山系の南端、茨木市の郊外にそびえる阿武山(2811m)へ登った。

桑原橋バス停から歩き始めたが、大規模な工事のため取付口がわかりづらくまごついた。また、阿武山古墳(貴人の墓)は鉄欄に囲まれているのみで、「墓室」の表示しかないのに失望した。

頂上に到着し、持参した四部の資料にも載っていない(あぶちゃん)像と三角点に挨拶する。

阿武山は低山ながら美人山の別名をもつ秀峰であり、明治から大正初期には旗振山とも呼ばれていたらしい。その頃は展望もすばらしかったことだろう。資料の一つに、「富田から(私の住む)枚方方面に開けている景色を眺めれば汗も吹き飛ぶ」とあるのが期待していたが、樹木が成長していて無理だった。

貴人の墓も説明板が錆ているためしっかり読みとれず、残念に思った。

下山は、阿武山口バス停を予定していたが、間違って生保バス停へ出てしまった。

それにつけても思い出すのは、登山口で出会った京都山岳会の人である。82歳の高齢で全国ほとんどの山を登っていると言われ、数は少ないものの、同じような山の経験をもつ私との間にいろいろと話がはずんだ。やはり1人で歩かれているのだが、夏冬に関係なく登ることとで、あまり、寒さ嫌いの私からみればまさに超人的であり、敬服させられた。

持参した資料の中、最も古いものには1998年の日付があったことなる。また、「大蔵周辺の山」に出てくる「北嶺の山」図を見て、約30山のうち、3分の2に登ったなどと思った。

ともあれ今年初の山歩きは終了した。これから標高・標高差を高めれば、夏には信州の山々に登りたいと考えている。

(枚方市 東谷 宏)

○新ハイ関西サービスマン

名越・二岐山 小樽山 大樽山 甲子山 船越山 船越山 1名でも観望可能 送迎あり 雨天降止 山内降止

福島・二岐温泉
日観連 大和館

〒962-0621
福島県伊達市天栄村二岐温泉
電話 0224818412 26262
F 0224818412 26262

富士登山・富士五湖
東海近自然歩道
(石巻山・ハリモミ・純林)

三河山の麓
ペンション コットンテール

〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話 0555165185 15

大倉橋連中級から初級まで
富士山・岩壁あり
JR中央線山梨駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車徒歩徒歩時間

山小屋 福ちゃん荘

〒404-0022
山梨県山梨市上柳原
電話(山小屋) 05331446319
(山小屋) 033014179215

尾越、平ヶ岳探訪と約りの山小屋
越後三山只員温泉大内内
露天風呂と手打そばの
清四郎 山小屋

〒946-0000
新潟県魚沼市廣の果(奥銀山)
電話 0990-25588 00228
期間外(11月4月)
0257912150226

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ

百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池 ヒュッテ

〒949-1210 新潟県中
頸城郡妙高高原町池の平温泉
電話 025518612261

休憩屋 食入浴も歓迎
10名以上マイカーバスで送迎

箱根仙石原温泉
福 島 館

〒250-0663 神奈川県足
柄下郡箱根町仙石原1339
電話 0460-419041

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを

水芭蕉の湯

ヴィラ風花 (KAZAHANA)

〒378-0411
群馬県利根郡片品村倉445
電話 0278-5817051

四季繰り返す乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造り味の宿・日観連

温泉旅館 けやき山荘

〒390-1500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電話 0263-9312555

富士山には五合目までの観光でしか行っていない。テレビで富士マラソンを見ていると溶岩ばかりで、あの山に登るのではなく展望の山だと思ってしまう。て久しい。

今年1月、丹沢山塊から富士を見ての山歩きに大きな感動を得た。3月にも沼津アルプスで富士展望と道連れの山歩きを味わった。

日本人なら誰でも、富士山には思いがある。裾野を左右に長く引くあの見事な曲線美がたまらなく心を捉えるのはもちろん、天を突くような頂きは何物にも変えがたい。北斎の富嶽百景や、神代の昔から日本人の心に残る永遠の山岳風景に異論のないところだろう。

ダイヤモンド富士はもちろん、地元の人たちが呼んでいる紅富士・赤富士も見たいとの思いが強くなった。さらには東西南北から富士山が眺望できる、周辺の展望の山々にも登ってみたい気持ちが増しに募るばかりである。

ダイヤモンド富士とは日の出、日の入り時に富士山頂に太陽が

かかる状態のようだが、例えば塔ノ岳では、2月23日(フジサン)前後の雪崩時に出会えるという。ぜひ目にしたい姿だと心待ちにしている。

(長岡京市 田中明)

近頃、アプローチが困難だった山域にも林道が通じたり、激しいやぶで登るのに難渋した山にも、いつの間にか切り開きができたりにしています。深田百名山にも目を見張るような登山道が整備された所もあると伝え聞きますが、その中には、中高年ハイカーの増加に対応して観光開発を狙ったものもあるようです。

現実問題として、登山の折にその恩恵に浴している私は「観光開発」の是非をまずきりと論じられぬ面があります。少なくとも山岳の観光開発には自然環境への十分な配慮がほしいものです。そして同時に、開発したのであれば、その観光資源は誰もが利用できるようにしてほしいと思うのです。

2月下旬、例会山行として西穂丸山へのスノーハイイクを実施

した際のことです。燻路、下りのロープウェイの時間待ちで、千石園地の展望台に1人ぼんやりしていたとき、どこからともなく手をたずさえた若いカップルが姿を現しました。

山中での雪景色は初めての体験なのでしよう、控えめな仕種や表情ではあっても喜びを隠しきれない様子でした。お互いに身体に障害があるようで、女性の方はあきらかに弱性マヒの人だとわかりました。

新穂高ロープウェイは、駅舎に障害者のためのエレベーターを設置するなど、当時としては先駆的な取り組みを行い、平成3年度に創設された岐阜県バリアフリー賞の第一回目の受賞対象となっていました。

若いカップルがゴンドラに乗車する際、ごく当たり前のことと手馴れた態度で介助する係員の対応は、久しぶりにさわやかな空気を運んでくれました。

(各務原市 鷺見守康)

山行短歌

6月末 大田山村にて山麓に自然歩道あり住職は

会う人ごとに道教えけむ
龍神の顔まる山の木陰より
笠取山のレーダーを見ゆ
紫陽花の房の上なる青蛙
大海ならぬ花の海知る
雨落ちて紅顔の前去らぬ君
萬葉の森の奥より呼ぶ声す
一寸来いとぞ勝氣に聞こゆ
大田山村に至る長野峠の東に
約千七百万年前の化石があると
教えてもらい、三回拾いに行っ

山行短歌

3月3日 奈良天田丘陵
雛まつりのころ君に逢いたくて
丘陵の白い画布に色を塗る
3月7日 紀東四石山
海のエアポートを眺め峰に寝る
翼の折れた飛行機のように
3月9日 大峰五大尊岳
奥駆道の早春に抱かれにゆけば
限り無き未来が降りてくる
3月16日 丹波三尾山
岩尾根より振り返れば三つ峰は
朝えあらたまる季節の中に
3月19日 熊野子泊山
はるばると飛雪の滝の麓より
禽獣の泊まる山へ分け入りぬ
3月21日 熊野千穂ヶ峰
真つ青な海が生まれ胸が震えた
なにかが生まれてくる予感に
3月26日 南紀重登山
希望にもえ絶海岸より光とどく
情眼むさばる地平線逃れて
4月4日 越前一乗城山
山崩れの谷くみたれた河原で
泥にまみれたズボンの裾洗う
4月5日 湖北長枯ノ峰

間、龍城して戦った所だそうである(駐車地から2・40、50分)。(松阪市 葦木伸人)

本誌引号の「せせらぎ」に書いたあの花を見に行った。絶滅危惧種であり、人のあまり入らない危険な場所に残されていながら、夫婦だけで行った。

この季節に入るのは初めてだが、過去何度も歩いている場所の近くなので山の様子はわかっていて。林道が昨年の台風で荒れて工事中で通行止めとなり、入口から歩かされた。1時間余りで行きに着いて歩き始めるが、かみさんには初めての場所である。

花は特別に多い場所のようで70種を超える花を確認でき、絶滅危惧種は5種を確認した。名前がよくわからない2種は専門家に同定を依頼した。2時間近

さわやか信州
霧大原岳 山吹の湯
湯田中温泉(霧渡)
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下
高井郡山内町湯田中温泉旅館
電 02669-3313 33278

標高2000m 雲上の温泉
湯の丸富嶽自然休養林
ハイキングにXCSキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰温泉
電 02667-2512 2000

ハイキングにスキーに
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯駅まで下車
02669-3412 421
東京本社・東京都新宿区新宿3
120-15(新光第2ビル)
03-3334-1021

塩の道 千両街道
百八十七休「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-0300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 02661-7214 452

ハヤ橋南北線史の中心地。高山植物の宝庫。神風川・水沢川・イレイ、美しい名物料理「松鮎」
オーレン小屋
〒399-0213 (SJC会員500円割引)
長野市豊平2-472 小平秀夫
電話 02661-7212 378
http://www.oren.jp
mailto:oren@oren.jp

北八ヶ岳の登山基地。冬はスキーJ.R.長野県北八ヶ岳登山口まで送迎します
長野高原
ブチホテル カナール
〒399-10301
長野市北山長野高原温泉丸平55
電 02666-6712 2588

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高梨山・黒根山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒388-14100
長野市戸隠村木下原
電話 02661-2554 20081

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」(百名山)の登山口。大峰山「百名山」の登山口。大峰山「百名山」の登山口。大峰山「百名山」の登山口。
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋 甚八
1泊2食付 7,000円から
〒6338104 431
奈良県野間郡天川村湯川
電話 0747614103 309

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2刷/上製本/B6判 352頁/定価 1890円
高度順一等三角点100など、一等三角点の知識をこの一冊に収録。地形図による一等三角点の決定版。
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判 336頁/定価 1631円
北海道から沖縄まで、マニヤのモサが選んだ全国100座の一等三角点峰紀行・案内文集。
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判 360頁/定価 1835円
北から南から海外まで、百歳までの山登りをめざす中高年の星。話題豊富な著者の紀行と随想集。
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判 340頁/定価 1837円
一等三角点の山100座の登山コースを紹介。全国一等三角点配置図と全国一等三角点の別称の所在地を最新の資料で掲載。
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判 328頁/定価 1680円
山との出会い、花鳥との出会い、人との出会い、さまざまな出会いを書き下ろした山の随筆55名の話題の出会い。
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 313頁/定価 1680円
第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介。一等三角点の山シリーズ3部作目。この三冊で一等点の山はほぼ網羅されます。
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著
B6判 362頁/定価 1680円
山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集。ひとり行く難岳北方稜線は本格的に山へ取り組む人への道案内書である。
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 389頁/定価 1680円
深田クラブの飯島 蕭・高沢光雄・高辻謙輔の三氏が山行に著作に交友に久弥のすべてを丹念に研究した成果を記録。
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判 234頁/定価 1680円
信州の山の家を中心とした折々の出来事や、豊かな感覚でつづった「田舎ごっこ」。標との触れ合いをほのかにまとめた「蝶々雑記」が好読物。標のカラー写真も出色である。
- 花と山 100人の100山** エーデルワイスクラブ 編
A5判 217頁/定価 1680円
坂倉登喜子女史が名誉会長をされているエーデルワイスクラブの会員が、心に残った山を選んでその思い出をつづった100山集。

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話/Fax 03-3915-8110 編集 00130-9-146915
●価格は消費税込み ●原稿でのご注文は送料当社負担

くかかってあの花のある場所に
着き、少し探した。ちょうど見
頃に咲いているので写真をたく
さん撮ったが、危険な所だっ
た。

人が入れば入るほど道もでき
珍しい花は多くの人知れば盗
掘の危険も増す。1ヵ月後に咲
く別の絶滅危惧種は相当多くの
人に知れわたり、少し盗掘され
たようだ。山も荒れて花も少な
くなってきている(踏み荒らし
の影響もあるだろう)。

今回の場所には当り入る予定
はないし、他の人を案内するつ
もりもない。究極の保護は人が
立ち入らないことなので実践し
たい。(海津市 山田明男)

もう30年も昔、私が登山に興
味をもって間もない頃の夏、暑
さを避けて鈴鹿の霊仙山へ1人
で登った。

経塚山の岩の上で、昼食時に
ビールを飲んだこともあり、い
い気分が登りを楽しんだ。1時間
ばかりぐっすり寝てから下山に
かかった。

汗ふき巾を通過して樽ヶ畑の
カナヤの売店で休憩していると、
売店のおかみさんから「背中
のシャツが血で真っ赤ですよ、ヒ
ルにやられはったんだすね!」
背中を手を回してシャツに触っ
てみると、血でべとべとになっ
ている。ザツクの背にも血がに
じんでいる。痛くも痒くもなん
とも無かったのでそれまでは全
く気づかなかった。

当時は登山を始めた頃で、山
にヒルがいることさえ知らなかつ
た。その後の経験では、京都北
山の鹿野八丁での沢歩き、皆子
山、鎌倉山、そして比良の武奈
ヶ岳西尾根登山等でヤマビルに
やられた。

「最近はこの山でもヤマビ
ルが多くなってきた」と、姫路
の須磨園さんが本誌に書いてお
られたが、これでは夏の山が大
変だ。7月に計画している台高
の馬ノ鞍峰も多しと聞く。

奈良の草田さんから、奈良新
開(平成15年7月10日付け)の
ヤマビルの記事を送ってもらっ
たので参考に引用してみよう。

「シカの多い所では、シカの
足に有穴腫瘍(ゆうけつしゅよう)という穴をあけて、そこに
ヤマビルが入り込み半寄生の状

態で吸血し、脱落せずにたっ
り時間をかけて吸血して、遠く
まで移動分散をすることがわかっ
ている。……」

ヤマビルは、血液を固まらせ
ないようにするヒルジンを出し
て吸血するが、痛みを感じない
物質も同時にだすため気がつか
ないことが多い。……吸血後一
時間以上は傷口から流血するの
で、血を止めるには、傷口から
血を押し出して、水で洗うのが
良い。野外ではチドメグサをも
んですり込むのも良い。アンモ
ニアは絶対に使わないように。
吸われた後がかゆくなり、寝て
いる間に無意識にかき細菌が入
り、化膿するので、絆創膏をは
るのが良い。

ヤマビルのいる山へ出かける
時は、登山靴にスバツをつけ
履もすき間がないようにする必
要がある。……ヤマビルがより
つかない忌避剤やヒルを殺す殺
ヒル剤も販売されているが、ヤ
マビルも生態系の一員をになっ
ていて、自然が豊かでもある指
標であることから毛嫌いをして
無闇やたらに殺さぬようにしよ
う」

これは、奈良の春日山や奈良
公園にヤマビルが多く生息して
いることから記事になっている
ようだが、シカによつて移動分
散していることがはつきりして
シカの多い山は特に気をつけて
歩きたい。(城陽市 村田智俊)

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
歴久島グリーンホテル
〒891-1431
鹿児島県鹿嶋市高野町安房
0997746130021

那岐山麓の宿、早く近見山の火山
二宮山の水ノ山・上野山などあり
三百名山 那岐山のふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県岡山市東区那岐町高野
086813614154

愛知所登山に
御知川渓谷沢歩きに
山好き仲間集の集う宿
朝明渓谷
山小屋 朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菟野町草
05931931769

山行計画 (7・8月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限ること」特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。費用のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点等の関係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害賠償サービスと契約)
死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 50000円
通院保険金 25000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
(初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
(一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
(中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
(健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
(やぶ清きの連続など、ハードなコース(7時間以上))
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

7月		8月	
2(出)	奥美濃・見当山	2(出)〜5(出)	北アルプス・朝日岳・蓮華温泉
2(出)〜3(出)	大峰・玉置山・七越峰・牛頭山	6(出)	鈴鹿・神崎川渓谷
3(出)	台高・馬ノ鞍峰	6(出)〜7(出)	湖北・伊吹夜間登山
7(出)	奥高野・護摩壇山	7(出)	鈴鹿・神崎川源流・貯水口
8(出)〜11(出)	至仏山・尾瀬	11(出)	金剛・金剛山妙見谷
9(出)	鈴鹿・柏原道・雲仙山	12(出)〜15(出)	南アルプス・聖岳
10(出)	湖西・大御影山	12(出)〜16(出)	北アルプス・高天原温泉・雲ノ平
10(出)	鈴鹿・元越谷	13(出)	西浅井町・山門温泉
12(出)	台高・檜塚奥峰・千秋峰	16(出)	鈴鹿・阿弥陀峰
16(出)	西浅井町・三方ヶ岳	16(出)	芦生の森・三田峠
16(出)	鈴鹿・ハライド	21(出)	鈴鹿・仙香谷・赤坂谷
16(出)	鈴鹿・富妻深谷	24(出)	六甲・黒岩尾根・摩耶山・長峰山
16(出)〜17(出)	鈴鹿・ハライド	28(出)	京都北山・品谷山・廣村八丁
16(出)〜19(出)	中々北郎・木曾駒ヶ谷・宝剣岳・越前山	30(出)	鈴鹿・松尾川・クワ谷・鎌ヶ岳
17(出)	美濃・高賀山		
18(出)	台高・白鷲岳		
24(出)	鈴鹿・須谷川		
27(出)	京都西山・松尾山・嵐山・西芳寺		
27(出)	伯耆・大山三結峰		
30(出)	湖北・伊吹山		

行先	定員	リーダー
北アルプス・乗鞍連峰	20	田中明
比良・八洲の滝めぐり	14	山田
木曾・御嶽山		

行先	定員	リーダー
北アルプス・朝日岳・蓮華温泉	20	田中明
鈴鹿・神崎川渓谷	*	筒井
湖北・伊吹夜間登山		村田
鈴鹿・神崎川源流・貯水口	*	岩野
金剛・金剛山妙見谷		木村
南アルプス・聖岳	20	鷺見
北アルプス・高天原温泉・雲ノ平	17	村田
西浅井町・山門温泉	*	高島
鈴鹿・阿弥陀峰	20	山田
芦生の森・三田峠	20	田中明
鈴鹿・仙香谷・赤坂谷	*	岩野
六甲・黒岩尾根・摩耶山・長峰山		仲谷
南紀・百間山溪谷	20	木村
京都北山・品谷山・廣村八丁	40	村田
鈴鹿・松尾川・クワ谷・鎌ヶ岳	*10	田中賢

自然観察山行182

奥美濃・見当山(一般向き)
期日 7月2日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅9時15分
コース 岐阜駅(バス)郡上高原
ゴルフ場駐車場→林道取
付点→見当山(往復) 駐
車場(バス)岐阜駅
費用 約5000円(岐阜駅か
らバス代等)

週末ハイイク68
大峰
玉置山から七越峰と牛廻山
期日 7月2日(土)〜3日(日)
(中級向き)
1泊2日
集合 近鉄大和八木駅前8時30分
コース (2日)大和八木駅(バス)龍神温泉(バス)ア
リノ越→牛廻山→アリノ

台高・馬ノ鞍峰(中級向き)
期日 7月3日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上市駅8時30分
コース 上市駅(タクシー)三之

鈴鹿百山72
拍原道から雲仙山(健脚向き)
期日 7月9日(日) 日帰り
集合 JR拍原駅8時33分
コース 拍原駅(車)林道終点→
拍原道→終点→谷山道
合流→遊覧小車→終点山
→雲仙山(往復) 拍原駅
(解散)

鈴鹿を歩く219
元越谷(沢歩き・健脚向き)
期日 7月10日(日) 日帰り
集合 国道477号線元越谷林
道入口手前広場8時30分
コース 広場→元越谷林道→元越
谷→仏谷→左保→大谷→

湖西・大御影山(一般向き)
期日 7月10日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口閉体バ
スのりば7時20分
コース 京都駅(バス)ピラテス
ト今津→滝谷山分岐→林
道→合流→大御影山(往復)
ピラテスト今津(バス)
京都駅(解散7時30分頃)
からバス代)

水沢峠→元越谷林道→広
場(解散)
装備 溪流シューズか地下タビ、
ワラジ必携
費用 交通費各自(沢歩き山
行のため保険対象外・救
援対象費50円)
係 伊吹
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
申込み ◎岩野 明 ○山田景三
◎後藤康幸
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例になった夏の沢歩きで
す。白い花崗岩の秘境の渓谷を歩
く。雨天中止

台高・木履谷川ワサビ谷から
槍塚奥峰・千秋峰(健脚向き)
期日 7月12日(日) 日帰り
集合 近鉄奈良駅8時10分/木
履谷川青田発電所前9時
20分
コース 各集合地(車)木履谷川
樽塚谷対岸駐車場→万歳
橋→ワサビ谷出合→ロウ
サビ谷→槍塚奥峰→千秋
峰→千秋峰北麓→駐車

越(バス) 十津川村民宿

(3日) 十津川村(バス)
玉置神社→玉置山→玉置
神社→玉置止→大森山→
五大尊岳→大黒天神岳→
七越峰(バス) 熊野本宮
(バス) 温泉地温泉(入
浴・バス) 大和八木駅
(解散)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

公谷林道終点→明神滝→
カクシ平馬ノ鞍峰(往
路) 林道終点(タクシー)
上市駅(解散18時00分頃)
費用 約5000円(上市駅か
らタクシー代)
地図 昭文社「大台ヶ原」
2万5千→大和柏木
◎村田智俊 ○安倉正勝
◎呉比佐美

フファミリーハイイク62
奥高野・護摩壇山(初級向き)
期日 7月7日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅→階止面口
構内7時00分
コース 新大阪駅(バス)護摩壇
山駐車場→護摩壇山→耳
取山→森林公園入口→総
合案内所→スカイライン
展望所→駐車場(バス)
新大阪駅(解散)
費用 約3500円(新大阪駅

花遊り山行18
至仏山と尾瀬(中級向き)
期日 7月8日(日)〜11日(明)
3泊4日
集合 JR京都駅八条口閉体バ
スのりば8時20分
コース (8日)京都駅(バス)
戸倉(泊)
(9日)宿(バス)鳩待
峠→小室山→至仏山→
山ノ鼻→牛首→湯宮(泊)
(10日)宿→ヨッピ橋→
三条の滝→貝崎→沼尻平
→尾瀬沼(泊)
(11日)宿→三平峠→大
清水(バス)京都駅(解
散21時頃)
費用 約52000円(京都か
らバス・宿泊代等)
地図 昭文社「尾瀬」

費用 交通費各自
地図 2万5千→七日市・大豆
生
係 ◎田中賢治
申込み 〒518-0626
名張市植根が丘6の2の
18 田中賢治まで
*定員10名
*マイカー山行(5名ま
で乗合可能。希望者は
その旨明記ください)
通行止めが静かになった木履谷
川から槍塚への最短コース、ワサ
ビ谷を通ります。特に沢歩きの装
備は必要ありません。長い林道歩
きから谷、地図読みの必要な尾根
へと、じつにタフなコースです。
一部やぶ漕ぎあり。小雨決行

費用 交通費各自
地図 2万5千→木之本
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121

からバス代)

2万5千→護摩壇山
◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員20名(会員に限る)
原生林に抱かれた近畿の尾根、
奥高野の最高峰を歩く。雨天中止

費用 約20000円(バス・
宿泊代等)
地図 昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

からバス代)

2万5千→護摩壇山
◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員20名(会員に限る)
原生林に抱かれた近畿の尾根、
奥高野の最高峰を歩く。雨天中止

費用 約20000円(バス・
宿泊代等)
地図 昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

昭文社「大峰山脈」
2万5千→龍神・重里
◎狩野東彦 ○瓜取利明
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員に限る)

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

雨天決行

三重の山79

鈴鹿・ハライト(やや健脚向き)

期日 7月16日(出) 日帰り

集合 朝明キャンプ山荘駐車場9時30分

コース 朝明キャンプ場→腰越峠→ハライト→風越峠(東海自然歩道)→水無朝明キャンプ場(解散16時頃)

費用 150円

地図 昭文社(難在所・雲仙・伊吹)

係 尾崎英五 ○福垣逸夫 申込み 519-0311

鈴鹿市大久保町2065 福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

福垣逸夫まで

溪谷下流部探索(沢歩き
初歩)(出)

(17日) 宮妻峽・水沢峠

一元峽谷・左殿・水沢岳

・鎌尾根・宮妻峽(テント撤収・解散)

費用 参加費2000円(*沢歩きを含むため保険料外)

地図 2万5千伊和

係 ◎筒井克治

申込み 610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカーかタクシーで各自集合ください

(17日)のコースは尾根・沢と

いろいろ考えられます。当日相談

して決めます。キャンプテント泊

に必要な装備は各自持参。沢通行

に適した服装と足元で、お助け細

引きを持参ください。雨天中止

自然観察山行183

中央アルプス北部縦走

木曾駒ヶ岳・宝剣岳・空木岳・

南駒ヶ岳・越百山

(やや健脚向き)

期日 7月16日(出)19日(帰)

3泊4日

集合 (16日) JR岐阜駅9時

フラジ必須

費用 交通費各自(*沢歩き山

行のため保険料外・救

援対策費50円)

地図 昭文社(難在所・雲仙・

伊吹)

係 ◎菅野 明 ○山田景三

○後藤康幸

申込み 610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

毎年恒例の須谷川の沢歩きです

(37号48ページ参照)。雨天中止

北山ちよつと歩き69

松尾山・嵐山城跡から西芳寺

期日 7月27日(出) 日帰り

集合 阪急嵐山線松尾駅9時00

分

コース 松尾駅→松尾山→嵐山城

跡→松尾谷分岐→松尾谷

林道→西芳寺(苔寺)→

鈴虫寺→松尾大社→松尾

約(解散16時頃)

費用 昭文社(北摂・京都西

山)

係 ◎奥山三三

15分

コース (16日) 岐阜駅(バス)

駒ヶ根市菅ノ台バスター

ミナル(路線バス)しら

び平(ロープウェイ)千

景敷→乗越浄土→濃ヶ池

→聖職の碑→馬ノ背→木

曾駒ヶ岳→頂上木曾小屋

(出)

(17日) 頂上木曾小屋→

木曾駒ヶ岳→宝剣岳→鈴

尾岳→熊沢岳→東川岳→

木曾殿山荘(泊)

(18日) 木曾殿山荘→空

木岳→南駒ヶ岳→仙遊嶺

→越百山→越百小屋(泊)

(19日) 越百小屋→七合

目→裾野橋登山口→林道

駐車場(バス)道の駅大

桑(バス)岐阜駅(解散)

費用 約4500円(岐阜駅

からバス・宿泊・資料代

等)

地図 昭文社(木曾駒ヶ岳・

空木岳)

係 ◎鷺見守康

申込み 504-0828

各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷺見守康まで

*定員20名

申込み 610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

嵐山の西の松尾山尾根を歩き、

松尾谷林道を西芳寺へくだります。

希望の方は鈴虫寺で参拝できます。

雨天中止

ファミリィハイク63

伯耆・大山三鉢峰(中級向き)

期日 7月27日(出) 日帰り

集合 JR新大阪駅1階止出口

構内7時00分

コース 新大阪駅(バス)大山寺

駐車場→下宝珠越→上宝

珠越→ユートピア→三鉢

峰→上宝珠越→砂すべり

→元谷→駐車場(バス)

新大阪駅(解散)

費用 約4000円(新大阪駅

からバス代)

地図 2万5千伯耆大山

係 ◎木村太郎

申込み 565-0854

吹田市桃山台1-2のB

*6月25日まで

コマウスユニクソウを訪ね、中央

アルプス北部の山々を余裕の日程

でゆったり縦走します。雨天決行

(コース変更あり)

展望の山6

美濃・高賀山(健脚向き)

期日 7月17日(出) 日帰り

集合 JR西岐阜駅8時10分

コース 西岐阜駅(車)高畑温泉

→キャンプ場→宮瀬谷→

尾根→高賀山(往路)高

畑温泉(車)西岐阜駅

(解散)

費用 交通費各自(車代150

0円)

地図 2万5千下瀬戸・上ヶ

瀬

係 ◎山田明男

申込み 503-0535

海津市南瀬戸松山62の19

山田明男まで

*定員14名

1等三角点の山へ、あまり歩か

れていない北朝から登り、帰りに

温泉に入りたいと思います。

雨天中止

花遊り山行18

湖北・伊吹山(一般向き)

期日 7月30日(出) 日帰り

集合 JR関ヶ原駅バスのりば

9時10分(9時15分乗車)

コース 関ヶ原駅(バス)伊吹山

八合目→西遊歩道→伊吹

山→東遊歩道→中央遊歩

道→伊吹山→五合目→三

合目→野登山口(バス)

近江長岡駅(解散)

費用 約6500円(参加費)

地図 昭文社(難在所・雲仙・

伊吹)

係 ◎田中 明

申込み HPPからメールのみ受付

http://hana04.jp.

info@sek.co.jp

*定員15名

あたり一面ピンクに染まるお花

畑のシモンケソウには、どなた

も感動されること請け合いです。

雨天中止

自然観察山行184

北アルプス・乗鞍連峰

期日 7月30日(出)31日(帰)

1泊2日

コース 15分
③0日 岐阜駅(バス)
位ヶ原山荘前1位ヶ原
肩ノ小屋・貴平(泊)

費用 約31000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 昭文社「乗鞍高原」
係 昭文社
申込み 各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
* 定員20名
* 6月25日まで

比良を歩く42
八瀬の滝めぐり(中級向き)
期日 7月31日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時30分
(8時35分発車)
コース 近江高島駅(バス)ガリ
雨天決行(コース変更あり)

費用 参加費2000円(※沢歩
きのため保険対象外)
地図 2万5千円御在所山
係 昭文社
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

渓谷の沢歩きコースで釜淵・水
泳渡渉と厳しい。沢通行に適した
服装と足元で、お助け綱引きを持
参ください。雨天中止

湖北・伊吹山夜間登山
(一般向き)
期日 8月6日(夜)7日(日)
前後発日帰り
集合 (6日) JR近江長岡駅
22時10分
近江長岡駅(タクシー)
ゴンドラのりば(ゴンド
ラ)三合目・五合目・八
合目・伊吹山・山頂お花
畑散策(三合目)(解放10
時頃)

費用 約5000円(大飯をこ
え)
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 昭文社 ○安倉正勝
○奥比呂英

パー旅行村・鴨川林道出
合1魚止の滝・大樽林
貴船の滝・オガサカ道分
岐・旧スキー場・ゲレンデ
上・北比良峠・シンジ谷
道・旧リフト山麓駅・J
R比良駅・シンジ谷道は
ダケ道に変更する場合あ
り

費用 約22000円(京都か
らバス)
地図 昭文社「比良山系」
係 昭文社
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

展望の山7
木曾・御嶽山(健脚向き)
期日 7月31日(日) 日帰り
集合 JR木曾福島駅8時55分
コース 木曾福島駅(車)ロープ
ウェイ前(御岳ロープウェ
イ)飯森駅(八合目)三
の池(一の池)刻々峰

伊吹山夜間登山は納涼には最高
山頂で日の出を迎え、花畑をめぐ
ります。三合目の薬草風呂は疲れ
がとれ、スッキリします(灯具必
携)。雨天中止

鈴鹿を歩く221
神崎川源頭から貯水口まで
(沢下り・健脚向き)
期日 8月7日(日) 日帰り
集合 国道421号線打越尾神
崎橋広場7時30分
コース 広場(車)取水口上広場
置き車(車)武平峠・次
谷・沢谷源頭・大瀬・天
狗滝(取水口)林道(車)
武平峠(解放)

費用 交通費各自(※沢歩き山
行のため保険対象外・救
護対策費50円)
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 昭文社 ○山田登三
○後藤康幸

丸合目八合目飯盛駅
(ロープウェイ)ロープ
ウェイ前(車)木曾福島
駅(解放)
費用 交通費各自(車代500
円)
地図 奥村さんの絵地図を用意
します
申込み ◎山田明男
〒503-0535
海津市南瀬町松山24の19
山田明男まで
* 定員14名

花巡り山行20
北アルプス・朝日岳(中級向き)
期日 8月2日(夜)5日(日)
前後発2泊3日
集合 (3日) JR泊駅5時10
分(関西からは、各自急
行「きたくに」(乗車))
コース (3日) 泊駅(タクシー)
北又小屋・イブリー山朝
日小屋(泊)
(4日) 小屋・朝日岳
五輪尾根・花園三角点・
兵馬の平・蓮華温泉(泊)
(5日) 蓮華温泉(バス)

高山植物の数々はイブリー山への
登りの疲れも忘れるほどで、朝日
岳から五輪尾根のフラワートレック
で夏のアルプスを満喫しましょ
う。蓮華温泉は大風呂は水着必修
雨天決行

鈴鹿登山11(沢歩き山行)
神崎川深谷に遊ぶ(健脚向き)
期日 8月6日(日) 日帰り
集合 国道421号線打越尾神
崎橋広場8時00分
コース 広場(車)神崎川林道・
ウツラ谷出合・天狗滝
・ヒロサワ(往復)広場
(解放)
装備 浮き輪・フロースト着
用 沢歩き装備で

神崎川源頭から取水口まで通し
てくだります(65号の76・77ペー
ジ参照)。天狗滝兵共は飛び込ん
だ一期一会か夏の思い出。
雨天中止

フアミリーハイイク64
金剛・金剛山妙見谷(中級向き)
期日 8月11日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅9時10分
コース 富田林駅(バス)金剛登
山口・妙見滝(金剛山園
見城跡・高城神社)郵便
道取付・高天流(かもき
みの湯(バス)近鉄御所
駅(解放))

費用 約2000円(阿部野橋
駅から交通費)
地図 ◎木村太郎
2万5千円五條・御所
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
イワタバコ野生の妙見滝・ブナ
自生の頂直下へ谷をつめる。希望
者は温泉に立ち寄り。雨天中止

赤魚川(解放・電車)
京都駅(21時頃)
費用 約45000円(京都か
らのJR・タクシー・宿
泊代等)
地図 昭文社「白馬岳」
係 ◎田中 明
申込み HPからメールのみ受付
http://hana04.hp.
infoseek.co.jp
* 定員20名
* 7月15日まで

自然観察山行185
南アルプス・聖岳
(やや健脚向き)
期日 8月12日(夜)15日(日)
前後発2泊3日
集合 (12日) JR岐阜駅23時
00分
コース (12日) 岐阜駅(バス)
飯田市
(13日) 飯田市(タクシー)
便ヶ島 西沢渡・聖岳小
屋(泊)
(14日) 聖岳小屋・聖岳
・聖岳小屋(泊)
(15日) 聖岳小屋・西沢
渡・便ヶ島(タクシー)
飯田市(バス)岐阜駅
(解放)

費用 約39000円(岐阜駅
からバス・宿泊・タクシー・
資料代等)
地図 昭文社「塩見・赤石・
聖岳」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
* 定員20名
* 7月14日まで

南アルプス南部の雄峰聖岳を余

自然観察山行185
南アルプス・聖岳
(やや健脚向き)
期日 8月12日(夜)15日(日)
前後発2泊3日
集合 (12日) JR岐阜駅23時
00分
コース (12日) 岐阜駅(バス)
飯田市
(13日) 飯田市(タクシー)
便ヶ島 西沢渡・聖岳小
屋(泊)
(14日) 聖岳小屋・聖岳
・聖岳小屋(泊)
(15日) 聖岳小屋・西沢
渡・便ヶ島(タクシー)
飯田市(バス)岐阜駅
(解放)

費用 約39000円(岐阜駅
からバス・宿泊・タクシー・
資料代等)
地図 昭文社「塩見・赤石・
聖岳」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
* 定員20名
* 7月14日まで

南アルプス南部の雄峰聖岳を余

格の日程でゆったり登ります。
雨天代行(コース変更あり)

北アルプス
高天原温泉と雲ノ平
(やや健脚向き)

期日 8月12日(例夜)16日(例)

集合 JR京都駅八条口団体バス
のりば22時30分

コース (12日)京都駅(車)折立

(13日)折立-太郎平小屋(泊)

(14日)太郎平小屋-栗

師沢小屋-大更新道-高

天原峠-高天原山荘(泊)

(15日)高天原山荘-高

天原峠-雲ノ平-栗師沢

小屋(泊)

(16日)栗師沢小屋-太

郎平-折立(車)-京都駅

(解散20時頃)

費用 約35000円(車・宿

泊代等)

地図 昭文社「剣・立山」

係 ◎村田智俊 ○安倉正勝

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで
*定員17名(会員に限る)

*マイカー参加は定員外
で参加できます。申込み
ハガキにその旨を明記く
ださい。

北アルプスのど真ん中。高原の
お花畑をめぐるります。周囲には北
アの各峰がずらりと並ぶ。

雨天代行

西浅井町・山門温泉(初級向き)

期日 8月13日(日)日帰り

集合 JR永原駅9時30分

コース 山門温泉(健脚コース)
を周遊

費用 交通費各自

地図 2万5千円木之本・駄口

係 ◎高島伸浩

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

雨天代行

鈴鹿百山73

阿弥陀峰(健脚向き)

期日 8月16日(例)日帰り

集合 JR醍醐ヶ井駅8時20分

コース 醍醐ヶ井駅-上丹生-阿弥

陀峰道-阿弥陀堂跡-阿
弥陀峰(往還)醍醐ヶ井駅
(解散)

費用 交通費各自
2万5千円雲仙山

地図 ◎山田明男 ○高原秀彦

申込み 〒503-0535

海津市南濃町松山624の19

山田明男まで

*定員20名程度

お盆の暑い時期ですが阿弥陀峰
へ登ります。あの花は咲いている
か? 雨天中止

花巡り山行21

芦生の森・三國峠(一般向き)

期日 8月20日(例)日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時50分

コース 京都駅(バス)生杉ヶ

谷小峠-三國峠-長治

谷小峠-サツ谷分岐-地

蔵峠-古道-舗道道出合

(バス)京都駅(解散)

費用 約35000円(京都駅か

らバス代等)

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎田中 明

申込み HPからメールのみ受付

http://hana.04.hp.

infoseek.co.jp
*定員20名

真夏の森、ナツエビネに出会
うと、猛暑を忘れるほどの美しさに
癒されるでしょう。雨天中止

鈴鹿を歩く222

仙香谷・赤坂谷
(沢歩き・健脚向き)

期日 8月21日(例)日帰り

集合 国道421号線打越尾神

崎橋広場8時30分

コース 広場(車)神崎川林道-

仙香谷-赤坂谷-仙道-

神崎川林道(解散)

装備 深溝シューズか地下タビ・

フラジオ必携

費用 交通費各自(*沢歩き山

行のため保険対象外・救

援対策費50円)

地図 昭文社「御在所・雲梯・

伊吹」

係 ◎岩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

仙香谷から赤坂谷へと秘境の溪

谷を歩きます。(37号54ページ参照)

雨天中止

火曜ハイイク8

六甲

黒岩尾根・摩耶山から長峰山

(一般向き)

期日 8月23日(例)日帰り

集合 新幹線新神戸駅「布引の

流」入口

コース 新幹線新神戸駅-桜葉屋

-黒岩尾根-摩耶山-長

峰山-阪急六甲駅(解散

16時30分頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社「六甲・摩耶・

有馬」

係 ◎仲谷礼司 ○田中善雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

六甲の中でも意外と静かな道を

歩きます。雨天中止

フファミリーハイイク65

南紀・百間山溪谷(一般向き)

期日 8月24日(例)日帰り

集合 JR新大阪駅1階正面口

構内7時00分

大浴ノ滝-百間山-千体
仏一駐車場(バス)新大
阪駅(解散)
費用 約40000円(新大阪駅
からバス代・入山料)
地図 2万5千円合川・木守
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1-2のB
12の209 木村太郎まで
備野大塔山系の水清冽な神木の
渓谷をめぐる。雨天中止

京都北山歩き115
佐々里峠から品谷山・栗村八丁
(一般向き)
期日 8月28日(例)日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば8時00分
コース 京都駅(バス)佐々里峠
-品谷山-品谷峠-栗村
八丁-ソトバ峠-1P84
7ヶ所-衣笠峠-オリ谷-
菅原町(バス)京都駅
(解散17時30分)
費用 約30000円(京都駅か
らバス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊 ○安倉正勝

○栗比裕美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名
佐々里峠から広葉樹林の尾根を
伝って品谷山へ登り、栗村八丁・
ソトバ峠を巡って帰ります。
雨天中止

鈴鹿
松尾川口谷から鎌ヶ岳
(健脚向き)
期日 8月30日(例)日帰り
集合 近鉄橋本が丘駅前9時00
分/鈴鹿スカイライン種
ヶ谷橋駐車場10時20分
各集合地(車)種ヶ谷駐
車場-ニゴリ谷出合-ロ
クロ谷-口クロ谷乗越-
鎌ヶ岳-尾根-尾根-鎌ヶ岳-
尾根-ニゴリ谷-ニゴリ
谷出合-種ヶ谷駐車場
(車)橋本が丘駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千円御在所山
係 ◎田中賢治
申込み 〒518-0626
名張市橋本が丘6の2の
18 田中賢治まで

松田敏男 山の版画展
2005年7月5日(例)~17日(例) [11日(例)休廊]
正午~午後8時
南・北アルプスの山々と山の花のシル
クスクリーン版画作品を20点余展示。
平安画廊
(京都市中京区寺町通三条上る)
電話 075-231-0694

山行報告
(3・4月号)
新ハイキングクラブ関西

奈良・矢田丘陵
(ファミリーハイク54)

3月3日(木) くもり時々晴れ
(集合) 近鉄東生駒駅9・30 矢田丘陵登り口9・50 55 1どんぐり広場10・15 20 奥谷梅林11・05 15 榎木峠11・50 55 矢田山まほろば展望所12・25 (昼食) 13・20 園芸茶屋展望所13・55 14・00 松尾山三角点14・15 松尾寺14・30 40 白石畑15・05 10 近鉄平置駅15・45 (解散)
自然林豊かな日だまり道に仲間の顔は明るかった。奥谷の梅林はまだ五分咲きだった。東生駒から榎木峠への北越、松尾山の南越へと足をのびし、矢田丘陵のほぼ全域縦走路を元気歩き通した。
(参加者) 松井明忠 市野博文 川上久登 竹田勝英 井上由紀晴 堀内信智 水原信子 成川みさお 植木敏子 上田久子 山中あさみ 本間明恵 村上嘉子 中澤ちず子

吉橋孝次 塚本中次 千夢千枝子
吉野孝子 盛 敏子 田中三恵子
中尾博子 和田直樹 妹尾一正
岩城豊子 森田久子 西原辰夫
長沢佑美 渡部和美 西 悦子
柳 礼子 須藤浩子 岩本彩子
田中夢子 大谷敦子 ○秋葉正人
◎木村太郎 (計36名)

伊良湖
三河大山と瀧頭山から藤屋山
(自然観察山行169)
3月5日(土) 6日(日) 1泊2日
(5日) 晴れのちくもり (集合) JR名古屋駅9・30 50 (車) 蔵王山13・15 (昼食) 13・45 (車) 白山比咩神社14・25 35 大山15・20 30 白山比咩神社16・00 (車) 榎光 伊良湖浄土17・10 (泊) (6日) くもり 宿8・10 (車) 滝頭公園9・00 9 滝頭不動9・20 滝頭山10・00 10 中西山10・20 1 三ツ保10・40 藤屋山10・50 55 1 三ツ保11・05 1 不動所11・15 滝頭公園11・40 (昼食) 12・45 (車) 蒲郡市内13・40 (入浴) 14・30 (車) 名古屋駅16・45 (解散)
参加人数が10人のため、レンタカーを使用して名古屋駅から出発

沿海部の常緑樹林の山、そして三河湾と太平洋の大展望を満喫した。
(参加者) 金森節子 荻野美穂恵 田中善雄 平田輝美 牧 和夫 宮西和子 若松朝子 森 美香子 ○仲谷社司 ◎鷺見守康 (計10名)

比較・北白川から比叡山
(地図読み山行66)
3月6日(日) 晴れ
(集合) 飯田出町駅9・00 10 北白川大山祇神社10・00 10 瓜生山10・35 55 石鳥居12・25 (昼食) 13・10 1 ロープウェイひくい駅14・10 30 水鏡対陣15・00 1 車道出合15・50 16・00 飯田修学院駅16・25 (解散)
京都一周トレイルのうち、昨年10月に歩き残したコース。早春の暖かい日差しを楽しみながら、地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強しながら歩き、ロープウェイひくい駅から雲母坂を下山した。
(参加者) 中山光郎 豊村舞子 前田栄三 山岸勝雄 笹井百合子 上林真美 朝倉松雄 ◎塚元一彦 (計8名)

残雪の雨之日
(鈴鹿を歩く211)
3月6日(日) 晴れ
(集合) 大河原(かもろ)庄8・25 (車) 清水平谷林道広場8・50 1 P 8 3 5 9・50 1 草原10・30 1 清水ノ頭10・55 1 奥ノ畑11・00 (昼食) 12・00 1 雨乞橋13・00 1 雨乞橋13・30 1 シャクナゲ尾根13・40 1 林道15・10 1 広場15・30 (解散)
清水ノ頭の雪原に着くと一気に展望が開け、近年にない雪の量で雪庇が山頂まで続いた。清水ノ頭の尾根は強風で寒く、山頂はガス。奥の畑の雪庇の下で昼食。昼からは晴天になり、最高の雪山となった。
(参加者) 池田繁美 北村つねみ 堀江房樹 栗本敏夫 宮日信夫 奥野民恵 奥野富美 水戸鉄治 酒田公明 北村茂美 熊田千夜子 吉村 昭 金谷 昭 佐古田文子 水谷俊之 栗岡亮子 奥野太一郎 池田隆一 一芝義雄 一芝美知子 武村千鶴 高原芳彦 櫻田勝利 今井武司 田中隆男 矢野龍久 岩本彩子 市田政子 杉山能久 鈴木 浩 鈴木友子 大西新徳 谷 守 炭田明英 岡野 明

佐治光江 堀 寿江 寺田博子
○後藤康幸 ○山田景三
◎宮野 明 (計41名)

三河・雨山(奥谷山)と本宮山
(展望の山2)
3月6日(日) くもり
(集合) JR幸田駅7・50 55 (車) 雨山8・30 (車) 本宮山ウォーキングセンター9・40 21 日10・20 奥谷山1・30 本宮山三角点11・50 (昼食) 12・30 1 岩戸神社12・40 1 林道出合13・45 1 ウォーキングセンター14・45 15・05 (車) 地下鉄上社駅16・10 (解散)
1等三角点の山を二つ回ったが、風もあまりなく歩きやすかった。富士山は曇り空で見られず残念。本宮山の下山コースはほとんどの方が初めてで、急だがおもしろいコースと言われた。
(参加者) 馬場桂子 兩 智恵子 佐藤文枝 吉田峰子 伊藤重美子 長坂佐知子 福原三千代
山田妙子 ◎山田明男 (計9名)

杉坂から半国高山
(京都北山歩き114)
3月6日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅8・00 10

(バス) 杉坂口9・20 30 供御飯10・30 40 半国高山12・00 (昼食) 12・40 1 岩谷峠12・50 1 真13・20 30 持越峠13・50 1 白梅橋出合14・15 34 (解散) パス 北大路駅前15・15 (バス) 出町駅15・30
供御飯峠への取付道を間違っって一つ西の稜線へ登ってから峠へ降りた。あとは急坂を半国高山へ登ったが、植林が大きくなり展望は悪くなっている。積雪10cm、強風く寒い日だったので早々に下山した。(初級向き)としたが、雪とササやぶもあってしんどいコースだった。
(参加者) 栗橋崇吉 栗橋裕子 市野博文 佐野信江 濱本美和恵 尾崎光子 小林 桂 大西幸孝 岩城敏子 後藤敏子 斉藤よし子 山根良枝 本間 隆 本間繁子 吉橋孝次 岡崎知子 橋原良彦 前田初雄 岩城豊子 和田純子 本家敏子 志水明美 武部美美子 小谷和子 中嶋美代子 小谷相子 石原順次 河崎日出男 渡部和美 白尾孝子 小島フジ子 安良野子 入江武史 戸田サエミ 小池一郎 嶋田幸子 福岡 章 ◎眞比裕美 ○安倉正勝

◎村田智俊 (計41名)

奥比叡縦走
途中越から大尾山
3月12日(土) くもり時々小雪
(集合) 京阪出町駅7・30 45 (バス) 三谷口8・37 宮めずら(魚の子山) 9・30 1 小出右越10・20 1 伊香立越10・47 1 榎原山12・27 (昼食) 12・00 1 大尾山12・50 1 音無滝14・00 (解散)
戻り寒波の小雪の舞うなかの縦走となり、期待していた琵琶湖の展望は無かった。大尾山から下山の谷道にマンサクの花が咲き、春の訪れを演出していた。
(参加者) 木村 豊 加納由紀子 荒木光雄 宮下淳一 尾崎光子 宮野哲郎 宮野敏子 松上美代子 岡本佳子 竹内止子 北村つねみ 豊村舞子 中島 隆 西村明美 木本敏子 多田陽子 瀬戸内伸子 本間 隆 宮尾信子 高木中実 傍田治美 傍田昌子 水見真砂子 西 正義 吉本博暢 吉本巳代子 林 悦子 岩城豊子 小谷相子 中川光郎 山谷豊美 角田一江 安良野子 小山誠次 中嶋日出男 後藤康幸 小栗大直 木下朝子 岩本彩子 石原裕子 川田洋子

奥比叡縦走
途中越から大尾山
3月12日(土) くもり時々小雪
(集合) 京阪出町駅7・30 45 (バス) 三谷口8・37 宮めずら(魚の子山) 9・30 1 小出右越10・20 1 伊香立越10・47 1 榎原山12・27 (昼食) 12・00 1 大尾山12・50 1 音無滝14・00 (解散)
戻り寒波の小雪の舞うなかの縦走となり、期待していた琵琶湖の展望は無かった。大尾山から下山の谷道にマンサクの花が咲き、春の訪れを演出していた。
(参加者) 木村 豊 加納由紀子 荒木光雄 宮下淳一 尾崎光子 宮野哲郎 宮野敏子 松上美代子 岡本佳子 竹内止子 北村つねみ 豊村舞子 中島 隆 西村明美 木本敏子 多田陽子 瀬戸内伸子 本間 隆 宮尾信子 高木中実 傍田治美 傍田昌子 水見真砂子 西 正義 吉本博暢 吉本巳代子 林 悦子 岩城豊子 小谷相子 中川光郎 山谷豊美 角田一江 安良野子 小山誠次 中嶋日出男 後藤康幸 小栗大直 木下朝子 岩本彩子 石原裕子 川田洋子

愛宕山シリーズ4
裏栗岩・峰山と朝日峰
(次塚ハイク4)
3月15日(日) ◎仲谷社司
*雨天のため中止しました
兵衛丹波・三尾山
(ファミリーハイク55)

3月16日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅8・00 (バス) 中山公民館9・40 50 東壁小原10・15 1 洞窟分岐10・25 30 1 東峰11・00 1 三尾山11・55 25 (昼食) 12・25 1 裏き岩12・55 1 13・00 1 鐘峠13・40 45 1 林道出合14・00 1 林道水場14・15 20 1 中山公民館14・40 (バス) 四領温泉14・50 (入浴) 16・00 (バス) 新大阪駅17・45 (解散)
そそり立つ東壁や洞窟石仏のある岩塊の間をめぐって谷道を登る。雄本の尾根に取り付き東峰に寄るが、やぶの西峰はカットした。

精方博子 東中次夫 佐古田文子
細野敏也 田中元可 武原美美子
小川明美 蓮井洋子 光川一英子
吉野孝子 竹田善英 ○吉橋孝次
○谷 守 ○磯部 純
◎谷合 昭 (計56名)

3月16日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅8・00 (バス) 中山公民館9・40 50 東壁小原10・15 1 洞窟分岐10・25 30 1 東峰11・00 1 三尾山11・55 25 (昼食) 12・25 1 裏き岩12・55 1 13・00 1 鐘峠13・40 45 1 林道出合14・00 1 林道水場14・15 20 1 中山公民館14・40 (バス) 四領温泉14・50 (入浴) 16・00 (バス) 新大阪駅17・45 (解散)
そそり立つ東壁や洞窟石仏のある岩塊の間をめぐって谷道を登る。雄本の尾根に取り付き東峰に寄るが、やぶの西峰はカットした。

主峰を越え鏡峠へ向かう。右尾根にはツツシ類が芽吹き始めていた。覗き岩に立つと美しい峰頭の三尾山群が見送られていた。

(参加者) 青木一雄 田中三恵子 岩村孝子 宮野敏子 眞田久子 兼田幸子 小田調子 山科邦彦 西條良彦 妹尾二正 宮村孝次郎 若林文夫 東中次夫 小川美奈子 中野静香 岩城登子 中尾美智子 渡部和美 古川真子 本田久美子 木間昭恵 岩本彩子 中澤ちず子 村上嘉子 澤田喜治 (秋葉止入) 木村太郎 (計27名)

海南アルプス・太神山
3月17日(日) ◎寺井恒夫
*雨天のため中止しました。

吉野・白倉山から仏ヶ峰
3月17日(日) ◎西上利和
*雨天のため中止しました。

九州・鹿児島山
3月18日(日) ◎高隈山
浦与志岳と高隈山
前後発3泊4日
(18日) (集合) 大阪南港かもめ
フェリーターミナル19:00~30
(フェリー泊)

(参加者) 栗橋君子 萩野美智重
富田清子 堀江房枝 堀江八重子
森 美香子 ○栗橋忠吉
◎鷺見守康 (計8名)

男鬼山・武奈山 (向山)
(鈴鹿白山68)

3月19日(日) 晴れ
(集合) JR米原駅8:00~15
(車) 男鬼峠8:40~50 武奈山
9:55 男鬼山10:25 鉄塔10:
50 (昼食) 11:25 男鬼峠11:50
(花見亭・車) 米原駅13:00 (解
散)

午後中に武奈山と男鬼山を歩き、
雲仙山を東に見て昼食にした。午
後は時間も早いので花見に行き、
スハマソウは見られたが、フクシ
ソウは雪の下で蕾が見られた。解
散後、一部の方は彦根の一等三角
点測量山へ行かれた。

(参加者) 浅井賢則 伊藤恵美子
春見重美 栗本敏夫 石倉真佐子
鈴木 浩 鈴木友子 福壽三千代
鈴木 正美 東中次夫 今井みよ子
前田悦子 北村つねみ
佐古田文子 中谷美美子
南 智恵子 ○高隈芳彦
◎山田明男 (計18名)

(19日) 晴れ ◎崎港8:10~20
(バス) 二股川キャンプ場12:10
(バス) 浦与志林道・浦与志一
号橋12:30~35 林道終点登山口13:
15 浦与志14:15~40 林道終
点15:35 清純の滝15:40~16:
00 浦与志一号橋16:20~30 (バ
ス) 垂水市藤野町18:00 (日
20日) くもり一時小雨 垂水?
00 (バス) 鳴之尾林道御岳登山口
8:00~10 テレビ塔8:40 御
岳9:30~40 歩道分岐10:10
妻岳10:30 歩道分岐10:45~55
1 小龍山11:20 (昼食) 11:45
12:20 小龍山分岐12:05 小龍山岳
12 龍山岳13:20 杖衝13:45
1 五合目14:20 25 大野原林道
登山口15:15 一乗松集落外れ茶工
場15:45~55 (バス) 垂水市藤野
町17:10 (泊)

(21日) 晴れ 垂水? 00 (バス)
栗野岳登山口9:40~45 第一展
望台10:30~35 栗野岳10:55
11:15 杖衝下乗野岳登山口12:
20 (昼食) 13:00 (バス) 栗野岳
温泉13:10 (入浴) 八幡大地獄見
物14:45 (バス) 宮崎港16:50
19:10 (フェリー泊)

(22日) 大阪南港6:50 (解散)

鹿ヶ瀬道から岩阿沙利山
(比良を歩く38)
3月20日(日) くもり時々晴れ
(集合) JR近江高島駅9:00
(バス) 鹿ヶ瀬道9:17~40 浄
願寺前9:50 林道登山口10:05
10 鶴川越10:35~40 岩阿沙
利山11:00 (昼食) 11:50 八王
子12:05 鳥居峠分岐12:50 オ
ム岩13:00~10 岳山13:45 展
望台13:52~14:10 岳頂登山跡
14:20 白坂14:32 鹿瀬分岐14:
49 善利大炊神社15:00 (解散)
近江高島駅15:30

登り道には少なかった雪が、岩
阿沙利山からオム岩までの稜線
上にはたっぷり残っていた。たび
たび深く突っ込むなど、ツボ足
での歩行には苦労した。今シ
ズン最後の雪山歩きは十分楽しめ
た。相当遅くなるのではないかと
心配だったが、青木・松見・大東
3氏のサポートもあり、予定時間
内に下山できてよかった。

(参加者) 岩佐 修 長尾一合
木本嘉子 須藤浩子 志水明美
川島敬美 萩野暢子 中嶋日出男
蓮井洋子 武部 剛 野末あや子
渡部和美 大川直哉 高岡嘉美子
牧 和夫 佐野信江 宮路ちへ子

浦与志林道は荒れていたため、
一号橋から登山口まで歩いた。浦
与志岳は大雨半島を見渡す360
度の展望だが、春風で遠望は今ひ
どつた。ただ、明日稜走の高
隈山系は見渡せた。登山口から5
00mほど下の清純の滝に寄り道
した。段差は小さいが10段以上あ
り水量豊富に見えた。あった。
翌日、高隈山系主峰を稜走した。
スマン峠の昼食には小雨で寒さが
こたえた。小龍山岳はやぶ漕ぎだ
がしつかりルートが付いていた。
主峰の大龍山岳では雲が切れかけ
たが眺望無し。入手の登山情報の
1.5倍の時間を要した。霧島連
山最西端の栗野岳は、モミジの原
生林など広葉樹林に恵まれ、歩き
が良かった。八幡大地獄は豊か
な温泉泉で、少し熱めの湯を癒
す名湯である。

(参加者) 上田久子 若松朝子
田中善雄 竹田善美 金森節子
吉植 清 小松志信 仲谷社司
高松雅子 松尾麗子 船越みよ子
船越利明 石川 敏 山崎敬美
◎狩野東彦 (計15名)

鈴鹿・雲母峰(三重の山76)
3月19日(日) 晴れ

青木一雄 松見 昭 大東 哲
◎宮下淳一 ◎秦 康夫 (計10名)

鈴鹿・カモンカ高原から御所平
3月20日(日) くもり一時晴れ
(集合) JR京都駅7:10~15
(バス) 山女原安楽越8:50~9:
10 1カモンカ高原9:30 白竹ッ
岳10:00 舟石山10:40 11:00
1 御所平南端12:00 (昼食) 13:
00 御所谷14:00 白谷合点15:
00 石谷谷林道終点15:45 50
10 石谷東麓自然歩道分岐16:30
40 (バス) 近鉄新田辺駅18:30
(解散)

御所平は風も無く、晴れていて
最高だった。

(参加者) 沖 伸 平田輝美
多賀久子 吉條孝次 井上恭子
福井清之 松本勝子 岩田育士
松村利子 繁田広美 水真真砂子
東中次夫 宮野敏子 武部美美子
岩崎健司 川田洋子 西村文男
栗橋忠吉 栗橋君子 ○磯野重治
◎森脇貞義 ◎中西信行 (計10名)

残雪の御志岳奥の平
3月20日(日) 晴れ
(鈴鹿を歩く212)
(集合) 御池林道小又谷分岐広場

(集合) 近鉄湯の山温泉駅9:00
(車) 飯不動9:30 雲母峰11:
15 30 雲母峰第二峰11:40 (昼
食) 12:35 岳不動14:30 (解散)
終始快晴、風も穏やかに展望良し
のんびりかつ賑やかに早春の里山
を満喫した。第二峰から遠望する
雨乞岳の雪崩がとてよかった。

(参加者) 徳田暢子 岡本美子
永戸鉄治 浦野敏也 宮路ちへ子
平 龍一 幸子 石田真由美
山本雅子 長沼 仁 川村政和
中森義信 ◎福垣逸夫 (計13名)

美濃・飯盛山
(自然観察山行170)
3月19日(日) 晴れ
(集合) JR大垣駅9:00 (車)
西津波林道登山採掘場10:20~30
1 天狗の森10:50 飯盛山11:50
(昼食) 13:00 西津波林道登山
採掘場14:40 (車) 谷汲温泉満願
の湯15:25 (入浴) 16:05 (車)
大垣駅17:15 (解散)

参加者8名のためレンタカーを
利用した。スノーハイクのものり
であったが、飯盛山に残雪の足し
く日溜まりハイクだった。春の陽
光を浴びてのんびり歩き、奥美濃
の雪峰の展望を楽しんだ。

土倉岳から雪庇の尾根を突き上
げると、奥の山は広大な雪原と大
パノラマが展開。ポタンブチで昼
食後、南峰と東のポタンブチをた
どり、ドリネでヒップスキーを
楽しんだ。T字尾根からの下りでは
マンサクの花を愛でた。近年に
ない雪の量ですばらしい御池岳の
雪原を堪能した。

(参加者) 栗本敏夫 北村つねみ
藤田勝利 宮野首郎 奥野太一郎
大石得美 白木良弘 白木やす子
谷 守 原 光一 原 幸子
市田政子 大西賢一 石田真由美
小林 敏 茂田明美 岩本彩子
北村 稔 加藤國計 栗岡克子
◎山田三三 ◎後藤康幸
◎岩野 明 (計23名)

鈴鹿・仙ヶ岳(鈴鹿登山6)
3月20日(日) くもり
(集合) 望仙荘8:00 仙ヶ岳南
東尾根基部10:00 仙ヶ岳11:00
(昼食) 12:30 1仙ノ石13:00 1

仙ノ石南東尾根標高15・00―望仙
荘16・30(解散)
何人かのおよねがありました、
一度もこいっよしたことが無い
方にOKだす度量はありません。
慶道になった袖道を乗り越えて行
く。取り付く尾根を間違えて登り
降り反対になり、直接に山頂へ到
達。仙ノ石からの南東尾根は岩稜
の目晴らしのよいコース、ゆっく
りと降りました。

(参加者)吉村 昭 永戸鉄治
池田繁美 高野芳彦 宮村信夫
水谷俊之 今岡民代 山野志保江
伊東弘隆 笹岡庄蔵 的場たか子
真島 和 真島知恵 平岡くみ子
宮田伸子 村田紀生 柴田小夜子
◎筒井克治 (計18名)

スノーハイキング
木曾・御嶽山

(自然観察山行171)

3月25日(夜)27日(日)
前夜発一泊2日 ◎鷺見守康
*最少催行人数に達しなかったた
め中止しました。

武生・日野山
3月20日(日) 雨のち晴れ
(集合)北穂道南条SA9・00(車)

日野神社9・45―室堂10・45―日
野山11・55(昼食)13・00―室堂
13・25―日野神社14・25(解散)
雨の中の雪山登山。頂上は16.5
℃の積雪。暖かい小屋の中で昼
食。
(参加者)井上聡美 井上由紀晴
堀江房樹 村田紀生 的場たか子
中山 勇 白木良弘 白木やす子
柴田小夜子 ◎高島伸浩(計10名)

淡路・常陸登山
3月27日(日) 晴れ

(集合)JR明石駅8・00(船)
宮島8・45―原山9・45―池・ア
ブローチ終点10・15―常陸寺11・
05―常陸寺山11・15―常陸寺11・
25(昼食)12・10―大塔峰12・55
1みみらし台13・25―14・00―妙
見山14・05―10―竹林14・25―小
井15・15(バス)岩屋16・25―40
(船)明石駅16・55(解散)

宮島ではあなごを焼く香がたま
らない。昼食時に食べたが、その
美味しいこと、常陸寺は紅梅白梅
が満開。そして、心算若く苦の
縄。妙見山では椿の大木が純白の
花を付けていた。いたる所で豪雨
災害の跡があり、踏破できるか心
配だったが、みなさんのエネルギー

に頭が下がった。

(参加者)堀尻香織 角田一江
栗橋宗吉 栗橋有子 佐野信江
小谷和子 森本 勝 森本淳子
吉藤孝次 柳川常雄 前田喜久子
岩越健司 上田直代 村田はる江
河合敏行 森 瑞代 河本美千子
◎福開 章 ○八木四郎
(計20名)

慶峰から釈迦谷山・城山・水堂
(北山ちよと歩き65)

3月30日(日) 晴れ

(集合)阪急四条大宮駅8・20
30(バス)慶峰源光庵前9・20―
釈迦谷山10・10―京原路10・50―
城山11・20―水堂峰12・10―水堂
神社12・15(昼食)13・20―城山
林道13・50―船山分岐14・45―船
山火床15・15―西賀茂車庫前15・
35―40(解散)

二つの三角点の山、そして六世
紀頃の仁徳天皇時代の水堂を見学
した。船山の火床(大文字の船形)
から京都市街の八割が見られた。
京都の里山は歴史の豊かなが所が多
い。
(参加者)井上聡美 井上由紀晴
市野博文 豊村雅子 野々山保夫
吉藤孝次 志水明美 野々山明美

播磨西郡
徳部古道・つづじ尾根

4月3日(日) くもり

(集合)JR播磨新宮駅9・00
07―お玉の清水9・36―峠10・22
―砥岡峠10・32―馬立分岐11・00
―池ノ池11・15(昼食)11・50―
池ノ山12・10―鉄塔13・05―的場
山13・35―三坂神社分岐14・03―
鶴龍山14・20―30―龍野城14・45

◎呉山繁三 (計62名)

1(大名行列見学)―磯油資料館
15・15―35―木滝野駅15・55(解
散)

水布袴コースに取り付いて、ア
ヒゼ・コバノミツバツツジの花に
出会って楽しみも東の間、倒木が次々
と現れて歩きだりくくったり。里
山の自然林を縦走して展望を楽し
んだ。下山して古式ゆかしい大名
行列に出会う。龍野城はしだれ桜
が五分咲きで、桜は蕾影らむ程度
であった。

(参加者)堀尻香織 角田一江
石田哲一 小谷和子 森美恵美子
森本 勝 森本淳子 河本美千子
松村雅子 吉藤孝次 河合敏行
上田直代 原 文子 光川 三美子
須藤淳子 林 信男 上田久子
高木忠夫 フリッツ知恵子
岡田東美子 ○岡田 昇

◎福開 章 ◎古賀慶一(計18名)

花の霊仙山西南尾根

(鈴鹿を歩く213)

4月3日(日) くもり
(集合)甲津倉登り口広場7・50
(車)今池8・20―笹峰9・40―
近江原別荘11・00―南宮原11・30
(昼食)12・30―霊仙山13・00―
岩ノ峰13・30―林道14・15―行者

霊仙山西南尾根(鈴鹿山69)

4月3日(日) くもり
(集合)JR龍ヶ井駅8・20―25
(車)いぼと地蔵8・45―びん
ざか峠9・15―五合目付近11・00
―六合目お宿舎北11・25(昼食)
12・10―五合目見晴台12・25―汗
ふき峠12・55―登山口13・20―い
ぼと地蔵14・40(車)龍ヶ井駅

◎岩野 明 (計21名)

霊仙山西南尾根(鈴鹿山69)

4月3日(日) くもり時々雨
(集合)叡道二ノ瀬駅9・00―10
―夜泣峠9・40―45―大岩10・30
―山幸橋10・45―50―満野峠11・
30―水堂神社12・20(昼食)12・
50―城山13・15―20―京原路13・
45―55―轟峰源光庵前バス停14・
45(解散)

◎高野 芳彦 ◎山田明男(計18名)

京都北山・二ノ瀬から慶峰

4月7日(日) くもり
(集合)JR京都駅7・15(バス)
橋大神社9・35―45―井谷谷No.3
標識10・30―No.5標識10・45―No.
6標識11・10―北の頭―入道ヶ岳
11・55(昼食)12・55―二本松尾
根―池ヶ谷分岐13・20―橋大神社
14・30(バス)京都駅17・30(解
散)

◎塚元一彦 (計3名)

鈴鹿・入道ヶ岳

(平日ふれあいハイイク51)

の勉強をしながら早春のコースを
予定通り歩いた。
(参加者)松田 久 永井政昭
◎塚元一彦 (計3名)

栗橋有子 中嶋日出男
本木淳子 栗本忠夫 砂原東美子
木下朝子 宮野孝子 大塚彰代子
山岸勝雄 秦 康夫 美代子
藤本桂吉 伊藤正延 佐古田文子
矢野 稔 柳 照司 藤 美奈子
妹尾 正一 岡田男子 松井トキ子
宮崎紀正 入江武史 松上美代子
和田直樹 岩村春子 光川三美子
杉本忠雄 中村英雄 横川ゆり子
松本忠雄 小山明美 赤松しげみ
渡辺早月 磯部 純 中村 保
後藤純子 湯浅康夫 湯浅みや子
中尾博子 谷 守 山盛加奈子
星野正弘 林 弘毅 宮野孝次郎
川上久登 岩本彩子 原 りとえ
平 幸子 石原君子 朝倉松雄
安良陽子 金谷 昭

京都北山・明神谷から愛宕山

4月9日(日) 晴れ
(集合) 清滝8・40〜50 明神谷
集合9・13 明神池10・50 表参道7(日)12・05(夜)12・45

明神池を始め池の多い明神谷を
廻行し、表参道七丁目を経て愛宕
神社に参拝。三つ岩より古石ノキ

(参加者) 木村 豊 森本幹雄
宮下淳一 井上彰美 井上由紀晴
山科邦彦 小柴大直 松上英代子

山口弘弘 上田正子 吉野愛子
(参加者) 栗橋崇吉 栗橋君子
吉塚孝次 沖 伸 青木一雄

春の花を探し、雪解け後の爽れ
たコグロミ谷を登る。真ノ谷出合
から残雪の御池池へ登るが、下見

(参加者) 栗橋崇吉 栗橋君子
吉塚孝次 沖 伸 青木一雄
木村 豊 松井明志 市野博文

4月16日(日) 晴れ
(集合) 京阪山町駅7・40(バス)
約原9・50 上子林道10・

山根弘美 角田二江 竹田英美
小松志信 井上恭子 武部美秀子
岩本彩子 武村千鶴 ○磯部 純

4月16日(日) 晴れ
(集合) JR大塚駅9・00(バス)
谷汲温泉16・00(入浴)16・40

法ヶ岳11・00 鉄塔12・00(昼食)

法ヶ岳11・00 鉄塔12・00(昼食)
12・40 横塚寺15・30 40(バス)
谷汲温泉16・00(入浴)16・40

吉野・青根ヶ峰(鈴鹿遊山7)
4月9日(日) 晴れ
(集合) あきつの小野公園8・00

(参加者) 栗橋崇吉 栗橋君子
吉塚孝次 沖 伸 青木一雄
木村 豊 松井明志 市野博文

谷山1・35 上野原製菓学校12・
05(昼食)12・45 谷崎峠13・45

4月16日(日) 晴れ
(集合) JR大塚駅9・00(バス)
谷汲温泉16・00(入浴)16・40

法ヶ岳11・00 鉄塔12・00(昼食)
12・40 横塚寺15・30 40(バス)
谷汲温泉16・00(入浴)16・40

4月16日(日) 晴れ
(集合) JR大塚駅9・00(バス)
谷汲温泉16・00(入浴)16・40

武生・野見ヶ岳
4月16日(日) 晴れ
(集合) 北陸道南SA8・30(車)

4月16日(日) 晴れ
(集合) 近鉄上本
野駅8・00(バス) 尾野原口11・

津大崎の桜は一週間先で残った

津大崎の桜は一週間先で残った。
(参加者) 栗木光雄 佐野信江
中村英雄 栗橋崇吉 栗橋君子

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

鈴鹿・御池岳

鈴鹿・御池岳
(ファミリーハイイク56)
4月14日(日) 晴れ

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

4月14日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
鞍掛トンネル東口9・25 35

今回から山道の多い中辺路コースに入り、ハイキングらしい古道歩きだった。春らんまんの下、のんびりと峠を越え、王子を訪ねて歩いた。山の中の御湯温泉でもゆっくりできた。

(参加者) 高松雅子 野末あや子 宮野敏子 中川光郎 武部美美子 森本 勝 森本淳子 河原美代子 小田朝子 和和穂子 道平きわみ 中川節子 岡崎知子 村田はる江 中村静香 高橋静治 小河美奈子 岩崎健司 山藤勝美 吉原孝次 東村由美 飯田愛子 馬籠忠男 盛 敏子 ○呉比呂美

○安倉正勝 ○村田智俊(計17名)

イブネ・鏡子・深谷山・鏡子ヶ口
4月17日(晴) 晴れ
(集合) 江崎尾神橋橋広場8・00 (車) 藤切谷林道入口8・30 シデの太木9・50 杉峠11・00 佐野峠11・35 イブネ11・55 鏡子12・15 (昼食) 12・50 フナツボ13・15 深谷山14・15 大輪14・30 水舟の池14・40 鏡子ヶ口東峰15・30 紅葉尾17・20 (解散)
さわやかな登山日和、早春の山はタムシバ・ダンコウバイ・ヤマ

ルリソウ・ハルリンドウ・イワウチワ、そしてミスミソウのピンクの花等愛でた。杉の木平からは大バノラマが展開した。鏡子のヒカゲカズラの結核で楽しい昼食。フナツボ、水舟の池、鏡子ヶ口、紅葉尾へと長大な連続の長旅は32500歩。しかし思い出に残る一日となった。

(参加者) 北村 稔 北村つねみ 池田繁美 大石村美 落合ひろ子 高野芳彦 栗本敏夫 嘉瀬井 豊 金谷 昭 水谷俊之 佐古田文字 武村千鶴 村田紀生 伊藤喜久男 水戸鉄治 榎田勝利 山野志保江 服部 堯 白木良弘 白木やす子 三下伸夫 友田 毅 友田美保子 緒方由子 谷 久雄 石田真由美 藤部 純 宮野哲郎 松上美代子 多賀周二 多賀久子 奥野二郎 小林 修 一芝義雄 一芝美知子 岩本彩子 谷 守 加納由紀子 杉山能久 小松志信 炭田明美 ○山田登三 ○後藤康幸

○岩野 明 (計14名)

三河・黒山と天山と蔵王山 (展望の山3)
4月17日(晴) 晴れ
(集合) 名鉄河和駅7・30 (車)

黒山8・00(車) 崎崎8・55(フェリ) 伊良湖9・40 伊良湖灯台 往復10・10(車) 大山登山口10・40 大山11・25 (昼食) 12・00 登山口12・35(車) 磯七朝霧地13・15(車) 蔵王山14・20(車) 地下鉄上社駅16・10(解散)

「宮三角点」を見に入った点標名「池の上」の三角点は「黒山」と名前が付いた場所であった。下見せずに西から入ったので時間がかかり、一等三角点の「黒山」へは行けなかった。大山は急登だったが見晴らしは良かった。磯七原湿地のシテコブシはほとんど枯死であった。時間があったので蔵王山も車で登って4等三角点に触ってきた。

(参加者) 春見重美 南 智恵子 伊藤敏子 伊藤 明 伊藤重美子 栗橋崇吉 栗橋哲子 砂原重美子 中神恵子 吉田輝子 中谷榮美子 窪坂ソノエ 江川ふじこ 稲葉三千代 山田妙子 ○山田明男 (計16名)

要岩山シリーズ5
コメカイ尾根道からジープ道 (火曜ハイイク5)
4月19日(晴) 晴れ

(集合) 清滝バス停9・00 落合9・30 40 コメカイ尾根道 1ツツジ尾根道 11・03 15 17 七合目 11・25 11 旧ケルブル駅 11・43 (昼食) 12・40 尾根道 15 合目 13・00 ヒグラシの滝 13・20 35 梨の木林道 13・55 14・05 (解散) 清滝バス停 14・40 尾根の道は急な登りの連続である。ゆっくりゆくりと心に言い聞かせながら登る。まだまだリリーダとしての勉強中。コバノミツバツツジが満開で、花を見ながらの休憩が多くなる。山頂でも20度と暖かく快晴に恵まれた山行だった。ヒグラシの滝を見学して下山する。林道ではめずらしくジュンランを見た。

(参加者) 井上隆英 井上由紀昭 植本敏子 市野博文 田所真由子 船越利明 山口邦彦 藤野つるみ 小栗大直 西風 稔 大須賀 實 山岸勝雄 山藤勝美 木下朝子 塚本中次 加藤元彦 後藤美子 本間 隆 本間繁子 志木明美 尾崎光子 入江武史 堀江八重子 小倉和子 中村英雄 森本幹雄 青木一雄 小松志信 西村三枝 和直直樹 山根弘美 大東 哲 村井寿和 宮本真幸 加納由紀子

木村 豊 宮野真子 藤井むつみ 杉本昌士 石原君子 渡部和英 豊村穂子 林 弘毅 ○長尾一令 ○沖 伸 ○田中善雄 ○仲谷智司 (計17名)

大峰・柏原山から四寸岩山
4月21日(晴) 晴れ
(集合) 近鉄下市口駅9・10 20 (タクシー) 中戸集落9・45 10・00 柏原山11・15 焼畑遺跡前11・25 四寸岩山12・40 (昼食) 13・00 15 高原山14・20 福徳寺15・20 15 杉の湯バス停16・20 17・06 (バス) 大和上市駅18・00 (解散) 柏原山への登山道と並行して林道がつくられていた。高原山まで林道が続いているのかと心配したが、四寸岩山からは昔妻わらぬ尾根道が我々を迎えてくれた。

(参加者) 荒木光男 緒方由子 塚本忠次 竹田勝英 大園加代子 今西和子 森田久子 前川和穂子 吉原孝次 堀内信智 佐々木輝子 渡部和英 岩本彩子 木村 豊 堅田 弘 山根弘美 藤本桂吉 奥田則夫 松田和恵 砂原重美子 東山澄夫 石倉真佐子 ○井上由紀昭 ○西下和和 (計24名)

静岡
蕎麦畑山・高塚山・鷲ヶ岳・岩嶽山縦走と八高山
(自然観察山行174)
4月22日(曇夜) 24日(晴)
前夜発1泊2夜 (集合) JR岐阜駅23・00(バス)
(22日) 晴れ (集合) JR犬伏 (23日) 晴れ (バス) 山犬の段 5 10 6 05 蕎麦畑山6 35 45 五橋沢7 15 13 三ツ合 7 50 高塚山8 35 (9 00 に出発) 高塚山に戻る 10 30 京丸山13 00 (昼食) 13 30 林道 出合14 15 蕎麦畑山14 50 15 00 林道ゲート16 20 45 (バス) ベンション17 35 (泊)
(24日) 晴れ ベンション6 50 (バス) 大井川鉄道福用駅8 25 30 小文現分岐9 45 50 馬王平10 05 八高山10 45 11 馬王平10 30 11 福用駅12 30 35 (バス) 川根温泉12 45 (入浴・昼食) 15 00 (バス) 岐阜駅 18 45 (解散)

高塚山から鷲ヶ岳を自指して南にのびる尾根を下降し、激しいやぶのなかで1時間半格闘したもののルートを確認できず、いったん撤退。再検討のすえ、山頂から

西に続くテープを拾いルートファインディング。鷲ヶ岳への尾根筋ルートを見出し出して前進した。いくつものピークを越え、2時間半後やっとの思いでたどり着いた山頂は、なんと京丸山だった。リリーダは愕然とし、一瞬過剰したような心理状態になった。皆さんからは「近づきたい京丸山だから取っ替えた」と慰められたものの、リリーダにはトラウマ(?) となってしまった。夜行明けの10時間余りに及ぶ登高に耐えた皆さん(とりわけ女性陣) のカンパりに感謝あるのみ。

(参加者) 池田繁美 落合ひろ子 石川 敏 岡本佳子 武藤由美子 沖 伸 川島勲美 村田はる江 栗橋崇吉 栗橋哲子 森 美香子 仲谷礼司 平田輝美 松村穂子 三井敏一 佐々木三千代 若林文夫 ○折野重彦 (計19名) ○飯見守康

鷺川左坂から滝山 (比良を歩く38)
4月24日(晴) 晴れ
(集合) JR北小松駅9・02 1 鶴川出合前橋の広場9・35 45 1 ナメ滝出合10・05 15 直角の池10・

35 45 最後の谷の分岐口 35 1 滝山口 50 (昼食) 12 30 1 オトシへの分岐 12 45 1 長谷登山道出合 13 10 1 涼峠 13 25 30 1 雄滝への分岐 13 50 1 楊梅ノ滝遊道ト 13 45 14 05 1 登え滝登山口 14 20 30 (解散) 北小松駅 14 45 快晴のカンカン照りだったが、登りは水流に沿った谷筋の木陰道、くぐりは樹林帯の尾根筋、締めくくりに高塚あふれる流況物で、暑さを感じない一日だった。鷺川左坂は、いまも比良の秘境にふさわしい空気を残している。

(参加者) 堀田輝子 瀬戸内伸子 長尾一令 馬籠忠男 小川富士雄 木本慈子 武部 剛 中嶋日出男 金森節子 林 正義 松上美代子 青木一雄 武村千鶴 岡本美奈子 平塚明美 藤野穂子 砂原重美子 和和穂子 牧 和夫 瓜取利明 伊丹朝子 山本友子 小林 修 岩本彩子 南 利恵 網本美恵子 加藤元彦 ○宮ノ淳一 ○桑 康夫 (計29名)

若狭・青葉山 (近畿百名山に登る80回)
4月24日(晴) 晴れ
(集合) JR京都駅7 40 45

若狭・青葉山 (近畿百名山に登る80回)
4月24日(晴) 晴れ
(集合) JR京都駅7 40 45

(バス) 松尾寺10・10→30→西峰
11・45(昼食) 12・35→青葉山
(東峰) 13・10→20→金尾羅大瓶
現13・50→14・00→展望台14・05
→中山寺15・00→30(バス) 京都
駅18・00(解散)

昔はロープ・クワリ場の所に鉄
梯子が設置され、安全に歩けるよ
うになっている。イカリソウが道
中いたる所に咲き、日本海もコバ
ルトブルーで静かに澄みきって
いた。西峰の岩場の展望台からは丹
波の山並みから京都北山までなが
うわたりを眺めた。

- (参加者) 市野博文 宮野哲郎
宮野敏子 田中善雄 佐野信江
塚本忠次 岩村春子 森本隆雄
小谷和子 多賀久子 道平まわみ
妹尾正 吉松孝次 久保田裕子
後藤純子 川口せつ 武部美美子
堀内留智 磯野重治 岩崎健司
森本 勝 森本淳子 山科邦彦
西原俊孝 西原裕子 西原良彦
木村 豊 山高義治 山高多恵子
山根弘美 渡部和美 波多野恵子
澤田高治 山根邦枝 ○波比宿美
○安倉正勝 ◎村田智俊(計40名)

佐々里峠から芦生トロッコ道

(北山ちよと歩き66)
4月27日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅7・10(バス)
佐々里峠9・00→10→鹿野展望台
50→11・00→トロッコ道→カスラ
谷展望所12・10(昼食) 13・05→
七瀬谷13・50→14・00→カスラ谷
作業所14・45→須後16・20→40
(バス) 京都駅19・10(解散)

佐々里峠から灰野までは悪路難
所が多かった。芦生の大自然林
のなか、美しい流れの由良川源流
に沿ってトロッコ道を七瀬谷まで往
復した。

- (参加者) 井上登美 宮野敏子
沖 伸 白鳥忠子 宮野直子
栗橋隆吉 栗橋裕子 藤井むつみ
金谷 昭 塚本忠次 野里マツヨ
小栗大直 上住忠雄 砂原恵美子
横江 進 佐藤孝次 志木明美
米谷建治 山田昌子 佐野田文子
入江武史 布野美英 山岸勝雄
伊藤正延 宮崎紀正 中村 保
山根弘美 後藤純子 秦 美代子
和田直樹 星野正弘 原 みとこ
川上友空 細野幸也 岩本いすゞ
田中順子 平 幸子 山盛加奈子
若林文夫 林 弘毅 ○谷 守
○秦 康夫 ○井上由紀晴
◎奥山繁三 (計44名)

揚州・フトウガ峰

美濃・舟伏山
(ファミリーハイク57)
4月27日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅6・45(バス)
あいの森広場10・40→50→桜
峠11・30→35→みのお平11・50→
55→イワヅクラ群生帯展望地12・25
→40→舟伏山13・00(昼食) 14・
00→小舟伏山14・15→展望台14・
35→阿茶陀如来の峠15・00→05→
あいの森広場15・50→16・00(バ
ス) 新大阪駅20・00(解散)

青空の下、お目当てのイワヅク
ラは見事に満開。カタクリその他
数え切れない花の道を歩くと、歩
いた、噂どりの花の山に、忘れ
られない思い出ができた。

- (参加者) 吉松孝次 木村 豊
青木一雄 市野博文 加納由紀子
兼田幸子 眞田久子 道平まわみ
平田佑美 渡部和美 中尾美智子
長沢佑美 渡部和美 中尾美智子
本家淳子 岩崎敏子 木下朝子
西 悦子 田中夢子 山中あさみ
盛 敏子 山藤美美 石井恵美子
古川正子 岩本彩子 菅 キヤウ
妹尾正 三橋直文 田所真里子
本間昭恵 神 照司 神 美栄子
辻垣詞子 加藤浩二 大園明子
松井明忠 清水文子 中澤ちず子

春のロングコースを歩く

大谷登子 秋葉正人 藤本桂吉
○西原良彦 ◎木村太郎(計59)
佐渡・ドナン山から金山北山と
金山からドナン山・新海・
角田山(自然観察山行175)
4月28日(日) 晴れ
前夜発2泊3日
(28日) 晴れ (集合) JR岐阜
駅23・00(バス)
(29日) くもりのち晴れ (送迎
バス) 佐渡汽船新港ターミナル4・
45(朝食) 6・10(朝食) 西津浦・
10→30(バス) アオネバ溪谷入口
8・00→十字路9・50→ドナン
山10・35(朝食) 11・15→ド
ナン山11・35→ドナン山12・
35(朝食) 13・00→車道→アオネ
バ溪谷入口15・00(バス) 岐阜16・
00(解散)

(30日) 晴れ 宿7・15(送迎バ
ス) 沢口道入口7・30→沢口登山
口8・05→蛭ヶ沢→観音池の清水→
追分9・15→いじょう池9・30
→40→アノ島9・55→池子10・
25→35→夫宿10・50→金山北山12・
00(朝食) 13・00→14の岳展望小
屋13・40→妙見山14・05→白雲台
14・15→15・00(バス) 宿15・45
(計)

- (参加者) 市野博文 宮野哲郎
宮野敏子 田中善雄 佐野信江
塚本忠次 岩村春子 森本隆雄
小谷和子 多賀久子 道平まわみ
妹尾正 吉松孝次 久保田裕子
後藤純子 川口せつ 武部美美子
堀内留智 磯野重治 岩崎健司
森本 勝 森本淳子 山科邦彦
西原俊孝 西原裕子 西原良彦
木村 豊 山高義治 山高多恵子
山根弘美 渡部和美 波多野恵子
澤田高治 山根邦枝 ○波比宿美
○安倉正勝 ◎村田智俊(計40名)

西津浦6・45(バス) 新海
港8・30→45(バス) 登町角田山
桜尾根コース登山口9・30→40→
灯台コース合流点11・05→角田山
11・10→30→はたるの里公園じょ
んのび館12・30(入浴) 13・30
(バス) 米原駅20・10(バス) 岐
阜駅21・20(解散)

今年のはじめは例年になく残雪が
多く残存を断念。1日目はア
オネバ溪谷からドナン山に登り、
2日目は麓から直接金山北山に登
った。色とりどりのオオミスマソウ
とカタクリの群落の密度の高さと
大きさには驚嘆するばかり、二度
目の佐渡もすばらしかった。角田
山は華やかな時期は過ぎたものの
里山としては驚くほどの花の山だっ
た。

- (参加者) 井上登子 石倉真佐子
栗橋隆吉 栗橋裕子 大園加代子
金森節子 首藤百子 藤野美紀恵
上田久子 須藤一令 林 えい子
中谷和子 原 文子 光川二美子
堀江房樹 松村桂子 宮本真幸
宮本悦子 若松 寛 若松朝子
○三井 一 ◎警員守康(計21名)

4月29日(日) 晴れ
(集合) JR加古川駅8・00(バ
ス) 川上9・30→黒瀬堂9・40→
尾根取付10・10→鞍馬コル10・30
→P1040→10・50→ヒシロガ
峠11・05→P1033→11・20→
千軒峠11・35(集合) 12・20→
々峠12・42→56→フトウガ峰13・
30→50→杉谷分岐14・00→林道14・
35→生野カントリー15・05(バス)
加古川駅16・32(解散)

コルへの道の無い急登はこたえ
たが、登り切ると自然林が広がり
その向こうにフトウガ峰がゆった
りと覗きこえていた。芽吹き前の
自然林は、その新緑と秋を想像さ
せた。林床にはフワッとしていて
踏みしめる足に心地よい。股ヶ峰
からフトウガ峰へ展望を楽しんで
歩いた。アセビの花が盛りで、山
の中は春たけなわであった。

- (参加者) 堀房樹 小谷和子
森本 勝 森本淳子 森本真幸子
西原俊孝 西原裕子 河本美子
河合健行 馬籠正男 岡田恵美子
岩田育士 高山 雄 東中次夫
山本武臣 山本令子 古賀玲子
フワッ知恵子 ○岩崎健司
◎岡田 昇 ◎古賀慶一(計21名)

春のロングコースを歩く
北摂・箕面駅から妙見口駅
4月29日(日) 晴れ
(集合) 阪急箕面駅8・00→箕面
滝8・45→50→箕面川9・30
→1みの記念の森芝生広場10・10
→25→鉢伏山10・40(朝食) 11・
20→明ヶ田尾山12・00→10→高山
光明寺12・30→川尻→法輪寺13・
50→14・10→光明山分岐14・30→
天台山14・45→吉川峠15・40→能
勢電鉄妙見口駅16・10(解散)

新緑の森を明ヶ田尾山まで歩き
いったん高山集落へくだり、車道
を1時間強でやっと法輪寺へ着い
た。ゆっくり休憩をとり、天台山
へ登り、気持ちのよい尾根を伝っ
て妙見口駅へくだった。解散後、
駅前の食堂で飲んだビールはうま
かった。

(参加者) 萱下淳一 山田豊三
木下朝子 下村和弘 塚本忠次
伊藤正延 林 信男 谷 守
上坂知子 ○安倉正勝
○波比宿美 ◎村田智俊(計15名)

鈴鹿・雲仙山(花巡り山行13)
4月30日(日) 晴れ
(集合) JR米原駅8・10(タク
シー) 谷山谷冷水場8・40→チド
リノキ河原9・40→45→滝ヶ淵10・
55→11・05→柏原分岐12・00→
08→鉢塚山12・30(朝食) 13・10
→雲仙山13・20→鉢塚山13・40→
お虎池14・00→見晴台14・30→40
→汗ふき峠下無人販売所15・15→
25→養老場バス停16・30→58(バ
ス) 龍ヶ井駅17・10(解散)

お目当てのイチリンソウ・キバ
ナイカリソウにも咲き、ヤマシヤ
クヤク・トウゴクサバノオも咲き、
フレンドウの大群生にも感激す
るなど、数え切れない花々に酔い
ました。

(参加者) 木村 豊 山根弘美
上山正一 西原良彦 堀田輝子
山藤美美 前田初雄 森田久子
松田和恵 田中博之 田中友美恵
下村啓子 中川光郎 道平まわみ
○岩崎健司 ◎田中 明(計16名)

15 銅山峰ヒュッテ16・40 (泊)
 (1日 雨) 銅山峰ヒュッテ6・
 30 東山のゴルフ・15 西赤石山
 8・10 20 物任頭8・55 9・
 00 石室越9・40 赤石山荘10・
 00 (昼食) 10・40 第一歩点11・
 00 10 第一歩点11・40 50 1
 瀬川合分岐丸木橋12・20 瀬川分
 岐12・55 13・00 夜津登山口13・
 15 夜津山荘13・20 (泊)
 (2日 雨のち晴れ) 夜津山荘8・
 35 (バス) クマガイ草園ゆらぎの
 森8・55 10・00 (バス) 道後温
 泉13・05 (入浴・観光) 14・55
 (バス) 伊予土居16・40 (泊)
 (3日 晴れ) 伊予土居6・45
 (バス) 夜津登山口7・45 8・
 00 瀬川合分岐8・35 第一歩点
 点9・20 10・00 瀬川合分岐10・
 40 夜津山荘11・25 40 (バス)
 マイントピア別子12・35 (入浴・
 昼食) 14・00 (バス) 新大阪駅19・
 45 (解散)

ミツバツジや住友銅山跡を見
 ながら銅山越に到着。荷物をデポ
 して3等三角点の西山へ登り、笹
 ヲ峰から平家平の山腰やツナクリ
 山や赤石山系のアケボノツジの
 眺望を楽しんだ。銅山峰ヒュッテ
 では見頃のヒカゲツツジ・ミツバ
 ツジ・シコクカクコウソウが迎
 えてくれた。翌日、夜半から降り
 出した雨のなかを出発。前赤石山
 の岩峰南面を越く岩場では幸い
 風が弱く無事通過。雨脚が強くな
 ったため東赤石山登頂は諦め、川に
 なった登山道を夜津へくだった。
 3日目、前夕に止んだ雨が夜から
 明け方まで降り続いたため、山行
 はオフとした。最終日は、東赤石
 山への登山道を第一歩点まで再
 び登り、アケボノツジやシヤク
 ナゲの写真を撮った。下山時には
 ヤマシヤクヤクも見つけた。二ツ
 岳と赤星山は再挑戦の宿願となっ
 た。

(参加者) 吉嶺 清 加納由紀子
 小松志信 田中善雄 関口恵子
 沖 伸 森 瑞代 松尾麗子
 加藤元彦 船越利明 船越みよ子
 石川 敏 岡田重章 草野智雅子
 東山澄夫 伊丹耐子 川島野美
 ◎狩野東彦 (計18名)

鈴鹿・御在所岳と釈迦ヶ岳
 (近畿百名山に登る81回)
 5月4日(祝) 5日(祝) 1泊2日
 (4日 晴れ) (集合) 近鉄湯の
 山温泉駅10・50 (タクシー) 中道
 登山口11・15 30 1おはれ岩12・
 00 キレット手前岩峰12・30 (昼
 食) 13・00 朝陽広場14・00 30
 1 御在所岳14・45 45 1 根ノ平峰
 20 1 園見岳15・40 45 1 根ノ平峰
 16・35 45 1 朝明ヒュッテ17・40
 (泊)
 (5日 晴れ) 朝明ヒュッテ7・
 00 藤原コース-松尾尾根頭9・
 40 50 釈迦ヶ岳10・00 05 中
 峠11・30 八風峠11・40 三池岳
 岩峰11・50 (昼食) 12・30 三池
 岳東尾根八風射撃場13・40 八
 風キャンプ場13・50 14・30 (解
 散・タクシー) 湯の山温泉駅・片
 岡温泉14・50
 溝開のアカヤシオが点在する御
 在所岳へ、展望の良い岩場の続く
 中道を登った。園見岳も山腹が真
 赤な花で埋っていた。翌日も晴れ
 て咲いた。釈迦ヶ岳へは樹林のなか
 の階段を急登コースを登った。三
 池岳の下りの東尾根は急坂だった
 が、イワカガミが群生で咲き、シャ
 クナゲも咲いていた。
 (参加者) 多賀久子 村田はる江
 岩村登子 宮野哲郎 宮野穂子
 川田洋子 山高義治 山高多恵子
 川戸せつ 山本博子 水見真砂子
 高橋静治 竹田勝英 山縣 隆
 三上伸夫 徳田暢子 宮路ちへ子

菅井克己 朝倉隆雄 波多野孝子
 ◎呉比呂美 ◎安倉正勝
 ◎村田智俊 (計23名)
 (3・4月の参加者 1200名)
 ◎山行リーダー紹介
 (平成17年6月現在)
 岩野 明(鈴鹿を歩く)
 滋賀 0748(33) 7215
 稲垣逸夫(三重の山)
 三重 0593(71) 0246
 狩野東彦(週末ハイク)
 京都 075(933) 1458
 金谷 昭(周辺の山)
 京都 075(581) 7947
 木村太郎(ファミリーハイク)
 大阪 06(6834) 5488
 大坂 06(6834) 5488
 吳山繁三(北山ちよと歩き)
 京都 075(661) 1309
 土倉慶二(主に兵庫県の山)
 兵庫 0794(26) 1890
 兵衛 剛(主に兵庫県の山)
 須磨岡 兵庫(主に兵庫県の山)
 兵庫 0792(73) 3307
 鷲見守康(自然観察山行)
 高島伸浩(数寄江周辺の山)
 高島 0583(83) 3978
 福井 0770(23) 2443
 田中 明(元花巡り山行)
 京都 075(954) 5758

新ハイキングクラブ関西
 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
 の山(隔月刊・年6号発行)」の
 定期購読者を中心としたハイキン
 グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
 ドなどで、関西のハイキングコー
 スや山の情報を発信しています。
 山の知識を深め、健康な身体をつ
 くり、自然のなを歩く喜びをと
 もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
 25年発足以来、東京を中心に55年
 間余、好評のうちに活動していま
 す。関西は平成3年発足で14年目
 に入りますが、すでに多数の会員
 で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
 て参加できます。この山行例会を
 通じて楽しい山歩きを、多くの仲
 間たちと味わいませんか。
 リーダー(係)はすべて無償の
 奉仕で、各自で切符を買い茶代を
 払い、宿泊料もすべてワリカンで
 す。

会員には「新ハイキング関西の
 山」を毎号お届けします。
 四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまで
 も保持するのはすばらしいことで
 す。これから始めてみたい人、す
 でにベテランの人みなさんご入
 会いただけます。

入会金 500円(パジャナ代)
 年会費 3000円(送料共)
 入会の申し込み(随時)はこの
 雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
 ださい。氏名(ふりがな)及び第
 何号からの送本かを忘れずにご記
 入ください。

なお、定期購読をご希望される
 方も会員になっていただきますと、
 毎号確実にお手元に届きますので
 便利です。
 切手530円分をお送りになれ
 ば、「新ハイキング関西の山」最
 新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回同程
 度の山行例会を計画・実施してい
 ただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいも
 あり、楽しいものです。経験のある
 方や、やってみたいと思われる
 方は、新ハイキング関西までご連
 絡ください。マニュアル「リーダー
 必携」を参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介
 新しいお仲間のみなさんです。
 会員番号5073番から5094
 番まで(敬称略)。

- 【三重】 中井昭一 柴田小夜子
 瀬戸佐智子
- 【滋賀】 田中隆男
- 【京都】 崎山悦子 平田和子
 井上聡美 長谷川繁樹
 長谷川和子
- 【奈良】 田野精志 秋塚秀實
 金山真視
- 【大阪】 辻村清房 藤田洋子
 南田文子 笠置正紀
 河田英子 山口明道
- 【兵庫】 米山昌子 石田晃彦
 河内正治 淡河千賀子 (22名)

訂正とお詫び

82号(初夏) 36ページ下段文
 章の5行目「初川右岸から初川左股
 ……」は「初川右岸から初川左股
 ……」が正しい。
 82号(初夏) 109ページ二段2
 行目「樽ヶ榎手前登山口」は「樽
 ヶ榎手前登山口」が正しい。
 (編集室)

田中賢治(主に台高・鈴鹿の山)
 三重 0595(65) 3749
 塚元一彦(地蔵院山行)
 大阪 06(6933) 4125
 藤井克治(鈴鹿遊山)
 三重 0593(83) 4058
 寺井恒夫(平日ふれあいハイク)
 京都 075(811) 5231
 中西信行(京都北山・鈴鹿池)
 京都 075(313) 6023
 仲谷礼司(火曜ハイク)
 京都 075(952) 1577
 西上利和(主に大阪・奈良県の山)
 奈良 074(63) 7196
 秦 康夫(比良を歩く)
 京都 075(491) 2373
 村田智俊(近畿100名山に登る他)
 京都 0774(53) 2754
 森脇貞義(湖西の山)
 滋賀 0740(22) 5088
 山田明男(鈴鹿中山・雲頂点の山)
 岐阜 0584(56) 1466

毎号お求めになりたい方へ
 前もって書店に毎号ほしい
 と「購読予約」をされますと、
 どこかの書店でもお買い求めい
 ただけます。購読月の20日ごろ
 (隔月刊)の発売です。